医学概論

担当者：兪　今

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・人の成長・発達
・健康の捉え方
・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方
・障害の概要
・リハビリテーションの概要
・こころとからだのしくみの基本的理解
・生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
・疾病の概要

２.学びの意義と目標

・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方と概要について理解する。
・リハビリテーションの概要について理解する。
・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

準備学習(予習)

レポートやテキストを通し予習

準備学習(復習)

テキスト、プリント、問題集を参考に復習

授業計画

1. 人の成長・発達
2. 健康の捉え方・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方
3. 障害の概要・リハビリテーションの概要
4. こころとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解　こころとからだのしくみの基礎的理解
5. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (1)身じたくや移動に関するこころとからだのしくみ
6. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (2)食事に関するこころとからだのしくみ
7. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (3)入浴・清潔保持や排泄に関するこころとからだのしくみ
8. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (4)睡眠に関するこころとからだのしくみ
9. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (5)終末期に関するこころとからだのしくみ
10. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 (6)緊急時に関するこころとからだのしくみ
11. 疾病の概要 (1) 悪性腫瘍
12. 疾病の概要 (2) 生活習慣病
13. 疾病の概要 (3) 感染症
14. 疾病の概要 (4) 神経・精神疾患
15. 疾病の概要 (5) 先天性・精神疾患、難病

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病−医学一般　第2版』(中央法規出版)
長谷川 和夫 (著), 遠藤 英俊 (著) 『こころとからだのしくみ 生活場面・状態像に応じた支援の理解(介護福祉士養成テキスト17)』(建帛社)

評価方法

(1)出席:30% (2)WS:30% (3)レポート:20% (4)テスト:20%

衛生学入門

担当者：大江　敏江

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

１　内容

衛生学は疾病を予防し、健康の保持、増進を目標としている。平均寿命の大幅な伸長は医療の進歩よりも衛生環境の整備、栄養の改善、貧困からの脱却に負うところが大きい。
本講では、上下水道、感染症、室内環境、食中毒、国民栄養、生活習慣病など身の回りの問題を取り上げ、健康と環境の関係について学ぶ。

（教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」共通である）

２.学びの意義と目標

衛生学が「保健」の領域全般に関与し、医療・福祉との関連が深いことを理解する。そして２年次以降の「公衆衛生学」および「環境衛生学」への発展の基礎とする。
また衛生学入門は公衆衛生学、環境衛生学とともに社会福祉士国家試験科目「医学一般」の一部でもある。将来保健医療関係者との連携をはかるうえで、基礎となるものである。

準備学習(予習)

次週の教科書の該当箇所を読む。

準備学習(復習)

(1)授業ノート、教科書、配布プリントの順に読み返し理解する。(2)重要と指摘された箇所はよく復習する。(3)小テストは返却後復習し、よく理解する。

授業計画

1. 衛生学とは、水と健康1（上水）
2. 水と健康2（下水、水質汚濁）
3. 感染症とその予防1（成り立ち、感染症法）
4. 感染症とその予防2（予防対策、流行防止対策）
5. 感染症とその予防3（疾病予防と予防接種）
6. 感染症とその予防4（国内における感染症）
7. 環境の物理的条件1（温熱）
8. 環境の物理的条件2（感覚温度、不快指数）
9. 環境の化学的条件（酸素、窒素）
10. 室内環境衛生と環境の化学的条件（炭酸ガス、CO）
11. 太陽光線と健康１（赤外線の健康影響）
12. 太陽光線と健康2（紫外線の健康影響）
13. 騒音と難聴1（音のしくみと特徴）
14. 騒音と難聴2（音の健康影響と予防対策）
15. 食品衛生1（食中毒発生のしくみ）
16. 食品衛生2（おもな食中毒とその特徴）
17. 食品衛生3（わが国の食中毒の現状）
18. 食品衛生4（わが国の食中毒の予防対策）
19. 健康と栄養1（栄養の基礎知識）
20. 健康と栄養2（食事摂取基準）
21. 国民栄養の現状
22. 国民栄養の課題
23. 生活習慣と疾病（生活習慣病）
24. 循環器疾患の現状と予防１（高血圧性疾患）
25. 循環器疾患の現状と予防２（心疾患、脳血管疾患）
26. 悪性新生物の自然史と現状
27. 悪性新生物の一次予防、二次予防
28. 糖尿病、脂質代謝異常症の現状と予防
29. メタボリック症候群の定義・現状・対策
30. 試験とその解説

教科書

辻 一郎 『シンプル衛生公衆衛生学 2013』 (南江堂)

評価方法

(1)受講態度:20% (2)授業内小テスト:20% (3)中間テスト:30%
(4)期末テスト:30%
60%以上を合格とする。受講態度の悪い者は単位取得を認めない。

介護概論

担当者：高山　法子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容
・介護の概念や対象
・介護過程
・介護の技法（住環境の整備を含む。）
・認知症ケア
・介護予防
・終末期ケア

２.学びの意義と目標
・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。
・ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
・ 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。

準備学習(予習)

次回の授業について口述しますから、いわれた箇所を必ず読んでくること。
また、配布したプリントの空白を教科書をみて埋めること。

準備学習(復習)

A4のノートを準備し、1回受講ごとに、学んだ内容と感想をまとめ、授業終了5分前に
その箇所を広げておく。

授業計画

1. 介護の概念や対象（1）介護の概念と範囲
2. 介護の概念や対象（2）介護の理念
3. 介護の概念や対象（3）介護の対象
4. 介護過程
5. 介護の技法（1）家事における自立支援
6. 介護の技法（2）身支度・移動・睡眠の介護
7. 介護の技法（3）食事・口腔衛生の介護
8. 介護の技法（4）入浴・清潔・排泄の介護
9. 介護と住環境
10. 認知症ケア（1）認知症ケアの基本的考え方
11. 認知症ケア（2）認知症ケアの実際
12. 介護予防（1）介護予防の必要性
13. 介護予防（2）介護予防プランの実際
14. 終末期ケア（1）終末期ケアの基本的考え方
15. 終末期ケア（2）終末期ケアの実際

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)試験:70% (2)介護過程記録:15% (3)宿題:10% (4)出席:5%

介護技術

担当者：高山　法子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

２.学びの意義と目標

１．生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
２．利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。
３．利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考え
を深める。

準備学習(予習)

次回行う講義内容や演習内容のプリントを読んでおく。
演習に関してはシュミュレーションしておく。

準備学習(復習)

演習を行ってみて、介護者として大切な視点と、利用者の立場から考えたことをA41枚に記録し、翌週提出。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーションの基本
3. 身支度の介護
4. 身支度の介護演習
5. 移動の介護
6. 移動の介護演習
7. 睡眠の介護
8. 食事の介護
9. 食事の介護演習
10. 入浴・身体の清潔
11. 足浴の演習
12. 排泄の介護
13. 排泄の介護演習
14. 予想される事故とその対応
15. 住環境の整備

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈13〉高齢者に対する支援と介護保険制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)試験:60% (2)レポート:20%:宿題含む (3)出席:20%

介護実習

担当者：高山　法子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

寝たきり高齢者や疾病・障害をもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。

２.学びの意義と目標

１．生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。
２．利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。
３．利用者が自律（自立）するための援助方法および個別への対応の重要性について考え
を深める。

準備学習(予習)

グループで話し合う資料に目を通し、次回の授業までに自分の考えをまとめておく。

準備学習(復習)

受講した内容と感想をA4のノートにまとめておく。
参考文献を何回か提示しますから、文献を熟読し感想をノートにまとめる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション（共感と受容・自己開示）
3. 価値交流学習
4. 事例を通して考える
5. 〃
6. 〃
7. 〃
8. 〃
9. 利用者理解
10. 〃
11. スーパービジョン
12. 〃
13. 〃
14. 実習準備（１）
15. 実習準備（２）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート・実習記録:80% (2)出席・授業態度:20%:宿題含む

カウンセリング論

担当者：土屋　瑛美

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

今日カウンセリングは医療・教育・司法・産業領域など様々な領域で応用されている。本講義ではカウンセリングを初めて学ぶ人を対象に、カウンセリングの基礎的な知識や技術、カウンセリングを行う上での基本的な態度を学習する。体験学習や映像視聴を取り入れながら、授業を進めていくこととする。

２.学びの意義と目標

本講義はカウンセリングを初めて学ぶ人を対象とした入門講座である。体験学習や映像視聴を通して、カウンセリングとはどのようなものなのか肌で感じてもらうことを目標とする。加えて、心理的問題の理解のために必要な基礎的知識や技術を習得することを目指す。

準備学習(予習)

本講義は、体験を重要視している。体験学習を受けるための心づもりをしてくることを準備学習とする。

準備学習(復習)

授業ごとに配布されたプリントを復習し、知識の習得のための努力をすることを復習とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. カウンセリングの基礎理論
3. カウンセリングの基礎技法（1）話の聴き方
4. カウンセリングの基礎技法（2）話の聴き方（ワーク）
5. カウンセリングの基礎技法（3）応え方
6. カウンセリングの基礎技法（4）応え方（ワーク）
7. アセスメント（1）アセスメントとは
8. アセスメント（2）面接法・初回面接の重要性
9. アセスメント（3）心理検査の用い方
10. アセスメント（4）知能・発達検査
11. アセスメント（5）性格検査（質問紙法）
12. アセスメント（6）性格検査（投影法）
13. 心理的問題の理解のために（1）
14. 心理的問題の理解のために（2）
15. 発達臨床心理（1）生涯発達とは
16. 発達臨床心理（2）乳幼児期・児童期
17. 発達臨床心理（3）思春期
18. 発達臨床心理（4）青年期
19. 発達臨床心理（5）中年期・老年期
20. 発達臨床心理（6）家族の発達
21. 介入(1）心理臨床的援助・介入とは
22. 介入（2）来談者中心療法
23. 介入（3）精神分析療法
24. 介入（4）芸術療法
25. 介入（5）家族療法
26. 介入（6）ナラティブヴ・セラピー
27. 心理的問題の理解のために（3）
28. 心理的問題の理解のために(4)
29. 講義のまとめ（1）
30. 講義のまとめ（2）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:70%:授業への参加、体験への取り組み、授業内課題などを平常点として評価 (2)期末テスト:30%

家族心理学

担当者：水本　深喜

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

家族心理学の領域では，現代の家族の特徴や問題に関して様々な研究がなされている。そして家族の問題は，家族メンバーのこころの問題にも深く関わっており，家族を視野に入れた心理臨床的支援を行うことは，重要である。本講義では，家族が形成されてから発達して行く過程，その過程で生じうる心理臨床的問題，その問題への支援法を学ぶ。講義では，随時家族の今日的な問題を取り上げ，それに対するディスカッションを実施する。

２.学びの意義と目標

福祉の場において，支援対象者を家族関係も含めて理解し，支援するための基礎的な知識を得ることができる。また，身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について客観的に考えることは，他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がる。

準備学習(予習)

教科書の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

講義で扱った内容について，自分なりの考えをまとめることが重要である。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ジェノグラム①（演習）
3. 家族システム理論
4. 家族イメージ法（演習）
5. 家族を理解するための鍵概念
6. ジェノグラム②，エコマップ（演習）
7. 家族のライフヒストリー（演習）
8. 独身の若い成人期
9. 結婚による家族の成立期
10. 乳幼児を育てる段階
11. アタッチメント
12. 小学生の子どもとその家族
13. 若者世代とその家族
14. アイデンティティ（演習）
15. 自立とは？（演習）
16. 精神的自立（演習）
17. 前半まとめ
18. 老年期の家族
19. 家族への臨床的アプローチ
20. リフレーミング（演習）
21. 夫婦関係の危機と援助
22. 子育てをめぐる問題と援助
23. 児童虐待
24. 家族が経験するストレスと援助
25. 家族の中のコミュニケーション
26. 女性と家族
27. 男性と家族
28. 今日的な家族の問題
29. 後半まとめ
30. まとめ

教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』(有斐閣ブックス)

評価方法

(1)出席点:20% (2)中間レポート:30% (3)期末試験:50%

環境保全論

担当者：村上　公久

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつあるが、自然・環境破壊は急速に進行中である。心臓発作の急死の危険はやや遠のいたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきた。

現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討である。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みた上で、保続可能な (持続可能な)開発(Sustainable Development)を考える。

２.学びの意義と目標

教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。
この科目は 総合科目「環境学」,基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらに より深く扱っているので、準備としてこれらの科目を予め履修しておくことが望ましい。

準備学習(予習)

講義の各回については、事前に配布する講義資料をよく学び考えておくこと。
この科目は 総合科目「環境学」
基礎科目「聖書の中の環境問題」の講義内容と関連したテーマをさらにより深く扱っているので、準備として これらの科目を予め履修しておくことが望ましい。「環境学」「聖書の中の環境問題」履修済みの者は、よく復習しておくこと。

準備学習(復習)

各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 体系的認識の重要性（「何故 大学で学ぶのか」）
2. 自然と環境
3. エコロジーの重要ないくつかの概念（１）
4. エコロジーの重要ないくつかの概念（２）
5. 自然観の変遷（１）
6. 自然観の変遷（２）
7. 「３つの文化型」 man－in－nature の文化（１）
8. 「３つの文化型」 man－in－nature の文化（２）
9. 〔人間－環境〕系（１）
10. 〔人間－環境〕系（２）
11. 21世紀の環境問題　生命圏の全的壊滅の危機 「突然」は あるか
12. 環境史（１）
13. 環境史（２）
14. 環境問題の歴史
15. 自然保護運動の歴史
16. 無思慮な悲観論とセンチメンタリズムの危険
17. 個体群生態学と環境容量
18. 「地球温暖化問題」（１）
19. 「地球温暖化問題」（２）
20. 「地球温暖化問題」（３）
21. 自然保護と環境保全　「自然破壊」と「自然保護」の対立、第三の立場「環境保全」
22. 保続的（持続的）社会 Sustainable Societyを考える
23. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（１）
24. 再生産可能な資源 と 枯渇性資源（２）
25. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（１）
26. 保続的（持続的）発展Sustainable Development（２）
27. 保続する 〔人間－環境〕 系 をめざして
28. 全球化globalization の中の環境問題
29. 「我々の家」としての地球
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)２回以上の試験と期末試験:60%
欠席回数が講義回数の３分の１を超える者には、単位を認定しない。
資料の探索と資料の理解、プレゼンテーション等のための加工、複数回の個人・チームによるプレゼンテーション、討論、ゼミ参加態度、ゼミへの熱意と貢献等 などを総合的に評価する。

教育心理学

担当者：小山　義徳

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

　教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。

　授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまってはいけません。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。

２.学びの意義と目標

　教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、仕事に就いてから数年経てば、自らが後輩に仕事を教える立場になります．そのため，すべて人とって有用な学問です。本講義は，受講者が自らの学びや他者に教えることに関する知識を獲得することを，目標とします．

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を配布する．その内容を読んだ上で，講師が設定した問いや，疑問に感じた点，よくわからない点を小レポートとして事前に提出してもらう．

準備学習(復習)

主に口頭で説明した内容について，複数回の小テストを実施する．

授業計画

1. ガイダンス:教育心理学とは
2. 記憶のメカニズム
3. 動機づけの基本的な考え方
4. 内発的動機づけと外発的動機づけ
5. 学習者から見た学習動機
6. 動機づけの認知理論と学習意欲
7. 学習行動の基礎
8. 知識表現と概念
9. 知識の獲得について
10. 手続き的知識とその学習
11. 問題解決の過程と学習
12. 文章の理解
13. 言語の発達
14. 子どもの認知発達
15. イメージと空間の情報処理
16. 性格の形成
17. 知能とは何か
18. 個人差のとらえかた
19. 個に応じた指導方法
20. 授業の検討方法
21. 授業をどのように構成するか
22. 授業における教授・学習過程
23. 測定と評価・学習者をどう評価するのか
24. 評価の心理的影響
25. 教室内の人間関係
26. 社会性と社会的スキルの形成
27. 注意とメタ認知
28. 学習方略とは
29. 自己学習力の育成
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:45% (2)小テスト:35% (3)期末レポート:20%

キリスト教人間学Ａ

担当者：左近　豊

開講期：秋学期　　必修・選択：必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

１．目的

「人間とは何か？」という問いについてキリスト教の歴史に足跡を刻んだ人物を取り上げて考察する。古代、中世、宗教改革期、そして現代それぞれの時代を生きたキリスト者の歩みを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。

２．カリキュラム上の位置づけ

この科目は、人間福祉学部３年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。

２.学びの意義と目標

キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくにキリスト教の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。

準備学習(予習)

各単元で扱う人物について、事前に調べてから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業で取り扱った人物について図書館を用いて理解を深めること。

授業計画

1. キリスト教史上の人物　　アウグスティヌス
2. トマス・アクィナス
3. フランチェスコ
4. ルター
5. カルヴァン
6. Ｃ．Ｓ．ルイス
7. ボンヘッファー
8. Ｍ．Ｌ．キング
9. ヨハネ・パウロ2世
10. マザー・テレサ
11. J.C.ヘボン
12. 内村鑑三
13. 新渡戸稲造
14. 三浦綾子
15. まとめ　キリスト教における人格と人権

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:40%:コメントシート活用 (2)礼拝出席レポート:20%
(3)学期末試験:40%

キリスト教人間学Ｂ

担当者：左近　豊

開講期：春学期　　必修・選択：必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人とのドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。

２．カリキュラム上の位置づけ

この科目は、人間福祉学部３年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。

２.学びの意義と目標

キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。

準備学習(予習)

指示する文献を事前に読んでから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

扱った人物、事象に関して講義を踏まえてリサーチし、理解を深めること。

授業計画

1. 導入　「人間とは何か」
2. 旧約聖書の人間観　天地創造・神と人間
3. 旧約聖書の人間観　天地創造・人間と罪
4. 旧約聖書の人間観　天地創造・人間と悪
5. 旧約聖書の人間観　カインとアベル
6. 旧約聖書の人間観　バベル
7. 旧約聖書の登場人物　アブラハム
8. 旧約聖書の登場人物　モーセ
9. 旧約聖書の登場人物　ダビデ
10. 旧約聖書の登場人物　ヨブ
11. 新約聖書の人間観　イエスの人間観
12. 新約聖書の人間観　パウロの人間観
13. 新約聖書の登場人物　ペテロ
14. 新約聖書の登場人物　パウロ
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:40%:コメントシート (2)礼拝出席レポート:20%
(3)学期末試験:40%

現代社会と福祉

担当者：牛津　信忠

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策
・福祉の思想と哲学
・福祉制度の発達過程
・福祉政策におけるニーズと資源
・福祉政策の課題
・福祉政策の構成要素
・福祉政策の関連領域
・福祉政策の国際比較
・相談援助活動と福祉政策の関係

２.学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
・福祉政策の課題について理解する。
・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

準備学習(予習)

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連個所を、事前に読み、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

授業計画

1. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（１）わが国における福祉制度の概念と理念
2. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（２）福祉政策の概念と理念
3. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（３）福祉制度と福祉政策の関係
4. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（４）福祉政策と政治の関係
5. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（５）福祉政策の主体と対象
6. 福祉の思想と哲学　（１）福祉の原理をめぐる哲学と倫理
7. 福祉の思想と哲学　（２）福祉の原理をめぐる理論
8. 福祉制度の発達過程　（１）前近代社会と福祉
9. 福祉制度の発達過程　（２）近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程　（３）現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源　（１）需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源　（２）資源の概念
13. 福祉政策の課題　（１）福祉政策と社会問題　①貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題　（２）福祉政策と社会問題　②社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題　（３）福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）
16. 福祉政策の構成要素　（１）福祉政策の論点　①福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素　（２）福祉政策の論点　②効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素　（３）福祉政策の論点　③普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素　（４）福祉政策の論点　④自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素　（５）福祉政策の論点　⑤参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素　（６）福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素　（７）福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素　（８）福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素　（９）福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域　（１）所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域　（２）保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域　（３）福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較　（１）欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較　（２）東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

教科書

プリントを配布する
主としてスライドショウ（パワーポイントによる）授業。

評価方法

(1)授業出席率:20% (2)小テストに見る思考力:20% (3)授業中の態度:10% (4)期末論文形式のテスト:50%

権利擁護と成年後見制度

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・相談援助活動と法とのかかわり
・成年後見制度
・日常生活自立支援事業
・権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
・権利擁護活動の実際

２.学びの意義と目標

・相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
・相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
・成年後見制度の実際について理解する。
・社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

※事前に履修しておくことが望ましい科目:「法学」

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

社会・精神保健福祉士の国家試験受験予定者は、講義内容の復習（教科書の重要箇所の理解、ノートの見直しなど）と併せて、受験ワークブックや過去問題集などに目を通し知識を確実に習得すること。

授業計画

1. 相談援助活動と法とのかかわり　（１）相談援助活動において想定される法律問題
2. 相談援助活動と法とのかかわり　（２）日本国憲法の理解
3. 相談援助活動と法とのかかわり　（３）民法の理解
4. 相談援助活動と法とのかかわり　（４）行政法の理解
5. 成年後見制度　（１）成年後見制度の概要　①成年後見・保佐・補助の概要
6. 成年後見制度　（２）成年後見制度の概要　②任意後見の概要・民法における親権や扶養の概要
7. 成年後見制度　（３）成年後見制度の概要　③成年後見制度の最近の動向・成年後見制度利用支援事業の概要
8. 日常生活自立支援事業
9. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際　（１）家庭裁判所・法務局・市町村の役割
10. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際　（２）弁護士・司法書士の役割
11. 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際　（３）社会福祉士の役割と活動の実際
12. 権利擁護活動の実際　（１）認知症高齢者・消費者被害者への支援
13. 権利擁護活動の実際　（２）被虐待児者・アルコール等依存者への支援
14. 権利擁護活動の実際　（３）非行少年とホームレスへの支援・障害児者への支援
15. 権利擁護活動の実際　（４）多問題重複ケースをかかえる者への支援

教科書

新・社会福祉士養成講座 『権利擁護と成年後見制度』 (中央法規出版)

評価方法

(1)期末試験:60% (2)毎回の授業のリアクションペーパー:20%
(3)レポート:10% (4)出席:10%

公衆衛生学

担当者：中村　磐男

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

1)　内容　公衆衛生学の知識と公衆衛生学考え方を学ぶ。すなわち、健康の定義、健康指標、予防医学の概念、保健衛生統計、感染症予防、疫学、成人保健（生活習慣病とその予防）、衛生行政等の範囲を対象とする。

2)　カリキュラムの中の位置づけ　公衆衛生学は社会医学とも称される。福祉を学ぶ者にとって、公衆衛生学的知識と考え方を学ぶことは必須である。公衆衛生学は、医療関係者（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師等）の養成課程では必修科目となっている。１年次に、「衛生学入門」が置かれているが、全員が選択している訳ではない。衛生学入門との重複はなるべくさけ、なお、重要な箇所は繰り返して学びを深めたい。

（教科書は「衛生学入門」と共通）

国家試験科目である、医学一般（人体の構造と機能及び疾病・保健医療サービス）とも関係づけて講義を進めたい。

２.学びの意義と目標

福祉分野において、保健・医療・福祉の連携が重要視されている。公衆衛生学は「保健」分野の基礎、保健分野そのものである。国家試験において、人口静態、人口動態、平均寿命、平均余命、健康寿命、メタボリックシンドローム、生活習慣病、二次予防、健康の定義、プライマリヘルスケアなどが出題されている。保健分野と医療や福祉との接点についても理解することを目的とする。

準備学習(予習)

予習:教科書の該当箇所は、目を通し理解できない箇所や語句をメモしておくこと。

準備学習(復習)

復習:授業の終わりに実施する小テストで疑問の点、また、返却された前回小テスト結果で正答でなかった点は復習してほしい。

授業計画

1. 健康の定義、健康指標、予防医学の概念
2. 生活習慣病とその予防１．メタボリック・シンドローム
3. 生活習慣病とその予防２．糖尿病、循環器疾患、悪性新生物
4. 人口静態・人口動態
5. 出生と死亡の動向
6. 生命表と平均寿命、健康寿命
7. 医の倫理
8. 疫学．疫学とはなにか、記述疫学、分析疫学
9. 感染症とその予防１．感染の成立、感染と発症
10. 感染症とその予防２．免疫と予防接種、消毒
11. 感染症とその予防３．AIDSと性感染症
12. 食中毒とその予防 １．微生物起因食中毒
13. 食中毒とその予防 ２．自然毒・化学物質起因食中毒
14. 地域保健、衛生行政、医療保障、保健医療サービス
15. まとめと試験

教科書

鈴木庄亮・久道茂 『シンプル衛生公衆衛生学』 (南江堂)

評価方法

(1)受講態度:30%:出席状況、受講態度、座席位置
(2)小テスト（毎回）:30%:毎回実施し、次回に返却する
(3)期末テスト:40%

更生保護制度

担当者：三澤　孝夫

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・更生保護のあらまし
・更生保護の制度
・更生保護制度の担い手
・更生保護観察制度における関係機関・団体との連携
・医療観察制度
・更生保護制度の近年の動向と課題

２.学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
・就労支援分野との連携について理解する。

準備学習(予習)

更生保護制度はその内容が複雑なため、事前に警察、検察、裁判所の違いなど、刑事司法の基礎的な部分をよく理解しておくこと。また、教科書に沿って、短期間で集中的に講義を行うため、事前にその日の講義予定の教科書の部分を読んでおくこと。

準備学習(復習)

特に重要な部分については、講義中に教科書内にマークするように指示し、その他「犯罪白書」などにある重要資料などは、別途、配布するので、次の講義までに十分理解しておくこと。

授業計画

1. 更生保護のあらまし
2. 更生保護の制度（1）意義・歴史・更生保護法制
3. 更生保護の制度（2）保護観察・生活環境の調整
4. 更生保護の制度（3）仮釈放・更生緊急保護 等
5. 更生保護制度の担い手
6. 更生保護観察制度における関係機関・団体との連携
7. 医療観察制度
8. 更生保護制度の近年の動向と課題

教科書

森長秀 『「更生保護制度」社会福祉士シリーズ20巻』 (弘文堂)

評価方法

(1)講義出席:40% (2)定期試験:60%

公的扶助論

担当者：宮寺　良光

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・公的扶助の概念
・貧困・低所得者問題と社会的排除
・公的扶助の歴史
・生活保護制度の仕組み
・生活保護の運営実施体制と関係機関
・生活保護の動向
・低所得者対策とホームレス対策
・自立支援プログラムの意義と実際

２.学びの意義と目標

・ 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。
・ 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
・ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

準備学習(予習)

(１)講義内容の予習 → 毎回配付する資料を読解してくる

準備学習(復習)

(１)講義内容の復習 →
毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 公的扶助の概念
2. 貧困・低所得者問題と社会的排除
3. 公的扶助の歴史　（1）海外の歴史
4. 公的扶助の歴史　（2）日本の歴史
5. 生活保護制度の仕組み　（1）生活保護法の目的・原理
6. 生活保護制度の仕組み　（2）生活保護法の原則
7. 生活保護制度の仕組み　（3）生活保護の種類と内容
8. 生活保護制度の仕組み　（4）生活保護基準と実施要領
9. 生活保護制度の仕組み　（5）保護施設
10. 生活保護制度の仕組み　（6）被保護者の権利と義務・不服申立てと訴訟
11. 生活保護の運営実施体制と関係機関
12. 生活保護の動向
13. 低所得者対策とホームレス対策
14. 自立支援プログラムの意義と実際
15. 貧困・低所得者に対する相談援助活動

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30% (3)試験:40%

高齢社会論

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

人生の後半で経験する変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにする。

２.学びの意義と目標

人口高齢化のメカニズムを理解し、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのために求められる施策について考えられるようになる。

準備学習(予習)

授業はおおむね教科書の通りに進むので、次回の部分を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

授業はかなりのスピードで進むので復習が必要。また、その一環として、レポートの作成・提出が義務づけられる。

授業計画

1. 社会老年学とは
2. 高齢者観
3. 人口高齢化の推移
4. 高齢化の原因
5. 人口転換と人口構造の変化
6. 老化と健康・病気
7. 生活機能
8. 高齢期の健康づくり
9. 定年退職と引退
10. 高齢期の収入と年金
11. 高齢期の人間関係
12. 高齢期の家族
13. 近隣と友人
14. サクセスフル・エイジング
15. 高齢社会における高齢者のライフスタイル

教科書

古谷野 亘, 安藤 孝敏『改訂・新社会老年学―シニアライフのゆくえ』(ワールドプランニング)

評価方法

(1)出席点:30% (2)レポート:30% (3)筆記試験:40%

高齢者福祉論

担当者：山口　圭

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・発達と老化の理解
・高齢者の生活実態
・認知症の理解
・高齢者の福祉ニーズ
・少子高齢社会と高齢者
・高齢者保健福祉の発展と制度体系
・介護保険法の概要
・高齢者支援の関係法規
・高齢者を支援する組織と役割
・専門職の役割と実際
・高齢者支援の方法と実際

２.学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・高齢者の福祉ニーズについて理解する。
・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。
・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。
・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 発達と老化の理解　（１）人間の成長と発達の基礎的理解
2. 発達と老化の理解　（２）老年期の発達と成熟
3. 発達と老化の理解　（３）老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4. 発達と老化の理解　（４）高齢者と健康
5. 高齢者の生活実態　（１）高齢者を取り巻く社会環境
6. 高齢者の生活実態　（２）高齢者の世帯状況・経済状況
7. 高齢者の生活実態　（３）高齢者の総合的理解
8. 認知症の理解　（１）認知症を取り巻く状況
9. 認知症の理解　（２）認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解　（３）認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ　（１）要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ　（２）認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ　（３）高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ　（４）高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者
16. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（１）高齢者保健福祉の発展
17. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（２）高齢者保健福祉の制度体系
18. 介護保険法の概要　（１）介護保険制度の目的・保険財政
19. 介護保険法の概要　（２）保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
20. 介護保険法の概要　（３）介護保険サービスの体系
21. 介護保険法の概要　（４）介護報酬
22. 介護保険法の概要　（５）介護保険制度の最近の動向
23. 高齢者支援の関係法規　（１）老人福祉法
24. 高齢者支援の関係法規　（２）高齢者の医療の確保に関する法律
25. 高齢者支援の関係法規　（３）高齢者虐待防止法
26. 高齢者支援の関係法規　（４）その他関係法規
27. 高齢者を支援する組織と役割
28. 専門職の役割と実際
29. 高齢者支援の方法と実際
30. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

『新版・社会福祉学習双書』編集委員会編『新版・社会福祉学習双書3　老人福祉論　高齢者に対する支援と介護保険制度』(全国社会福祉協議会出版部)
ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法2013』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)定期試験:75% (2)小テスト:20% (3)コメント・レポート:5%
出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。

高齢者福祉論Ａ

担当者：山口　圭

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・発達と老化の理解
・高齢者の生活実態
・認知症の理解
・高齢者の福祉ニーズ
・少子高齢社会と高齢者

２.学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・高齢者の福祉ニーズについて理解する。
・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 発達と老化の理解　（１）人間の成長と発達の基礎的理解
2. 発達と老化の理解　（２）老年期の発達と成熟
3. 発達と老化の理解　（３）老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4. 発達と老化の理解　（４）高齢者と健康
5. 高齢者の生活実態　（１）高齢者を取り巻く社会環境
6. 高齢者の生活実態　（２）高齢者の世帯状況・経済状況
7. 高齢者の生活実態　（３）高齢者の総合的理解
8. 認知症の理解　（１）認知症を取り巻く状況
9. 認知症の理解　（２）認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解　（３）認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ　（１）要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ　（２）認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ　（３）高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ　（４）高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者

教科書

『新版・社会福祉学習双書』編集委員会編『新版・社会福祉学習双書3　老人福祉論　高齢者に対する支援と介護保険制度』(全国社会福祉協議会出版部)
ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法2013』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)定期試験:75% (2)小テスト:20% (3)コメント・レポート:5%
・定期試験は、テスト実施日において、2/3以上の出席がなければ、受験することができない。
・遅刻・早退を３回した場合、１回の欠席とみなす。なお、電車の遅延については、考慮しないので、余裕をもって登校すること。

高齢者福祉論A/B

担当者：山口　圭

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・発達と老化の理解
・高齢者の生活実態
・認知症の理解
・高齢者の福祉ニーズ
・少子高齢社会と高齢者
・高齢者保健福祉の発展と制度体系
・介護保険法の概要
・高齢者支援の関係法規
・高齢者を支援する組織と役割
・専門職の役割と実際
・高齢者支援の方法と実際

２.学びの意義と目標

・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。
・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。
・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・高齢者の福祉ニーズについて理解する。
・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。
・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。
・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 発達と老化の理解　（１）人間の成長と発達の基礎的理解
2. 発達と老化の理解　（２）老年期の発達と成熟
3. 発達と老化の理解　（３）老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4. 発達と老化の理解　（４）高齢者と健康
5. 高齢者の生活実態　（１）高齢者を取り巻く社会環境
6. 高齢者の生活実態　（２）高齢者の世帯状況・経済状況
7. 高齢者の生活実態　（３）高齢者の総合的理解
8. 認知症の理解　（１）認知症を取り巻く状況
9. 認知症の理解　（２）認知症の基礎的理解
10. 認知症の理解　（３）認知症に伴う心身の変化と日常生活
11. 高齢者の福祉ニーズ　（１）要介護高齢者の介護・福祉ニーズ
12. 高齢者の福祉ニーズ　（２）認知症高齢者の介護・福祉ニーズ
13. 高齢者の福祉ニーズ　（３）高齢者虐待の実態及び福祉ニーズ
14. 高齢者の福祉ニーズ　（４）高齢者の社会参加にかかわる福祉ニーズ
15. 少子高齢社会と高齢者
16. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（１）高齢者保健福祉の発展
17. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（２）高齢者保健福祉の制度体系
18. 介護保険法の概要　（１）介護保険制度の目的・保険財政
19. 介護保険法の概要　（２）保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
20. 介護保険法の概要　（３）介護保険サービスの体系
21. 介護保険法の概要　（４）介護報酬
22. 介護保険法の概要　（５）介護保険制度の最近の動向
23. 高齢者支援の関係法規　（１）老人福祉法
24. 高齢者支援の関係法規　（２）高齢者の医療の確保に関する法律
25. 高齢者支援の関係法規　（３）高齢者虐待防止法
26. 高齢者支援の関係法規　（４）その他関係法規
27. 高齢者を支援する組織と役割
28. 専門職の役割と実際
29. 高齢者支援の方法と実際
30. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

『新版・社会福祉学習双書』編集委員会編『新版・社会福祉学習双書3　老人福祉論　高齢者に対する支援と介護保険制度』(全国社会福祉協議会出版部)
ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法2013』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)定期試験:75% (2)小テスト:20% (3)コメント・レポート:5%
・定期試験は、テスト実施日において、2/3以上の出席がなければ、受験することができない。
・遅刻・早退を３回した場合、１回の欠席とみなす。なお、電車の遅延については、考慮しないので、余裕をもって登校すること。

高齢者福祉論Ｂ

担当者：山口　圭

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・高齢者保健福祉の発展と制度体系
・介護保険法の概要
・高齢者支援の関係法規
・高齢者を支援する組織と役割
・専門職の役割と実際
・高齢者支援の方法と実際

２.学びの意義と目標

・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。
・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。

【注意事項】
「高齢者福祉論Ａ」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（１）高齢者保健福祉の発展
2. 高齢者保健福祉の発展と制度体系　（２）高齢者保健福祉の制度体系
3. 介護保険法の概要　（１）介護保険制度の目的・保険財政
4. 介護保険法の概要　（２）保険者と被保険者、保険料・要介護認定の仕組みとプロセス
5. 介護保険法の概要　（３）介護保険サービスの体系
6. 介護保険法の概要　（４）介護報酬
7. 介護保険法の概要　（５）介護保険制度の最近の動向
8. 高齢者支援の関係法規　（１）老人福祉法
9. 高齢者支援の関係法規　（２）高齢者の医療の確保に関する法律
10. 高齢者支援の関係法規　（３）高齢者虐待防止法
11. 高齢者支援の関係法規　（４）その他関係法規
12. 高齢者を支援する組織と役割
13. 専門職の役割と実際
14. 高齢者支援の方法と実際
15. 高齢者への生活支援の今後の課題

教科書

『新版・社会福祉学習双書』編集委員会編『新版・社会福祉学習双書3　老人福祉論　高齢者に対する支援と介護保険制度』(全国社会福祉協議会出版部)
ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法2013』 (ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)定期試験:75% (2)小テスト:20% (3)コメント・レポート:5%
・定期試験は、テスト実施日において、2/3以上の出席がなければ、受験することができない。
・遅刻・早退を３回した場合、１回の欠席とみなす。なお、電車の遅延については、考慮しないので、余裕をもって登校すること。

コミュニティ心理学

担当者：長谷川　恵美子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

具体的なコミュニティーを取り上げ、コンサルテーション、クライシス・インターベンションをはじめ、関連する理論、技法を紹介しながら、それぞれのコミュニティーの構成、現状、問題点などについてディスカッションしながら体験的に学ぶ授業である。

２.学びの意義と目標

コミュニティとは、人々が毎日を生きてゆく場所のことである。人の行動は社会的環境と切り離された状況で発生しているのではなく、人とその置かれた社会的環境との相互作用で成り立っている。本授業は、社会システムや環境面が人間の行動に及ぼす影響についての基礎知識を学び、人間にとって生活しやすい環境を整備するために、どのような環境改善、介入方法があるのかを自ら考えることを目標としている。

準備学習(予習)

配布した資料は熟読したうえで参加することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個別対応から地域援助へ
3. 家族の役割
4. 家族イメージ法
5. 家族療法
6. 学校というシステム
7. 欧米と日本の学校システムの比較
8. スクールカウンセラーとは
9. 気分障害と不安障害
10. 相談援助とは
11. 産業領域での問題
12. EAPとは
13. メンタルヘルスとコラボレーション
14. 老年期とは
15. リハビリテーションを考える

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:60% (2)レポート:40%

産業心理学

担当者： 真船　浩介

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

産業心理学は，生産性の維持向上から，労働者の健康や幸福の保持増進まで，仕事に関する幅広い範囲に心理学の知見を応用する分野である。本講義は，働くことと人を動かすことの２つの視点から，仕事において活用されている心理学の知見を整理する。特に，どのように生産性を高めるのか，どのように健康を守るのか，活発に働くためにはどのようなことが必要か，どのように能力・スキルを伸ばすのか，人を動かすリーダーにはどのようなことが求められるのか等，職場において活用されている心理学の知見を具体的に明らかにする。
産業分野に応用されている心理学の知見を学ぶ入門的な位置づけである。

２.学びの意義と目標

産業分野で応用されている心理学の知見を学び，産業心理学で用いられる用語や方法論を理解できること。健康に働くことに加え，働くことにより，満足や活力を得るための方法の概略を説明できるになること。

準備学習(予習)

最終講義「まとめ」では，総合的なディスカッションを予定しているため，全体の講義内容を復習しておくこと

準備学習(復習)

各回の疑問等をまとめ，次回の講義等で確認すること

授業計画

1. 概論
2. 人事管理
3. キャリア開発
4. リーダーシップ
5. 組織行動
6. モチベーション
7. 仕事のストレス
8. ストレスへの対処
9. 働く活力と健康
10. 労務管理と安全衛生
11. 作業と安全管理
12. 消費者行動
13. マーケティング
14. 組織の変革
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:70% (2)出席:20% (3)ディスカッション:10%:講義中に行うディスカッションや質疑応答への積極的な姿勢を重視する

死生学

担当者：横澤　義夫

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。

２.学びの意義と目標

死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。
現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その生死の問題そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。

準備学習(予習)

新聞や定時テレビニュースなどの人間やいのちに関係する報道に関心を払って、場合によっては書きとどめる努力をしてください。

準備学習(復習)

前週の講義で箇条書きしたノートの大切と思える箇所は自分で文章にしてみる努力をしてください。

授業計画

1. Ⅰ．死生問題の現代的状況。なにが課題か
2. Ⅱ．生について
3. １．日本人の生命観とその現代的混迷
4. ２．ヨーロッパ人の生命観とその検討の必要
5. Ａ．アリストテレス主義の伝統的生命観
6. 同
7. Ｂ．キリスト教精神の福祉の概念
8. Ⅲ．死について
9. １．近代自然科学とデカルト的二元論
10. ２．現代の医療倫理・遺伝子工学問題　etc.
11. ３．伝統的生命観とどこが対立するのか
12. Ⅳ．綜合としての死生観
13. １．発生学といのちの問題
14. ２．老について・病について（ターミナル・ケア論）
15. 同

教科書

プリントを配布する
教科書は使用しません。

評価方法

(1)出席率:30%:欠席理由のある場合には必ず申告のこと
(2)レポート:70%:テーマについては講義中に説明します

児童福祉論

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。
・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。
・児童の権利について理解する。
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。
・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービスの現状と課題について理解する。
・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際について理解する。
・児童・家族への相談援助活動の実際について理解する。

２.学びの意義と目標

子どもの福祉に関するその国の理念・サービスの議論と実施状況は次代の社会を占う試金石でもある。現代的な子ども観に基づく新しいサービスを学びながら、これまでの環境の再検討と将来に向けての育児支援の利用をイメージする契機としたい。なお、子ども虐待に関する社会的対応と人々の意識についてあつかう時間を多くとる。

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（１）現代社会と子どもの成長・発達
2. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（２）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
3. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（３）児童・家庭の福祉ニーズの実際
4. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（１）児童家庭福祉の理念および概念
5. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（２）児童育成責任
6. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（３）児童の権利保障
7. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（４）児童家庭福祉制度の発展過程
8. 児童・家庭にかかわる法制度　（１）児童・家庭福祉の法体系
9. 児童・家庭にかかわる法制度　（２）児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度　（３）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度　（４）ＤＶ防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度　（５）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度　（６）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度　（７）児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度　（８）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要
16. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（１）母子保健
17. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（２）障害・難病のある児童と家族への支援
18. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（３）児童の社会的養護サービス
19. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（４）児童虐待対策
20. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（５）保育
21. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（６）ひとり親家庭の福祉
22. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（７）子育て支援
23. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（８）児童健全育成
24. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（９）非行・情緒障害児への支援
25. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（１０）女性福祉
26. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（１）児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
27. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（２）児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
28. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（３）児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
29. 児童・家庭への相談活動の実際　（１）児童相談所による支援
30. 児童・家庭への相談活動の実際　（２）多職種連携、ネットワーキング

教科書

山縣文治　編『よくわかる子ども家庭福祉　第９版』(ミネルヴァ書房)
山縣文治・柏女霊峰　編『社会福祉用語辞典　第９版』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

児童福祉論Ａ

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境
・児童・家庭福祉の理念とあゆみ
・児童・家庭にかかわる法制度

２.学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。
・児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解する。
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（１）現代社会と子どもの成長・発達
2. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（２）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
3. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（３）児童・家庭の福祉ニーズの実際
4. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（１）児童家庭福祉の理念および概念
5. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（２）児童育成責任
6. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（３）児童の権利保障
7. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（４）児童家庭福祉制度の発展過程
8. 児童・家庭にかかわる法制度　（１）児童・家庭福祉の法体系
9. 児童・家庭にかかわる法制度　（２）児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度　（３）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度　（４）ＤＶ防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度　（５）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度　（６）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度　（７）児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度　（８）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要

教科書

山縣文治　編『よくわかる子ども家庭福祉　第９版』(ミネルヴァ書房)
山縣文治・柏女霊峰　編『社会福祉用語辞典　第９版』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

児童福祉論A/B

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・児童・家庭を取り巻く社会環境
・児童・家庭福祉の理念とあゆみ
・児童・家庭にかかわる法制度
・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス
・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際
・児童・家庭への相談活動の実際

２.学びの意義と目標

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。
・児童・家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について理解する。
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度について理解する。
・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービスについて理解する。
・児童・家庭への相談活動の実際について理解する。

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（１）現代社会と子どもの成長・発達
2. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（２）児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
3. 児童・家庭を取り巻く社会環境　（３）児童・家庭の福祉ニーズの実際
4. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（１）児童家庭福祉の理念および概念
5. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（２）児童育成責任
6. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（３）児童の権利保障
7. 児童・家庭福祉の理念とあゆみ　（４）児童家庭福祉制度の発展過程
8. 児童・家庭にかかわる法制度　（１）児童・家庭福祉の法体系
9. 児童・家庭にかかわる法制度　（２）児童福祉法の概要
10. 児童・家庭にかかわる法制度　（３）児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）の概要
11. 児童・家庭にかかわる法制度　（４）ＤＶ防止法及び売春防止法の概要
12. 児童・家庭にかかわる法制度　（５）母子及び寡婦福祉法、母子保健法の概要
13. 児童・家庭にかかわる法制度　（６）次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法の概要
14. 児童・家庭にかかわる法制度　（７）児童手当法の概要
15. 児童・家庭にかかわる法制度　（８）児童扶養手当法、特別児童扶養手当制度の概要
16. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（１）母子保健
17. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（２）障害・難病のある児童と家族への支援
18. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（３）児童の社会的養護サービス
19. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（４）児童虐待対策
20. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（５）保育
21. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（６）ひとり親家庭の福祉
22. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（７）子育て支援
23. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（８）児童健全育成
24. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（９）非行・情緒障害児への支援
25. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（１０）女性福祉
26. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（１）児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
27. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（２）児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
28. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（３）児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
29. 児童・家庭への相談活動の実際　（１）児童相談所による支援
30. 児童・家庭への相談活動の実際　（２）多職種連携、ネットワーキング

教科書

山縣文治　編『よくわかる子ども家庭福祉　第９版』(ミネルヴァ書房)
山縣文治・柏女霊峰　編『社会福祉用語辞典　第９版』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

児童福祉論Ｂ

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス
・児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際
・児童・家庭への相談活動の実際

２.学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉に係る福祉・保健サービスについて理解する。
・児童・家庭への相談活動の実際について理解する。

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

授業計画

1. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（１）母子保健
2. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（２）障害・難病のある児童と家族への支援
3. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（３）児童の社会的養護サービス
4. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（４）児童虐待対策
5. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（５）保育
6. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（６）ひとり親家庭の福祉
7. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（７）子育て支援
8. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（８）児童健全育成
9. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス　（９）非行・情緒障害児への支援
10. 児童・家庭にかかわる福祉・保健サービス（１０）女性福祉
11. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（１）児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際
12. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（２）児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際
13. 児童・家庭福祉を担う組織・団体・専門職の役割と実際　（３）児童・家庭福祉制度における公私の役割関係
14. 児童・家庭への相談活動の実際　（１）児童相談所による支援
15. 児童・家庭への相談活動の実際　（２）多職種連携、ネットワーキング

教科書

山縣文治　編『よくわかる子ども家庭福祉　第９版』(ミネルヴァ書房)
山縣文治・柏女霊峰　編『社会福祉用語辞典　第９版』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

社会学

担当者：阿部　英之助

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容
・社会学の成立と展開
・社会学の研究視点
・現代社会の理解
・生活の理解
・人と社会との関係
・社会問題の理解

２.学びの意義と目標
・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。
・生活について理解する。
・人と社会の関係について理解する。
・社会問題について理解する。

準備学習(予習)

授業ごとに次回の授業範囲を教えますので、事前にテキストを読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業後に簡単な「コメント」と数回の「授業小レポート」を書いてもらい、自分の見解・意見をまとめる作業を行い、授業内容の定着を図りたいと思います。

授業計画

1. 社会学の成立と展開
2. 社会学の研究視点
3. 現代社会の理解（1）社会システム①　社会システムの概念、文化・規範、社会意識
4. 現代社会の理解（2）社会システム②　産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標
5. 現代社会の理解（3）法と社会システム
6. 現代社会の理解（4）経済と社会システム
7. 現代社会の理解（5）社会変動①　社会変動の概念
8. 現代社会の理解（6）社会変動②　近代化、産業化、情報化
9. 現代社会の理解（7）人口①　人口の概念、人口構造
10. 現代社会の理解（8）人口②　人口問題、少子高齢化
11. 現代社会の理解（9）地域①　地域の概念、コミュニティの概念
12. 現代社会の理解（10）地域②　都市化と地域社会、過疎化と地域社会
13. 現代社会の理解（11）地域③　地域社会の集団・組織
14. 現代社会の理解（12）社会集団①　社会集団の概念、第一次集団、第二次集団
15. 現代社会の理解（13）社会集団②　ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション
16. 現代社会の理解（14）社会集団③　組織の概念、官僚制
17. 生活の理解（1）家族①　家族の概念、世帯の概念、家族の構造や形態
18. 生活の理解（2）家族②　家族の変容、家族の機能
19. 生活の理解（3）生活の捉え方
20. 人と社会との関係（1）社会関係と社会的孤立
21. 人と社会との関係（2）社会的行為
22. 人と社会との関係（3）社会的役割
23. 人と社会との関係（4）社会的ジレンマ
24. 社会問題の理解（1）社会問題の捉え方
25. 社会問題の理解（2）具体的な社会問題①　貧困、失業
26. 社会問題の理解（3）具体的な社会問題②　差別、社会的排除、自殺
27. 社会問題の理解（4）具体的な社会問題③　犯罪、非行
28. 社会問題の理解（5）具体的な社会問題④　ＤＶ、ハラスメント
29. 社会問題の理解（6）具体的な社会問題⑤　児童虐待、いじめ
30. 社会問題の理解（7）具体的な社会問題⑥　公害、環境破壊

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム　社会学』(中央法規出版)

評価方法

(1)出席:20% (2)授業レポート:20% (3)学期末試験:60%
評価は、出席(20点)・授業レポート(20点)・学期末試験(60点)の合計100点によって総合的な評価をします。

社会心理学

担当者：山上　真貴子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

社会心理学と聞いて何を思い浮かべるだろう。人間関係、コミュニケーション、集団関係などのテーマはもちろんだが、人は他者と一緒にいるときにだけ社会と関わっているわけではない。自分について考えるときも、何も考えず自動的に行動するときも、他者は私たちに影響を与えている。この授業では、まず前半に幅広い基礎的な知見を紹介し、後半は具体的なトピック（説得のプロが使うテクニック）を軸に、その知見が実践場面でどう生きるのかについて考えていく。

２.学びの意義と目標

この授業には、日常生活の中で私たちがどのように考え、感じ、行動しているのかについてのヒントがたくさん含まれている。この授業で学んだことを、自分や他者について考えるとき、人間関係や集団、社会について考えるときに使える知識として、日常に持ち帰ってほしい。

準備学習(予習)

毎回のトピックに関連する日常的なテーマについて、自分の経験や意見を書いてもらう（初回以外）。

準備学習(復習)

毎回の授業で出題される「まとめの問題」に解答（回答）しておくこと。次の授業の最初に解説を行う。

授業計画

1. 社会的生物としての人間(１)
2. 社会的生物としての人間(２)
3. 意識されない過程(１)
4. 意識されない過程(２)
5. 社会の中の私(１)
6. 社会の中の私(２)
7. 他者をとらえる(１)
8. 他者をとらえる(２)
9. さまざまな対人関係(１)
10. さまざまな対人関係(２)
11. コミュニケーション(１)
12. コミュニケーション(２)
13. ソーシャル・ネットワーク(１)
14. ソーシャル・ネットワーク(２)
15. 中間試験
16. 影響力の武器
17. 返報性のルールとは
18. 返報性を使ったテクニック
19. コミットメントと一貫性(１)
20. コミットメントと一貫性(２)
21. 社会的証明とは何か
22. 社会的証明の威力と防衛法
23. 好意―優しい泥棒(１)
24. 好意―優しい泥棒(２)
25. 権威の力(１)
26. 権威の力(２)
27. 希少性(１)
28. 希少性(２)
29. 手っ取り早い影響力
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:30% (2)中間試験:30% (3)期末試験:40%

社会調査の基礎

担当者：鷹野　吉章

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・社会調査の意義と目的
・社会調査の概要
・社会調査における倫理と個人情報保護
・量的調査の方法
・質的調査の方法
・社会調査の実施にあたってのITの活用方法

２.学びの意義と目標

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。
・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。
・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

準備学習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会調査の意義と目的
3. 社会調査の概要
4. 社会調査における倫理と個人情報保護
5. 量的調査の方法　（１）量的調査の方法と特徴
6. 量的調査の方法　（２）調査設計
7. 量的調査の方法　（３）調査票の作成方法
8. 量的調査の方法　（４）サンプリングと実査
9. 量的調査の方法　（５）集計・データ解析・発表と報告
10. 質的調査の方法　（１）質的調査の特徴と種類
11. 質的調査の方法　（２）調査設計・対象者の選定と調査手続・調査方法
12. 質的調査の方法　（３）調査の実施
13. 質的調査の方法　（４）データの分析
14. 質的調査の方法　（５）発表・報告
15. 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験　:70% (2)レポート:30%
出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

社会調査の実際

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

高齢者に関する調査研究の実例を用いながら、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と、社会科学研究法としての調査の意義と限界について論じる。

２.学びの意義と目標

調査の意義と技術について理解する。

準備学習(予習)

授業はおおむね教科書の通りに進むので、次回の部分を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

科目の性格から積み重ねが特に必要なので、休まずに授業に出席し、復習することが必要。

授業計画

1. 社会現象の法則性
2. モデル
3. 変数
4. 測定と尺度
5. サンプリング
6. データ収集の方法
7. 調査票の作成と質問文 (1)
8. 調査票の作成と質問文 (2)
9. 統計処理の目的
10. 1変数の分析
11. クロス表と関連度の係数
12. 相関係数，回帰係数
13. 推定
14. 検定
15. 調査結果のまとめ方

教科書

古谷野 亘, 長田 久雄『実証研究の手引き―調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)

評価方法

(1)筆記試験:50% (2)レポート:20% (3)出席点:30%

社会福祉運営管理論

担当者：早坂　聡久

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・福祉サービスの特質と理念
・福祉サービスに係る組織や団体
・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論
・福祉サービス提供組織の経営と実際
・福祉サービスの運営管理の方法と実際

２.学びの意義と目標

・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。
・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。
・福祉サービスの運営と管理運営について理解する。

準備学習(予習)

社会福祉に関する諸制度について、一定の理解を前提に講義が進められることから、事前に準備をしてほしい。

準備学習(復習)

テキストや授業内に配布した資料等を振り返り、福祉サービスを提供する組織とその経営に関して理解を深めてほしい。

授業計画

1. 福祉サービスの特質と理念
2. 福祉サービスに係る組織や団体　（１）社会福祉法人制度
3. 福祉サービスに係る組織や団体　（２）特定非営利活動法人制度
4. 福祉サービスに係る組織や団体　（３）その他の組織や団体
5. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論　（１）組織・経営に関する基礎理論
6. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論　（２）運営管理に関する基礎理論
7. 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論　（３）集団の力学・リーダーシップに関する基礎理論
8. 福祉サービス提供組織の経営と実際　（１）福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
9. 福祉サービス提供組織の経営と実際　（２）福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
10. 福祉サービス提供組織の経営と実際　（３）理事会の役割・財源
11. 福祉サービス提供組織の経営と実際　（４）福祉サービス提供組織の経営の実際
12. 福祉サービスの運営管理の方法と実際　（１）適切なサービス提供体制の確保　①スーパービジョン体制ほか
13. 福祉サービスの運営管理の方法と実際　（２）適切なサービス提供体制の確保　②苦情対応・リスクマネジメントの方法
14. 福祉サービスの運営管理の方法と実際　（３）働きやすい労働環境の整備
15. 福祉サービスの運営管理の方法と実際　（４）福祉サービスの管理運営の実際

教科書

早坂聡久・三田寺裕治編著『施設経営における会計と税制　2011』(ぎょうせい)

評価方法

(1)出席:50% (2)授業内レポート:10% (3)受講態度:10% (4)試験:30%

社会福祉援助技術演習Ａ

担当者：山口　圭, 野口　祐子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレーイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。

社会福祉援助技術演習Ａでは、具体的にバリアフリーや地域への関わりを通してた演習に取り組む。

２.学びの意義と目標

地域社会に貢献できる福祉人になるための基礎力をつける。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション・バリアフリーとは
2. バリア体験(１)　こんなはずでは!?　ブラインドウォーク・車いす体験(１)
3. バリア体験(２)　こんなはずでは!?　ブラインドウォーク・車いす体験(２)
4. 障害の定義の概説
5. バリア体験(３)　・・・ならいいよね
6. バリア体験(４)　バリア体験のまとめ
7. 地域へのかかわり(１)　事件をとらえてみよう
8. 地域へのかかわり(２)　つながりを見出そう
9. 地域へのかかわり(３)　つながりを見出そう・状況を把握しよう
10. 地域へのかかわり(４)　地域の現状を書こう・地域へのかかわりを考えよう
11. 地域へのかかわり(５)　問題解決への手がかりを探ろう
12. 地域へのかかわり(６)　計画をしてみよう
13. 地域へのかかわり(７)　計画のプレゼンテーション・プレゼンテーションの工夫
14. 地域へのかかわり(８)　プレゼンテーションの実施
15. 地域へのかかわり(９)　プレゼンテーションの評価

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート課題:90% (2)演習での学習状況、発言:10%

社会福祉援助技術演習Ｂ

担当者：野口　祐子, 山口　圭

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

社会福祉援助技術演習Ｂでは、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。

２.学びの意義と目標

(１)個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステム的視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。
(２)個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション　ソーシャルワークにおける事例検討の意義
2. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(１)在宅における高齢者虐待に対する介入
3. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(２)児童虐待通告事例への児童相談所の対応
4. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(３)日常生活自立支援事業における知的障害者への支援
5. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(４)家庭内暴力（ＤＶ）への支援
6. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(５)低所得者への支援
7. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(６)社会的排除の解決に向けた支援
8. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(７)ホームレスへの支援
9. 総合的・包括的ソーシャルワーク実践の事例検討(８)危機介入を活用した支援
10. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(１)地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握技法の習得
11. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(２)地域福祉の計画立案技法の習得
12. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(３)ネットワーキングの活用技法の習得
13. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(４)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
14. 地域福祉の基盤整備にかかわる実技指導(５)サービスの評価技法の習得
15. 定期試験と総括 事例問題形式による試験及び演習Ｂの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術演習Ｃ

担当者：山口　圭

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

社会福祉援助技術演習Ｃでは、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。

２.学びの意義と目標

相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション　相談援助の過程に基づいた演習の意義
2. 相談援助の過程に基づく実技指導①インテーク　(1)アウトリーチ技法の習得
3. 相談援助の過程に基づく実技指導②インテーク　(2)インテーク面接技法の習得
4. 相談援助の過程に基づく実技指導③アセスメント　(1)情報収集技法の習得
5. 相談援助の過程に基づく実技指導④アセスメント　(2)観察技法の習得
6. 相談援助の過程に基づく実技指導⑤アセスメント　(3)情報分析・生活課題把握技法の習得
7. 相談援助の過程に基づく実技指導⑥プランニング　(1)支援目標設定技法の習得
8. 相談援助の過程に基づく実技指導⑦プランニング　(2)支援プログラム作成技法の習得
9. 相談援助の過程に基づく実技指導⑧支援の実施　(1)利用者への働きかけ技法の習得
10. 相談援助の過程に基づく実技指導⑨支援の実施　(2)社会資源の活用・調整・開発に関する技法の習得
11. 相談援助の過程に基づく実技指導⑩モニタリング　実施状況のモニタリング技法の習得
12. 相談援助の過程に基づく実技指導⑪効果測定　評価技法の習得
13. 相談援助の過程に基づく実技指導⑫再アセスメントと支援の強化
14. 相談援助の過程に基づく実技指導⑬終結とアフターケア
15. 定期試験と総括　事例問題形式による試験及び演習Ｃの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術演習Ｄ

担当者：山口　圭, 木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

本演習では、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。

２.学びの意義と目標

個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション　個別的な実習体験を一般化することの意義(1)
2. 事例検討による実習体験の一般化(１)　プロセス・レコードの作成
3. 事例検討による実習体験の一般化(２)　プロセス・レコードを活用した個別スーパービジョン・ピアスーパービジョン
4. 事例検討による実習体験の一般化(３)　プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(1)
5. 事例検討による実習体験の一般化(４)　プロセス・レコードを活用したロールプレーイング(2)
6. 事例検討による実習体験の一般化(５)　インシデント方式による事例検討の意義・事例検討の準備
7. 事例検討による実習体験の一般化(６)　インシデント方式による実習事例検討(1)
8. 事例検討による実習体験の一般化(７)　インシデント方式による実習事例検討(2)
9. 事例検討による実習体験の一般化(８)　インシデント方式による実習事例検討(3)
10. 事例検討による実習体験の一般化(９)　ハーバード方式による事例検討の意義
11. 事例検討による実習体験の一般化(１０)　ハーバード方式による事例発表の準備
12. 事例検討による実習体験の一般化(１１)　ハーバード方式による実習事例検討(1)
13. 事例検討による実習体験の一般化(１２)　ハーバード方式による実習事例検討(2)
14. 事例検討による実習体験の一般化(１３)　ハーバード方式による実習事例検討(3)
15. 定期試験と総括　事例問題形式による試験及び演習Ｄの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術演習 E

担当者： 山口　圭, 木下　大生

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

本演習では、個別的な実習体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、現場実習で作成した支援計画や経過記録をもとに相談援助の過程の振り返りや相談援助の基本的技法の再検討に関する実技指導を行う。

２.学びの意義と目標

相談援助の過程にもとづく振り返りや相談援助の基本的技法の再検討を通して、個別具体的な相談事例を、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、演習内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(１)
   インテーク局面の振り返り
3. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(２)
   アセスメント局面の振り返り(1)
4. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(３)
   アセスメント局面の振り返り(2)
5. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(４)
   アセスメント局面の振り返り(3)
6. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(５)
   プランニング局面の振り返り(1)
7. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(６)
   プランニング局面の振り返り(2)
8. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(７)
   インターベンション局面の振り返り(1)
9. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(８)
   インターベンション局面の振り返り(2)
10. 相談援助の過程に基づく振り返りによる実習体験の一般化(９)
    モニタリング局面の振り返り
11. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(１)
    関係づくりの再検討
12. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(２)
    面接技法の再検討
13. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(３)
    記録技法の再検討
14. 相談援助の基本的技法の再検討による実習体験の一般化(４)
    評価技法の再検討
15. 定期試験と総括・事例問題形式による試験及び演習Ｅの振り返り

教科書

授業の中で指示する

評価方法

演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術現場実習

担当者：牛津　信忠, 田村　綾子, 中谷　茂一, 野口　祐子, 山口　圭

開講期：秋学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：6単位

講義概要

１.内容

実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。
①利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
②利用者理解とそのニーズの把握及び支援計画の作成
③利用者やその関係者との援助関係の形成
④利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価
⑤チームアプローチの実際
⑥社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
⑦経営やサービスの管理運営の実際
⑧配属実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解
※１つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。

２.学びの意義と目標

①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。
②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。

準備学習(予習)

毎日、その日の実習課題を設定し、その課題を念頭において、実習を行うこと。

準備学習(復習)

その日の実習が終了したら、実習ノートを記入し、実習課題に対する考察を行うこと。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

教科書

授業の中で指示する

評価方法

実習指導者と担当教員による総合評価。実習時間の合計が180時間以上なければ単位を認定しない。また、規定時間数の実習を終了していても評価水準に達していなかったり、社会福祉士としての資質に欠けていたりする場合も単位を認定しない。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

担当者：野口　祐子, 木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。

２.学びの意義と目標

(１)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。

(２)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、指導内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. 社会福祉援助技術現場実習と実習指導の意義　社会福祉援助技術現場実習の目的及び実習指導における個別指導・集団指導の意義
2. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(１)個人のプライバシーの保護の必要性（個人情報保護法の理解を含む）
3. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(２)社会福祉士と守秘義務
4. 現場体験学習及び見学実習　現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）の報告
5. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(１)実習で求められる専門知識、専門援助技術、及び関連知識
6. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(２)基本的コミュニケーションや人間関係形成方法の理解
7. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(３)援助関係形成方法や問題解決能力促進方法の理解
8. 実習先で必要とされる相談援助に関わる知識と技術の理解(４)コミュニティへの働きかけの理解
9. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(１)ケアワークの理解(1)（視聴覚学習）
10. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(２)ケアワークの理解(2)（演習）
11. 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解(３)感染症の理解とその対策
12. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(１)記録の意義と目的
13. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(２)実習記録ノートの意義と目的
14. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(３)記録技法の修得
15. 実習記録ノートへの記録内容と記録方法に関する理解(４)実践評価記録の方法

教科書

授業の中で指示する

評価方法

レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。

社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

担当者：中谷　茂一, 野口　祐子, 山口　圭

開講期：通年　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。

２.学びの意義と目標

【春学期】

(１)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。

(２)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。

【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示された文献の該当箇所を読んでおくこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントの該当箇所を読むとともに、指導内容を150字程度に要約しておくこと。

授業計画

1. 事前学習の目的と意義
2. 配属実習分野と施設等に関する理解①配属実習先の施設・事業者・機関・団体の法的根拠
3. 配属実習分野と施設等に関する理解②配属実習施設を規定する法制度の歴史的変遷と現状
4. 配属実習分野と施設等に関する理解③配属実習施設の歴史的変遷と現行制度における位置づけ
5. 配属実習分野と施設等に関する理解④配属実習施設における職種と期待される資格要件
6. 配属実習分野と施設等に関する理解⑤配属実習施設における他機関・他職種との連携方法
7. 配属実習施設を取り巻く地域社会に関する理解　配属実習施設の地域特性の分析と地域社会の福祉ニーズ
8. 配属実習施設の利用者の理解①利用者の全体的特徴
9. 配属実習施設の利用者の理解②利用者の全体的動向
10. 配属実習施設の利用者の理解③利用者の生活ニーズの把握方法
11. 実習計画の作成①実習計画の目的と意義
12. 実習計画の作成②実習計画作成指導(1)
13. 実習計画の作成③実習計画作成指導(2)
14. 実習計画の作成④実習計画作成指導(3)
15. 実習オリエンテーションの目的と意義　実習オリエンテーションの方法
16. 実習中の諸注意①実習生に求められる態度
17. 実習中の諸注意②実習にあたっての留意事項
18. 学内指導（現場実習期間中）①学内における指導及び自己学習(1)
19. 学内指導（現場実習期間中）②学内における指導及び自己学習(2)
20. 学内指導（現場実習期間中）③学内における指導及び自己学習(3)
21. 学内指導（現場実習期間中）④学内における指導及び自己学習(4)
22. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理①課題の達成状況の評価(1)
23. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理②課題の達成状況の評価(2)
24. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理③個別、及びピア・グループ・スーパービジョンによる課題の整理
25. 実習記録や実習体験をふまえた課題の整理④グループ・スーパービジョンによる課題の整理
26. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成①実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(1)
27. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成②実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(2)
28. 実習記録や実習体験をふまえた実習報告書の作成③実習報告書（実習総括レポート）の作成指導(3)
29. 実習報告会による全体的評価の総括①実習報告会（実習の評価全体総括会）の準備
30. 実習報告会による全体的評価の総括②実習報告会（実習の評価全体総括会）の開催

教科書

授業の中で指示する

評価方法

実習報告会での報告と実習報告書の提出をうけて、それまでのレポート、コメント、および受講態度から総合的に評価する。なお、社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。

社会福祉援助技術論Ａ

担当者：田村　綾子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・相談援助活動の意義
・相談援助の理論と発展
・相談援助の対象
・相談援助の構造と機能
・相談援助の過程
・ケースマネジメントとケアマネジメント
・相談援助のためのアウトリーチ
・相談援助におけるネットワーキング
・相談援助における社会資源の活用・調整・開発
・相談援助における情報通信技術(IT)の活用

２.学びの意義と目標

・ 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。
・ 相談援助の対象について理解する。
・ 相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたテキストの該当箇所を読み、用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

講義で配布されたプリントを読み返しておくとともに、講義内容を150字程度で要約しておくこと。

授業計画

1. 相談援助活動の意義
2. 相談援助の理論と発展　（１）人と環境の相互作用
3. 相談援助の理論と発展　（２）相談援助技術体系の発展
4. 相談援助の理論と発展　（３）システム思考に基づくジェネリックな援助理論
5. 相談援助の対象　（１）社会福祉の対象の概念
6. 相談援助の対象　（２）相談援助の対象の概念と範囲
7. 相談援助の対象　（３）個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点
8. 相談援助の構造と機能　（１）相談援助の構造
9. 相談援助の構造と機能　（２）相談援助の機能
10. 相談援助の過程　（１）相談援助過程の概観
11. 相談援助の過程　（２）インテーク
12. 相談援助の過程　（３）アセスメント①相談援助におけるアセスメントの特徴
13. 相談援助の過程　（４）アセスメント②情報収集の方法
14. 相談援助の過程　（５）アセスメント③情報の分析・生活課題の確定
15. 相談援助の過程　（６）支援の計画
16. 相談援助の過程　（７）支援の実施
17. 相談援助の過程　（８）モニタリングと評価
18. 相談援助の過程　（９）支援の終結とアフターケア
19. ケースマネジメントとケアマネジメント　（１）ケースマネジメントとケアマネジメントの概念
20. ケースマネジメントとケアマネジメント　（２）ケアマネジメントの目的と意義
21. ケースマネジメントとケアマネジメント　（３）ケアマネジメントの方法と留意点
22. 相談援助のためのアウトリーチ　（１）アウトリーチの意義と目的
23. 相談援助のためのアウトリーチ　（２）アウトリーチの方法と留意点
24. 相談援助におけるネットワーキング　（１）ネットワーキングの意義と目的
25. 相談援助におけるネットワーキング　（２）ネットワーキングの方法と留意点
26. 相談援助におけるネットワーキング　（３）ネットワーキングのためのシステムづくり
27. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発　（１）社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
28. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発　（２）社会資源の活用・調整開発の方法と留意点
29. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発　（３）ソーシャルアクションによるシステムづくり
30. 相談援助における情報通信技術(IT)の活用　IT活用の意義と留意点及び支援の概要

教科書

『社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書10　社会福祉援助技術論ＩＩ　相談援助の理論と方法』(全国社会福祉協議会出版部)

評価方法

(1)期末試験　:50% (2)毎回の授業のリアクションペーパー:30%
(3)出席及びレポート:10% (4)なにか:10%

社会福祉援助技術論Ｂ

担当者：鷹野　吉章

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・相談援助における援助関係
・相談援助のための基本技法
・相談援助の実践モデルとアプローチ
・集団を活用した相談援助
・スーパービジョンとコンサルテーション
・相談援助における記録
・事例分析

２.学びの意義と目標

・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。
・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。
・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
・ 相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

準備学習(予習)

授業計画に示されている次回のタイトルについて、授業で指示する参考書の当該箇所を事前に読み用語などを調べておくこと。

準備学習(復習)

授業での講義内容と配布プリントを踏まえて、自分なりに重要と思われる要点を整理すること。また練習問題についてはできなかった問題は解説を読み理解するようにすること。

授業計画

1. 相談援助における援助関係　（１）援助関係の意義と概念
2. 相談援助における援助関係　（２）援助関係の形成方法
3. 相談援助のための基本技法　（１）コミュニケーション技法
4. 相談援助のための基本技法　（２）面接技法①
相談援助における面接の目的
5. 相談援助のための基本技法　（３）面接技法②
相談援助における面接の展開
6. 相談援助のための基本技法　（４）面接技法③
相談援助における面接の形態
7. 相談援助のための基本技法　（５）契約の意義と目的
8. 相談援助のための基本技法　（６）契約の方法と留意点
9. 相談援助のための基本技法　（７）観察技法
10. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（１）相談援助の焦点化と視点
11. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（２）ソーシャルワーク実践のモデル①
12. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（３）ソーシャルワーク実践のモデル②
13. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（４）ソーシャルワーク実践のモデル③
14. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（５）ソーシャルワーク実践のモデル④
15. 相談援助の実践モデルとアプローチ　（６）ソーシャルワーク実践のモデル⑤
16. 集団を活用した相談援助　（１）集団を活用した相談援助の意義と特徴
17. 集団を活用した相談援助　（２）グループワークの原則
18. 集団を活用した相談援助　（３）グループワークの実際
19. スーパービジョンとコンサルテーション　（１）スーパービジョンの意義と目的
20. スーパービジョンとコンサルテーション　（２）スーパービジョンの内容・形態・機能
21. スーパービジョンとコンサルテーション　（３）コンサルテーションの意義と目的
22. 相談援助における記録　（１）記録の意義と目的
23. 相談援助における記録　（２）記録の種類と方法
24. 相談援助における記録　（３）個人情報保護の意義と留意点
25. 事例分析　（１）事例分析の意義と方法
26. 事例分析　（２）相談援助活動の実際　①社会的排除
27. 事例分析　（３）相談援助活動の実際　②児童虐待
28. 事例分析　（４）相談援助活動の実際　③高齢者虐待
29. 事例分析　（５）相談援助活動の実際　④ホームレス
30. 事例分析　（６）相談援助活動の実際　⑤家庭内暴力（D.V）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:80% (2)レポート:20%
出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

社会福祉援助実習

担当者：森島　健

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

この授業では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法論を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する。またその活動の中で、リハビリテーション専門職が行う実践活動について視覚教材などを通して理解する。加えて2000年よりスタートした介護保険の役割についても概説する。後半は実習を通して、高齢者や障がい者の身体面・心理面について学習する。特に障がい体験を実施する事が、介護される側の心理面を共感するための一助となり、身体状況と環境面との関係を考えていくための、手助けになると考えている。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。

２.学びの意義と目標

本講義では、地域リハビリテーションの概要を学ぶことにより、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、彼らへの共感への第一歩になると考えている。今後、卒業し社会に出ることにより、様々な人々と接する機会が増えると思うが、そこに対応できる人間形成にもなると考えている。
教育目標は、「地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習する」ことである。
行動目標は、以下の５点である。
①地域リハビリテーションの理念について説明できる。
②地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できる。
③地域リハビリテーションにおいて対象者の心理面の重要性を説明できる。
④障害体験を実施し、環境面との重要性を説明できる。
⑤高齢者や障害者の心情を理解することができる。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われる内容について今まで学習した資料を集めておくこと。

準備学習(復習)

授業で配布した資料を読み直し、内容を理解し説明できるようにすること。

授業計画

1. リハビリテーションとは何かを考える
2. 地域・コミュニティーとは何かを考える
3. 地域リハビリテーションの理念・目的・役割について学ぶ
4. 地域リハビリテーションの歴史的背景について学ぶ
5. 教授方法について、ワークショップなどの考え方について学ぶ
6. 地域の特性について（在宅と施設の違いを考える）
7. 社会福祉資源について考える
8. ケアマネージメントの必要性について学ぶ
9. 介護保険とリハビリテーションについて
10. 高齢者や障害者の心理面について
11. コミュニケーションスキルをあげるために必要なこと
12. 学内実習（障害体験）
13. 福祉用具・住宅改修について学ぶ
14. 北欧における地域リハビリテーションについて
15. テストおよび解説

教科書

プリントを配布する
教科書は使用しません。必要な資料は授業時に配布します。

評価方法

(1)試験:100%

社会福祉原論

担当者：牛津　信忠

開講期：秋学期　　必修・選択：必修科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・現代社会における福祉制度と福祉政策
・福祉の思想と哲学
・福祉制度の発達過程
・福祉政策におけるニーズと資源
・福祉政策の課題
・福祉政策の構成要素
・福祉政策の関連領域
・福祉政策の国際比較
・相談援助活動と福祉政策の関係

２.学びの意義と目標

・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
・福祉政策の課題について理解する。
・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

準備学習(予習)

前回授業未終了箇所のレジュメ、授業時に指示する参考文献の該当箇所、福祉小六法の関連個所を、事前に読み、授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業のレジュメと参考文献等を照合させ、毎回、必ず復習すること。最低3回に一度は行う終了箇所を範囲とした小テストに備えること。

授業計画

1. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（１）わが国における福祉制度の概念と理念
2. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（２）福祉政策の概念と理念
3. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（３）福祉制度と福祉政策の関係
4. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（４）福祉政策と政治の関係
5. 現代社会における福祉制度と福祉政策　（５）福祉政策の主体と対象
6. 福祉の思想と哲学　（１）福祉の原理をめぐる哲学と倫理
7. 福祉の思想と哲学　（２）福祉の原理をめぐる理論
8. 福祉制度の発達過程　（１）前近代社会と福祉
9. 福祉制度の発達過程　（２）近代社会と福祉
10. 福祉制度の発達過程　（３）現代社会と福祉
11. 福祉政策におけるニーズと資源　（１）需要とニーズの概念
12. 福祉政策におけるニーズと資源　（２）資源の概念
13. 福祉政策の課題　（１）福祉政策と社会問題　①貧困、孤独、失業
14. 福祉政策の課題　（２）福祉政策と社会問題　②社会的排除、ヴァルネラビリティ
15. 福祉政策の課題　（３）福祉政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット）
16. 福祉政策の構成要素　（１）福祉政策の論点　①福祉政策の課題と国際比較
17. 福祉政策の構成要素　（２）福祉政策の論点　②効率性と公平性、必要と資源
18. 福祉政策の構成要素　（３）福祉政策の論点　③普遍主義と選別主義
19. 福祉政策の構成要素　（４）福祉政策の論点　④自立と依存・自己選択とパターナリズム
20. 福祉政策の構成要素　（５）福祉政策の論点　⑤参加とエンパワーメント
21. 福祉政策の構成要素　（６）福祉政策における政府・市場・国民の役割
22. 福祉政策の構成要素　（７）福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
23. 福祉政策の構成要素　（８）福祉サービス供給部門
24. 福祉政策の構成要素　（９）福祉サービスの供給と利用の過程
25. 福祉政策の関連領域　（１）所得と福祉政策
26. 福祉政策の関連領域　（２）保健医療と福祉政策
27. 福祉政策の関連領域　（３）福祉政策と教育・住宅・労働政策
28. 福祉政策の国際比較　（１）欧米諸国の福祉政策
29. 福祉政策の国際比較　（２）東アジア諸国の福祉政策
30. 相談援助活動と福祉政策の関係

教科書

プリントを配布する
主としてスライドショウ（パワーポイントによる）授業。

評価方法

(1)授業出席率:20% (2)小テストに見る思考力:20% (3)授業中の態度:10% (4)期末論文形式のテスト:50%

社会保障論

担当者：宮寺　良光

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・現代社会における社会保障制度の課題
・社会保障の概念や対象およびその理念
・社会保障の歴史
・社会保障の財源と費用
・社会保険と社会扶助の関係
・社会保障制度の体系
・社会保障制度の概要（年金保険・医療保険・介護保険・労働保険・その他社会手当）
・公的保険制度と民間保険制度の関係
・諸外国における社会保障制度の概要

２.学びの意義と目標

・ 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。
・ 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。
・ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
・ 社会保障制度の体系と概要について理解する。
・ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。
・ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

準備学習(予習)

(１)講義内容の予習 → テキストを読解してくる

準備学習(復習)

(１)講義内容の復習 →
毎回出題する課題に対して、400文字程度のレポートを提出する

授業計画

1. 現代社会における社会保障制度の課題　（1）人口動態の変化、少子・高齢・人口減少社会
2. 現代社会における社会保障制度の課題　（2）労働・雇用環境の変化
3. 現代社会における社会保障制度の課題　（3）少子高齢・人口減少社会・政治・経済的な問題と社会保障の課題
4. 社会保障の概念や対象およびその理念
5. 社会保障の歴史　（1）欧米における歴史的展開
6. 社会保障の歴史　（2）日本における歴史的展開
7. 社会保障の財源と費用　（1）社会保障の財源及び給付費
8. 社会保障の財源と費用　（2）国民負担率と財源・費用に関する国家的課題
9. 社会保険と社会扶助の関係　（1）社会保険の概念と範囲
10. 社会保険と社会扶助の関係　（2）社会扶助の概念と範囲
11. 社会保障制度の体系
12. 年金保険制度　（1）年金保険制度の沿革と概要
13. 年金保険制度　（2）国民年金
14. 年金保険制度　（3）厚生年金・共済年金
15. 年金保険制度　（4）年金制度をめぐる最近の動向
16. 医療保険制度　（1）医療保険制度の沿革と最近の動向
17. 医療保険制度　（2）国民健康保険
18. 医療保険制度　（3）健康保険と共済組合制度
19. 医療保険制度　（4）後期高齢者医療制度
20. 介護保険制度　（1）創設の経緯
21. 介護保険制度　（2）介護保険制度の概要
22. 介護保険制度　（3）介護保険制度をめぐる最近の動向
23. 労働保険制度　（4）労働保険制度の沿革と最近の動向
24. 労働保険制度　（1）労災保険
25. 労働保険制度　（2）雇用保険
26. 社会手当制度
27. 公的保険制度と民間保険制度の関係　（1）民間保険に期待される役割
28. 公的保険制度と民間保険制度の関係　（2）民間保険の概要
29. 諸外国における社会保障制度の概要　（1）社会保障の国際比較
30. 諸外国における社会保障制度の概要　（2）先進諸国における社会保障制度の概要

教科書

唐鎌直義 『脱貧困の社会保障』 (旬報社)

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30% (3)試験:40%

就労支援サービス

担当者：野口　勝則

開講期：春学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・自立支援と就労
・雇用・就労の動向と労働施策の概要
・障害者と就労支援
・低所得者と就労支援
・就労支援分野との連携と実際

２.学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。
・就労支援分野との連携について理解する。

準備学習(予習)

教科書に目を通しておくとともに、普段から雇用情勢（失業率、高校・大学卒業予定者の内定状況等）、障害者・低所得者等の就労問題について、ニュース等を通じて理解しておくことが望まれます。

準備学習(復習)

講義では補足資料も配付し、使用します。
受講後は、教科書、配付資料、筆記試験に目をとおし、苦手なところをカバーすることが望まれます。

授業計画

1. 自立支援と就労

2. 雇用・就労の動向と労働施策の概要

3. 障害者と就労支援　（１）就労支援制度(1)　障害者福祉制度における就労支援制度
4. 障害者と就労支援　（２）就労支援制度(2)　障害者雇用施策の概要

5. 障害者と就労支援　（３）職業リハビリテーション機関の役割と実際
6. 障害者と就労支援　（４）就労支援に係る専門職の役割と実際

7. 低所得者と就労支援

8. 就労支援分野との連携と実際

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第18巻就労支援サービス第３版』(中央法規出版)

評価方法

(1)筆記試験:50% (2)出席:50%
２日間の講義です、各日ごとに筆記試験を行います。その結果と出席率により評価を行います。

障害者福祉論

担当者：木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

【山口先生執筆予定】

２.学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

準備学習(予習)

1）シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2）授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 統計からみる現在の日本の障害者の実態
2. 障害とは何か（１）国際的な障害の概念ICIDHとICF
3. 障害とは何か（２）ICFによる障害のとらえ方
4. 障害者に対する処遇の変遷―障害者はどのように扱われてきたか―
5. 障害者福祉の思想（１）ノーマライゼーション―脱施設化運動―
6. 障害者福祉の思想（２）リハビリテーション、自立と自立生活
7. 国際連合と障害者問題（１）1940年代～1960年代
8. 国際連合と障害者問題（２）1970年代～1990年代
9. 国際連合と障害者問題（３）2000年代以降
10. わが国の障害者福祉制度の発展過程―全体を俯瞰する
11. わが国の障害者にかかる法体系（１）障害者基本法の概要
12. わが国の障害者にかかる法体系（２）身体障害、知的障害、精神障害関連法の概要
13. わが国の障害者にかかる法体系（３）障害者自立支援法の概要
14. わが国の障害者にかかる法体系（４）障害者総合支援法の概要
15. 障害者に関する法律
16. 障害者総合支援法の具体的内容について（１）
17. 障害者総合支援法の具体的内容について（２）
18. 生活機能障害の理解（１）身体障害の種類と原因、特性と支援
19. 生活機能障害の理解（２）知的障害の原因と特性と支援
20. 生活機能障害の理解（３）精神障害の種類と原因、特性と支援
21. 生活機能障害の理解（４）発達障害の種類と原因、特性と支援
22. 生活機能障害の理解（５）障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
23. 障害者の生活理解（１）障害者を取り巻く社会情勢
24. 障害者の生活理解（２）事例から見る障害者の生活実態
25. 障害者の生活理解（３）事例から見る地域生活の実態と福祉ニーズ
26. 支援サービスの提供の実際（１）サービス提供の実際と専門職の役割
27. 支援サービスの提供の実際（２）障害者福祉分野の他職種連携・ネットワーキング
28. 支援サービスの提供の実際（３）相談支援事業所の役割と活動の実際
29. 支援サービスの提供と実際（４）地域生活定着支援センターの役割と活動の実際
30. 試験

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:70%

障害者福祉論Ａ

担当者：木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・障害の基礎的理解
・障害者福祉の基本理念
・生活機能障害の理解
・障害者の生活理解
・障害者の実態

２.学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。

準備学習(予習)

1）シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2）授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害の基礎的理解（1）　国際的な障害の概念　①ICIDHからICFへ
2. 障害の基礎的理解（2）国際的な障害の概念　②ICFによる障害のとらえ方
3. 障害者福祉の基本理念（1）国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
4. 障害者福祉の基本理念（2）ノーマライゼーションとリハビリテーション
5. 障害者福祉の基本理念（3）自立と自立生活
6. 生活機能障害の理解（1）身体障害の種類と原因、特性
7. 生活機能障害の理解（2）知的障害の原因と特性
8. 生活機能障害の理解（3）精神障害の種類と原因、特性
9. 生活機能障害の理解（4）発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解（5）障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解（6）障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解（1）障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解（2）事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解（3）事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)平常点:30%:出席 (2)試験:70%

障害者福祉論A/B

担当者：木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・障害の基礎的理解
・障害者福祉の基本理念
・生活機能障害の理解
・障害者の生活理解
・障害者の実態
・障害者福祉制度の発展過程
・障害者にかかわる法体系
・障害者自立支援法
・組織及び団体の役割と実際
・障害者に関連する法律

２.学びの意義と目標

・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。
・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。
・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。
・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。

準備学習(予習)

1）シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2）授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害の基礎的理解（1）　国際的な障害の概念　①ICIDHからICFへ
2. 障害の基礎的理解（2）国際的な障害の概念　②ICFによる障害のとらえ方
3. 障害者福祉の基本理念（1）国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想
4. 障害者福祉の基本理念（2）ノーマライゼーションとリハビリテーション
5. 障害者福祉の基本理念（3）自立と自立生活
6. 生活機能障害の理解（1）身体障害の種類と原因、特性
7. 生活機能障害の理解（2）知的障害の原因と特性
8. 生活機能障害の理解（3）精神障害の種類と原因、特性
9. 生活機能障害の理解（4）発達障害の種類と原因、特性
10. 生活機能障害の理解（5）障害疑似体験
11. 生活機能障害の理解（6）障害が及ぼす心理的影響と障害の受容
12. 障害者の生活理解（1）障害者を取り巻く社会情勢
13. 障害者の生活理解（2）事例からみる障害者の生活実態
14. 障害者の生活理解（3）事例からみる地域生活の実態と福祉ニーズ
15. 障害者の実態
16. 障害者福祉制度の発展過程
17. 障害者にかかわる法体系（1）障害者基本法の概要
18. 障害者にかかわる法体系（2）身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
19. 障害者自立支援法（1）　障害者自立支援法の目的
20. 障害者自立支援法（2）　支給決定の仕組みとプロセス
21. 障害者自立支援法（3）
自立支援給付・地域生活支援事業等の体系
22. 障害者自立支援法（4）　障害福祉計画、苦情解決・審査請求
23. 障害者自立支援法（5）　障害者自立支援制度の動向
24. 組織及び団体の役割と実際
25. 支援サービス提供の実際（1）サービス提供の実際と専門職の役割
26. 支援サービス提供の実際（2）障害者福祉分野の多職種連携、ネットワーキングの実際
27. 支援サービス提供の実際（3）相談支援事業所の役割と活動の実際
28. 障害者に関連する法律　（1）発達障害者支援法
29. 障害者に関連する法律（2）高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
30. 共生社会をめざして

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)平常点:30%:出席 (2)試験:70%

障害者福祉論Ｂ

担当者：木下　大生

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・障害者福祉制度の発展過程
・障害者にかかわる法体系
・障害者自立支援法
・組織及び団体の役割と実際
・障害者に関連する法律

２.学びの意義と目標

・障害者福祉制度の発展過程について理解する。
・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際についてについて理解する。

【注意事項】
「障害者福祉論Ａ」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。

準備学習(予習)

1）シラバスを見て、次回の授業範囲の教科書あるいは資料を必ず読んできて下さい。
2）授業内でとったノート整理を必ず次回の授業までに行ってください。

準備学習(復習)

講義で行った内容を復習し、理解できていない箇所を明確にし、自身でわかるまで調べて下さい。調べてもわからない場合は質問してください。

授業計画

1. 障害者福祉制度の発展過程
2. 障害者にかかわる法体系（1）障害者基本法の概要
3. 障害者にかかわる法体系（2）身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法の概要
4. 障害者自立支援法（1）障害者自立支援法の目的
5. 障害者自立支援法（2）支給決定の仕組みとプロセス
6. 障害者自立支援法（3）自立支援給付・地域生活支援事業等の体系
7. 障害者自立支援法（4）障害福祉計画、苦情解決・審査請求
8. 障害者自立支援法（5）障害者自立支援制度の動向
9. 組織及び団体の役割と実際
10. 支援サービス提供の実際（1）サービス提供の実際と専門職の役割
11. 支援サービス提供の実際（2）障害者福祉分野の多職種連携、ネットワーキングの実際
12. 支援サービス提供の実際（3）相談支援事業所の役割と活動の実際
13. 障害者に関連する法律　（1）発達障害者支援法
14. 障害者に関連する法律（2）高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）等
15. 共生社会をめざして

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』(中央法規出版)

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:70%

人体の構造と機能及び疾病

担当者：兪　今

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・人の成長・発達
・健康の捉え方
・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方
・障害の概要
・リハビリテーションの概要
・こころとからだのしくみの基本的理解
・生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
・疾病の概要

２.学びの意義と目標

・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長
・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方と概要について理解する
。
・リハビリテーションの概要について理解する。
・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。

準備学習(予習)

レポートやテキストを通し予習

準備学習(復習)

テキスト、プリント、問題集を参考に復習

授業計画

1. 人の成長・発達

2. 健康の捉え方・国際生活機能分類（ＩＣＦ）の基本的考え方

3. 障害の概要・リハビリテーションの概要

4. こころとからだのしくみ（心理面及び身体面）の基本的理解　こころとからだのしくみの基礎的理解
5. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(1)身じたくや移動に関するこころとからだのしくみ
6. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(2)食事に関するこころとからだのしくみ
7. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(3)入浴・清潔保持や排泄に関するこころとからだのしくみ
8. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(4)睡眠に関するこころとからだのしくみ
9. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(5)終末期に関するこころとからだのしくみ
10. 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解
(6)緊急時に関するこころとからだのしくみ
11. 疾病の概要 (1) 悪性腫瘍

12. 疾病の概要 (2) 生活習慣病

13. 疾病の概要 (3) 感染症

14. 疾病の概要 (4) 神経・精神疾患

15. 疾病の概要 (5) 先天性・精神疾患、難病

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病−医学一般　第2版』(中央法規出版)
長谷川 和夫 (著), 遠藤 英俊 (著) 『こころとからだのしくみ 生活場面・状態像に応じた支援の理解(介護福祉士養成テキスト17)』(建帛社)

評価方法

(1)出席:30% (2)WS:30% (3)レポート:20% (4)テスト:20%

心理学

担当者：堀　恭子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容
・心理学の特徴と歴史
・人の心理学的理解
・人の成長・発達と心理
・日常生活と心の健康
・心理的支援の方法と実際

２.学びの意義と目標
・ 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
・ 人の成長・発達と心理との関係について理解する。
・ 日常生活と心の健康との関係について理解する。
・ 心理的支援の方法と実際について理解する。

準備学習(予習)

講義で扱われる内容に関するプリントを配布します．プリントについて講師が設定した問いに対する回答，疑問に思った事柄，まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出してもらいます．

準備学習(復習)

講義で扱った内容について，授業内に複数回の小テストを行って講義内容の復習を行い，定着を確認します．

授業計画

1. 心理学の特徴と歴史
2. 人の心理学的理解（1）　心と脳
3. 人の心理学的理解（2）　情動・情緒
4. 人の心理学的理解（3）　欲求・動機づけと行動
5. 人の心理学的理解（4）　感覚・知覚・認知
6. 人の心理学的理解（5）　学習・記憶・思考
7. 人の心理学的理解（6）　知能・創造性
8. 人の心理学的理解（7）　人格・性格
9. 人の心理学的理解（8）　集団
10. 人の心理学的理解（9）　適応
11. 人の心理学的理解（10）人と環境
12. 人の成長・発達と心理（1） 発達の定義、発達段階
13. 人の成長・発達と心理(2) 発達課題、生涯発達心理
14. 人の成長・発達と心理（3）
    アタッチメント、アイデンティティ、喪失体験
15. 日常生活と心の健康（1）ストレッサー
16. 日常生活と心の健康（2）コーピング
17. 日常生活と心の健康（3）ストレス症状（うつ症状、アルコール依存、燃え尽き症候群（バーンアウト）を含む）
18. 日常生活と心の健康（4）ストレスマネジメント
19. 心理的支援の方法と実際（1）心理検査の概要　①人格検査、発達検査
20. 心理的支援の方法と実際（1）心理検査の概要　①人格検査、発達検査
21. 心理的支援の方法と実際（3）カウンセリングの概念と範囲
22. 心理的支援の方法と実際（4）カウンセリングの目的、対象、方法
23. 心理的支援の方法と実際（5）ピアカウンセリングの目的、方法
24. 心理的支援の方法と実際（6）心理療法　①精神分析、遊戯療法
25. 心理的支援の方法と実際（7）心理療法　②行動療法
26. 心理的支援の方法と実際（8）心理療法　③家族療法
27. 心理的支援の方法と実際（9）心理療法　④ブリーフ・サイコセラピー、心理劇
28. 心理的支援の方法と実際（10）心理療法　⑤動作療法、ＳＳＴ（生活技能訓練）
29. 心理的支援の方法と実際（11）臨床心理士の役割
30. 心理的支援の方法と実際（12）カウンセリングとソーシャルワークとの関係

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)小テスト:60% (3)期末レポート:10%

心理学研究法

担当者：小山　義徳

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

この講義は大きく分けて２つのパートに分かれています．前半部（1〜14回）の記述統計学の部分では，データの特徴の記述の仕方を学びます．後半部（15〜30回）の推測統計学の部分では，統計的仮説の検定の仕方や実験計画法について学びます．心理統計は講義を聴いているだけでは理解が進まず，自分で手を動かして計算してみてはじめて分かるという部分がありますので，講義と実習（コンピュータ室でのEXCELの操作と電卓）を織り交ぜた授業内容を予定しています．

２.学びの意義と目標

本講義を受講することで，統計の基礎的な知識が身に付きます．本講義は，新聞や雑誌，インターネットに載っているデータの適切な読み取り方が学び．EXCELを用いたグラフ作成，データ分析のスキルを受講生が獲得することを目標とする．

準備学習(予習)

講義受講前に配布資料を読んで，講師が設定した問いに回答する課題を予習として課す予定である．

準備学習(復習)

数回の講義または演習ごとに，知識の定着を確認するために確認課題を設ける．

授業計画

1. イントロダクション・心理統計学とは？
2. 変数の種類
3. 尺度の水準
4. データの図表化
5. 代表値
6. 散布度
7. 標準化・偏差値
8. 共分散・相関
9. 相関係数の性質
10. 質的変数の関連
11. 母集団と標本
12. 正規分布
13. 標本分布
14. 推定と推定量
15. 統計的仮説検定　基本的な考え方
16. 統計的仮説検定　用語
17. １つの平均値の検定
18. 相関係数の検定
19. ｔ検定による平均値の比較
20. 2つの平均値の比較
21. 分散分析
22. 多重比較とは
23. 交互作用とは
24. 実験計画とは
25. カイ２乗検定（適合性の検定）
26. カイ２乗検定（独立性の検定）
27. 自主調査演習１
28. 自主調査演習２
29. 自主調査演習３
30. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)演習課題:40% (2)中間テスト:30% (3)期末テスト:30%

心理学実験実習Ａ

担当者：長谷川　恵美子, 堀　恭子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

１．内容
少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をとおして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。

２.学びの意義と目標
　基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的処理などを学び、心理学の実験的な研究方法を習得する。

準備学習(予習)

この授業は実習形式の授業である。授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもちながら積極的に取組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 心理学実験に関するオリエンテーション
2. 心理学実験と倫理(1)
3. 心理学実験と倫理(2)
4. 視覚の特徴と錯視(1)
5. 視覚の特徴と錯視(2)
6. 視覚の特徴と錯視(3)
7. 聴覚の特徴(1)
8. 聴覚の特徴(2)
9. 記憶の特徴(1)
10. 記憶の特徴(2)
11. 記憶の特徴(3)
12. 学習の特徴（1)
13. 学習の特徴(2)
14. 学習の特徴(3)
15. イメージと測定(1)
16. イメージと測定(2)
17. 欲求とフラストレーション(1)
18. 欲求とフラストレーション(2)
19. 印象や態度の測定(1)
20. 印象や態度の測定(2)
21. 印象や態度の測定(3)
22. ソシオメトリー(1)
23. ソシオメトリー(2)
24. ソシオメトリー(３)
25. 心理検査法入門(1)
26. 心理検査法入門(2)
27. 質問紙調査とその解釈（１）
28. 質問紙調査とその解釈（２）
29. 認知機能と検査法(1)
30. 認知機能と検査法(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常レポート:70% (2)授業への積極的参加状況:30%

心理学実験実習Ｂ

担当者： 長谷川　恵美子, 大島　由之

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をとおして学ぶことを目的としている。

２.学びの意義と目標

少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。

準備学習(予習)

授業時に配布された資料を熟読するとともに、各テーマに対し自分なりの考えもちながら積極的に取組み、各課題についてレポート形式にまとめ提出すること。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 心理学研究と倫理(1)
2. 心理学研究と倫理(2)
3. 実験計画法と報告方法(1)
4. 実験計画法と報告方法(2)
5. 社会心理学的実験(1)
6. 社会心理学的実験(2)
7. 社会心理学的実験(3)
8. 社会心理学的実験(4)
9. 知能と発達の検査(1)
10. 知能と発達の検査(2)
11. 知能と発達の検査(3)
12. 知能と発達の検査（４）
13. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(1)
14. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(2)
15. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(３)
16. 情動と生理測定（心拍数、血圧、皮膚電気活動など）(４)
17. 性格検査(1)
18. 性格検査(2)
19. 性格検査(3)
20. 性格検査(4)
21. 神経心理学的心理検査(1)
22. 神経心理学的心理検査(2)
23. 行動観察(1)
24. 行動観察(2)
25. 認知的葛藤に関する実験(1)
26. 認知的葛藤に関する実験(2)
27. 箱庭療法(1)
28. 箱庭療法(2)
29. まとめ(1)
30. まとめ(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常レポート:70% (2)授業への積極的参加:30%

スクールソーシャルワーク論

担当者：天野　敬子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

スクールソーシャルワークは教育現場で展開するソーシャルワークである。学校で子どもが抱える諸問題とその背景要因を学び、子どもへの支援の在り方を理解する。

２.学びの意義と目標

スクールソーシャルワーカーの役割と意義を学び、スクールソーシャルワークの展開過程を具体的にイメージできるようになる。

準備学習(予習)

レポート発表をする学生は、事前に調べて発表資料を作成する。

準備学習(復習)

学んだことを確認し、ニュースや新聞の関連記事を読んで、見識を深める。

授業計画

1. 開講にあたっての注意事項およびシラバスを解説する。
2. DVD「スクールソーシャルワーカーの仕事」を視聴して全体像をつかむ。
3. 子どもの現状１　「児童虐待」について
4. 子どもの現状２　「いじめ」について
5. 子どもの現状３　「不登校」について
6. 子どもの現状４　「非行」について
7. SSWの歴史１　世界
8. SSWの歴史２　日本
9. 背景にある問題要因１　「発達障害」
10. 背景にある問題要因２　「精神障害」
11. 背景にある問題要因３　「子どもの貧困」（１）
12. 背景にある問題要因３　「子どもの貧困」（２）
13. 学校という組織&ケース会議について
14. 他機関との連携
15. 総括

教科書

山野則子・野田正人・半羽利美佳『よくわかるスクールソーシャルワーク』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席率:40% (2)レポート発表:10% (3)授業態度:10% (4)テスト:40%

性格心理学

担当者：須川　聡子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

人間の行動や意識的経験は，同じ状況においてでさえ，人によって少なからず異なります。一方，状況が変化しても，その人に特有の，ある程度一貫した行動や意識的経験が認められます。性格とは，このような個人差と個人内の一貫性に関わる概念であり、その人のその人らしさを形作っているものです。本講では，１）性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論を紹介し，２）自己や他者の性格についての理解を深めるため、講義にあわせて、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めます。

２.学びの意義と目標

性格研究において重要な役割を果たしてきた概念や理論について学び，心理学において個人差の問題を取り扱うための基礎知識を習得します。その上で、多面的なアプローチをもとに考えたり体験したりすることで、自己、他者の内面をより深く理解できるようになることを目標としています。

準備学習(予習)

実習は、その前までの回の授業内容と連動しているため、実習前には内容を再確認すること。

準備学習(復習)

毎回配布するプリントと板書内容を振り返り、理解を定着させること。
実習課題、学期末レポート課題を丁寧に取り組み、提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の流れ、評価方法について）
2. 性格の定義・研究史
3. 性格の理論：類型論と特性論
4. 性格検査法（１）：質問紙法・投映法
5. 【実習１】：投映法を体験しよう
6. 性格検査法（２）：作業検査法とテストバッテリー
7. 学派による捉え方の違い（１）：　精神分析から
8. 学派による捉え方の違い（２）：　クライエント中心療法と認知行動療法から
9. 【実習２】：自分の認知・感情・行動について考えてみよう
10. 性格の形成
11. 人間関係・家族関係の中で性格を捉える
12. 面接法の技法
13. 【実習３】：パーソナリティ障害に対する理解を深めよう
14. 適応と性格：臨床的問題と支援
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業への取り組み:40% (2)実習課題の提出:30%
(3)学期末レポート:30%

精神医学

担当者：高野　覚

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

① 精神疾患総論（代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）
② 精神疾患の治療
③ 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟
④ 精神科治療における人権擁護
⑤ 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割
⑥ 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性

２.学びの意義と目標

① 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。
② 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。
③ 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。
④ 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。

準備学習(予習)

特に必要ないですが、マンガだけでも読んでおくと理解が深まります。

準備学習(復習)

特に必要ないです。

授業計画

1. オリエンテーション/精神医学、精神医療の歴史
2. 精神疾患総論　1)脳および神経の生理・解剖
3. 精神疾患総論　2)代表的な疾患種類
4. 精神疾患総論　3)成因と分類
5. 精神疾患総論　4)症状と状態像
6. 精神疾患総論　5)診断法　①その手順と方法
7. 精神疾患総論　5)診断法　②心理検査と身体的検査
8. 精神疾患総論　6)治療法、経過、本人や家族への支援
9. 代表的な精神疾患　1)症状性を含む器質性精神障害（認知症を含む）
10. 代表的な精神疾患　2)精神作用物質使用による精神および行動の障害
11. 代表的な精神疾患　3)統合失調症、統合失調症様障害および妄想①
12. 代表的な精神疾患　3)統合失調症、統合失調症様障害および妄想②
13. 代表的な精神疾患　4)気分（感情）障害①
14. 代表的な精神疾患　4)気分（感情）障害②
15. 代表的な精神疾患5)神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害6)生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
16. 代表的な精神疾患　7)成人の人格および行動の障害
17. 代表的な精神疾患8)精神遅滞9)心理的発達の障害10)児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害・特定不能の精神障害
18. 代表的な精神疾患 11)神経系の疾患(てんかんを含む)
19. 治療法　1)身体的療法 (1)薬物療法とその副作用/(2)電気けいれん療法
20. 治療法　2)精神療法/3)環境、社会療法(SST/家族心理教育等)/4)精神科リハビリテーション
21. 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟　1)病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む)
22. 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟　2)精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む)
23. 精神科治療における人権擁護　1)国際的動向と法的基準
24. 精神科治療における人権擁護　2)日本の精神保健福祉の現状と課題
25. 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割　1)多/超職種チームの意義とチームづくり
26. 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割　2)多/超職種チームにおける精神保健福祉士の役割
27. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性　1）連携の必要性と意義
28. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性　2）連携における精神保健福祉士の役割
29. 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性　3）アウトリーチチームと精神保健福祉士
30. まとめ

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座〈1〉精神疾患とその治療』(中央法規出版)
ゆうき　ゆう『マンガで分かる心療内科　1』(ヤングキングコミックス)
高野　良英『対人恐怖と不潔恐怖』(金剛出版)

評価方法

(1)期末試験:100%

精神科リハビリテーション学

担当者：田村　綾子

開講期：通年　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

① 精神保健医療福祉の歴史と動向　②
精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識　③
精神科リハビリテーションの概念と構成　④
精神科リハビリテーションのプロセス　⑤ 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割　⑥ 精神障害者の支援モデル　⑦地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方　⑧精神障害者のケアマネジメント

２.学びの意義と目標

① 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。　② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。　③ 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。
　④地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

準備学習(予習)

シラバスに基づき、該当箇所を教科書で予習しておくこと。

準備学習(復習)

毎回リアクションペーパーを用いて、授業内容について理解できたこと、考察、疑問点を言語化するので、後日再考して理解を深めるとともに疑問点は各自調べておくこと。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.
16.
17.
18.
19.
20.
21.
22.
23.
24.
25.
26.
27.
28.
29.
30.

教科書

プリントを配布する

評価方法

試験６割、レポート１割、出席率とリアクションペーパー各15%の合計で総合的に評価する。

精神科リハビリテーション学Ａ

担当者： 相川　章子, 行實　志都子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

① 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割
② 精神障害者の支援モデル
③ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方
④ 精神障害者のケアマネジメント

２.学びの意義と目標

① 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。
② 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

準備学習(予習)

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神障害者支援の実践モデル　1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
3. 精神障害者支援の実践モデル　2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
4. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　1)精神専門療法　2)家族教育プログラム
5. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　3)精神科デイケア
6. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　4)医療機関のアウトリーチ
7. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　5)チーム医療の概要/6)医療機関における多職種との協働・連携
8. 精神障害者支援の実践モデル　1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
9. 精神障害者支援の実践モデル　2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
10. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方　1)地域ネットワーク
11. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方　2)アウトリーチ/3)地域生活支援事業と訪問援助
12. 　4)家族会およびセルフヘルプグループ/5)精神保健福祉ボランティアの育成と活用
13. 精神障害者のケアマネジメント　1)原則/2)意義と方法
14. 精神障害者のケアマネジメント　3)展開過程/4)チームケアとチームワーク/5）事例による検討
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

期末試験６割、レポート１割、出席率とリアクションペーパー各15%として総合的に評価する。

精神科リハビリテーション学Ｂ

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

① 医療機関における精神科リハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割
② 精神障害者の支援モデル
③ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方
④ 精神障害者のケアマネジメント

２.学びの意義と目標

① 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む。）の知識と技術及び活用の方法について理解する。
② 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク（地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む。）の実際について理解する。

準備学習(予習)

シラバスを参照し、指定テキストの該当項目を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業終了時に、リアクションペーパーを用いて授業内容のうち理解できたこと、考察、疑問点を毎回言語化を促す。その内容について各自で再考し、疑問点は自主的に調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神障害者支援の実践モデル　1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
3. 精神障害者支援の実践モデル　2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
4. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　1)精神専門療法　2)家族教育プログラム
5. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　3)精神科デイケア
6. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　4)医療機関のアウトリーチ
7. 医療機関における精神科リハビリテーションの展開　5)チーム医療の概要/6)医療機関における多職種との協働・連携
8. 精神障害者支援の実践モデル　1)精神障害者支援の実践モデルの意味と内容
9. 精神障害者支援の実践モデル　2)代表的な精神障害者支援の実践モデル
10. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方　1)地域ネットワーク
11. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方　2)アウトリーチ/3)地域生活支援事業と訪問援助
12. 　4)家族会およびセルフヘルプグループ/5)精神保健福祉ボランティアの育成と活用
13. 精神障害者のケアマネジメント　1)原則/2)意義と方法
14. 精神障害者のケアマネジメント　3)展開過程/4)チームケアとチームワーク/5）事例による検討
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

期末試験６割、レポート１割、出席率とリアクションペーパー各15%として総合的に評価する。

精神障害者の生活支援システム

担当者：大野　和男

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

① 精神障害者の概念
② 精神障害者の生活の実際
③ 精神障害者の生活と人権
④ 精神障害者の居住支援
⑤ 精神障害者の就労支援
⑥ 精神障害者の生活支援システム
⑦ 市町村における相談援助
⑧ その他の行政機関における相談援助

２.学びの意義と目標

① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。
② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。
③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。
④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。

準備学習(予習)

最初の授業時に授業日程表を配布する。それに沿って各時限の授業を進行するので、それにあわせて指定したテキストの該当するところを熟読して授業に臨むことにより、科目への興味と理解が深まる。

準備学習(復習)

各授業時に、抄録と関係資料を印刷物として配布して授業を進める。あわせて、参考文献等についても紹介するので、授業後の学習を深めるために有効に活用してもらいたい。

授業計画

1. オリエンテーション/精神障害者の概念　1）障害の概念/2）障害者基本法における精神障害者
2. 精神障害者の概念　3）精神保健福祉法における精神障害/4）精神障害者の特性
3. 精神障害者の生活の実際　1）精神障害者の現状/2）精神障害者と家族の現状
4. 精神障害者の生活の実際　3）精神障害者と地域社会/4）海外における地域生活支援モデルの動向
5. 精神障害者の生活と人権　1）精神障害者の生活支援の理念と概要/2）地域生活における精神障害者の人権
6. 精神障害者の地域生活支援システム　1）精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム/2）相談援助
7. 精神障害者の地域生活支援システム　3）雇用・就業以外の就労/4）余暇活動
8. 精神障害者の地域生活支援システム　5）ソーシャル・サポート・ネットワーク/6）地域生活支援システムの実際
9. 精神障害者の居住支援　1）居住支援制度の歴史的展開/2）居住の場の確保と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の居住支援　3）居住支援の実際と精神保健福祉士の役割/4）居住支援にかかわる専門職と役割/5）今後の居住支援
11. 精神障害者の就労支援　1）雇用・就業支援制度の概要/2）雇用・就業支援制度の歴史的展開
12. 精神障害者の就労支援　3）雇用・就業に関わる専門職/4）雇用・就業支援の実際
13. 精神障害者の就労支援　5）福祉的就労における支援の実際/6）雇用・就業支援における近年の動向
14. 行政における相談援助　1）市町村における相談援助システム/2）その他の行政機関における相談援助
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験の成績:70% (2)学習意欲に関する評価:30%:授業ごとにコメントカードの提出を求め、出席日数とコメントカードの記述内容によって評価する
期末試験の成績（70%）と授業態度（学習意欲に関する評価）（30%）をあわせて100点満点として全体を評価します。

精神保健学

担当者：高畑　隆

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

① 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要
② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ
③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ
④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ
⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ
⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割
⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題
⑧ 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携
⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策

２.学びの意義と目標

① 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。
② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。
③ 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

準備学習(予習)

自らのセルフケアに留意し、予防の概念を基盤に地域精神保健福祉活動の具体的事例（集団・グループが活動基盤）から、その取り組みの目的を明確にし、プロセスを意識し、多面的視点と支援姿勢を学ぶ授業を進めます。授業内容に関する疑問や意見は気軽に出してください。授業出席率も重視します

準備学習(復習)

前回の授業について復習することが次回の授業の予習につながる。

授業計画

1. オリエンテーション/精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要　1）地域保健施策の概要
2. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要　2）関係法規における精神保健
3. 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要　3）地域精神保健施策の概要
4. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ　1）ライフサイクルにおけるメンタルヘルス①胎児期・乳幼児期・学童期
5. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ　1）ライフサイクルにおけるメンタルヘルス②思春期・青年期・成人期・高齢期
6. 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ　2）ファミリーソーシャルワークと精神保健福祉士
7. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ　1）現状と課題
8. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ　2）専門機関や関係職種の役割
9. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ　3）スクールソーシャルワークと精神保健福祉士①
10. 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ　3）スクールソーシャルワークと精神保健福祉士②
11. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ　1）現状と課題
12. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ　2）専門機関や関係職種の役割
13. 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ　3）産業ソーシャルワークと精神保健福祉士
14. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ　1）現状と課題
15. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ　2）専門機関や関係職種の役割
16. 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ　3）精神保健福祉士の役割
17. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割　1）現状と課題
18. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割　2）専門機関や関係職種の役割と連携
19. 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割　3）精神保健福祉士の役割
20. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題　1）現状と課題
21. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題　2）専門機関や関係職種の役割と連携
22. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題　3）地域の社会資源の活用と連携
23. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題　4）精神保健福祉士の役割
24. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携　1）現状と課題
25. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携　2）専門機関や関係職種の役割
26. 精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携　3）専門機関や関係職種との連携
27. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策　1）国際連合の精神保健活動
28. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策　2）欧米諸国の精神保健活動
29. 諸外国の精神保健活動の現状及び対策　3）アジア諸国の精神保健活動
30. まとめ

教科書

精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座2精神保健の課題と支援』(中央法規出版)

評価方法

(1)出席・授業態度・リアクションペーパ:30% (2)筆記試験:70%

精神保健福祉演習

担当者：相川　章子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

精神保健福祉援助実習によるかかわりおよび体験を、グループスーパービジョンによってより深め、ソーシャルワークの価値について考察する。また、最新の知見や技術について、ゲストスピーカーによる講演をまじえながらこれからのソーシャルワークについて展望する。

２.学びの意義と目標

精神保健福祉士を目指す学生を対象に、ソーシャルワークの価値および倫理、最新の知見、技術などについてより実践的に学び、深める。グループワーク中心に行い、個々人の特性を生かしたグループづくりについて学ぶ。

準備学習(予習)

授業で指示する内容について予習すること

準備学習(復習)

授業で指示する内容について復習すること

授業計画

1. オリエンテーション
2. ソーシャルワーク実践演習（１）
3. ソーシャルワーク実践演習（２）
4. ソーシャルワーク実践演習（３）
5. ソーシャルワーク実践演習（４）
6. ソーシャルワーク実践演習（５）
7. ゲストスピーカーによる講演
8. 精神保健福祉実践演習（１）
9. 精神保健福祉実践演習（２）
10. 精神保健福祉実践演習（３）
11. ゲストスピーカーによる講演
12. 講演についての振り返り
13. 精神保健福祉実践演習（４）
14. 精神保健福祉実践演習（５）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:50% (2)レポート等:50%

精神保健福祉援助演習（基礎）

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

ア 自己覚知
イ 基本的なコニュニケーション技術の習得
ウ 基本的な面接技術の習得
エ グループダイナミクス活用技術の習得
オ 情報の収集・整理・伝達の技術の習得
カ 課題の発見・分析・解決の技術の習得
キ 記録の技術の習得
ク 地域福祉の基盤整備に係る事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行うこと。

・ 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
・ 地域アセスメント
・ 地域福祉の計画
・ ネットワーキング
・ 社会資源の活用・調整・開発
・ サービス評価

２.学びの意義と目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

① 相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いること。
② 個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげること。

準備学習(予習)

あらかじめ指示する宿題をやってくること。演習形式の本講義では事前学習が重要となる。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション　　精神保健福祉援助演習の意義
2. 自己覚知のための演習①ふだんの自分を知る　援助者としての自分を知る
3. 自己覚知のための演習②ライフストーリー(1)　自分のライフストーリーから学ぶ
4. 基本的なコミュニケーション技術の習得①コミュニケーションの体系的理解
5. 基本的なコミュニケーション技術の習得②コミュニケーションパターンを知る
6. 基本的な面接技術の習得①面接技法の基礎的理解と演習
7. 基本的な面接技術の習得②相談機関での面接（ロールプレーイング）
8. グループダイナミクスの活用
9. 情報の収集・整理・伝達の技術の習得
10. 課題の発見・分析・解決の技術
11. 記録の技術の習得
12. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握/地域アセスメント
13. 地域福祉の計画/ネットワーキング
14. 社会資源の活用・調整・開発/サービス評価
15. 定期試験と総括

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版　精神保健福祉士養成セミナー7巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』(へるす出版)

評価方法

(1)授業態度:30%:出席日数含む (2)レポート等:30% (3)期末試験:40%

精神保健福祉援助演習

担当者：田村　綾子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

１　事例検討の意義と方法を学ぶ
２　事例検討を通して、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等の援助技術および精神保健福祉士の視点を学ぶ。

２.学びの意義と目標

１ 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、 実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び 集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
２ 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

準備学習(予習)

事前に指示する課題を必ず提出すること。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション/事例検討から学ぶ精神保健福祉援助
2. 事例検討の意義と方法　１）
3. 事例検討の意義と方法　２）
4. 事例検討　１）ケースワーク事例　（１）
5. 事例検討　１）ケースワーク事例　（２）
6. 事例検討　１）ケースワーク事例　（３）
7. 事例検討　１）ケースワーク事例　（４）
8. 事例検討　１）ケースワーク事例　（５）
9. 事例検討　２）グループワーク事例　（１）
10. 事例検討　２）グループワーク事例　（２）
11. 事例検討　２）グループワーク事例　（３）
12. 事例検討　３）コミュニティワーク事例　（１）
13. 事例検討　３）コミュニティワーク事例　（２）
14. 事例検討　４）ケアマネジメント事例
15. まとめ

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『新版　精神保健福祉士養成セミナー　7巻　精神保健福祉援助演習[基礎][専門]』(へるす出版)
精神保健福祉白書編集委員会=編集『精神保健福祉白書　２０１３年版 障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方』(中央法規出版)

評価方法

(1)授業態度:30%:出席日数・遅刻等含むj (2)レポート等:30%
(3)期末テスト:40%

精神保健福祉援助技術各論

担当者：相川　章子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

① 相談援助の過程及び対象者との援助関係
② 相談援助活動のための面接 技術
③ 相談援助活動の展開（医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む。）
④ 家族調整・支援の実際と事例分析
⑤ スーパービジョンとコンサルテーション
⑥ 地域移行の対象及び支援体 制
⑦ 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む。）
⑧ 地域を基盤にした支援とネットワーキング
⑨ 地域生活を支援する包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開

２.学びの意義と目標

① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
③ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
④ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。

準備学習(予習)

次回授業で取り扱う箇所のテキストを一読する。

準備学習(復習)

授業で気になったところ、疑問に思ったところなどを書き留め、テキストやプリント等で復習する。

授業計画

1. オリエンテーション/精神保健福祉援助技術論導入
2. 相談援助の過程および対象との援助関係　1）地域を基盤とした相談援助
3. 相談援助の過程および対象との援助関係　2）ケース発見/3）受理面接と契約
4. 相談援助の過程および対象との援助関係　4）課題分析/5）支援計画
5. 相談援助の過程および対象との援助関係　6）支援の実施と経過の観察/7）効果測定と支援の評価/8）終結とアフターケア
6. 相談援助活動のための面接技術　1）面接を効果的に行う方法
7. 相談援助活動のための面接技術　2）面接技法
8. 相談援助活動の展開　1）個別支援の実際と事例分析
9. 相談援助活動の展開　2）集団を活用した支援の実際と事例分析
10. 相談援助活動の展開　3）事例による相談援助活動の検討
11. 家族調整・支援の実際と事例分析　1）精神保健福祉における精神障害者と家族の関係
12. 家族調整・支援の実際と事例分析　2）家族支援の方法
13. 家族調整・支援の実際と事例分析　3）事例による家族調整・支援の検討
14. 地域移行の対象および支援体制　1）地域移行支援の対象/2）地域移行の体制
15. 地域移行の対象および支援体制　3）精神保健福祉士の役割と多職種との連携
16. 地域移行の対象および支援体制　4）地域移行にかかる組織や機関/5）地域移行を推進する事業の展開
17. 地域移行の対象および支援体制　6）事例による地域移行支援の検討
18. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象　1）精神障害者を取り巻く社会的状況
19. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象　2）地域相談援助の主体/3）地域相談援助対象/4）地域相談援助の体制
20. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象　5）事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
21. 地域を基盤にした支援とネットワーキング　1）地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
22. 地域を基盤にした支援とネットワーキング　2）地域アセスメントとＢＳＣおよびＳＷＯＴ分析
23. 地域を基盤にした支援とネットワーキング　3）地域を基盤にした支援の具体的展開
24. 地域を基盤にした支援とネットワーキング　4）事例による地域を基盤にした支援の検討
25. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開　1）包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と実際
26. 地域生活を支援する包括的支援の意義と展開　2）事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
27. スーパービジョンとコンサルテーション　1）スーパービジョン意義・方法
28. スーパービジョンとコンサルテーション　2）コンサルテーション意義・方法
29. スーパービジョンとコンサルテーション　3）事例によるスーパービジョンおよびコンサルテーション
30. まとめ

教科書

日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座　第４巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』(中央法規出版)
日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座　第５巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』(中央法規出版)

評価方法

(1)授業態度:30%:出席日数・発言・リアクションペーパー含む
(2)レポート等:30% (3)期末試験:40%

精神保健福祉援助技術総論

担当者：助川　征雄

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

① 精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方
② 相談援助に係わる専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲
③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲
④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む。）の意義と内容

２.学びの意義と目標

① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。
② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。
③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

準備学習(予習)

準備学習(復習)

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神保健福祉分野における相談援助の概念　1)基本的な考え方
3. 精神保健福祉分野における相談援助の概念　2)権利擁護の意義と範囲
4. 精神保健福祉分野における相談援助の体系　1)精神保健福祉分野における相談援助活動の対象
5. 精神保健福祉分野における相談援助の体系　2)精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義
6. 精神保健福祉分野における相談援助の体系　3)精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開
7. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲　1)精神保健福祉士の概念
8. 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲　2)精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務
9. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲　1)精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割
10. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲　2)専門職倫理と倫理的ジレンマ
11. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携　1)総合的・包括的な援助を支える理論
12. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携　2)総合的・包括的な援助の機能と概要
13. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携　3)多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要
14. 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携　4)多職種連携における精神保健福祉士の役割
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)　:100%

精神保健福祉援助実習

担当者：田村　綾子, 相川　章子

開講期：通年　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：9単位

講義概要

１.内容

①実習事前学習　１）事例検討
②実習事前学習　２）個人票作成
③実習事前学習　３）学習課題の作成
④実習事前学習　４）実習記録等について
⑤現場体験学習
⑥実習事後学習　スーパービジョン

２.学びの意義と目標

１　精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、 実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び 集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
２　学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

準備学習(予習)

実習事前学習では、毎回出される課題や書類等を必ず提出すること。また、実習にあたっての書類作成についても同様に提出し、指導を求めること。

準備学習(復習)

授業内でグループのなかで出された意見等について、ノートに書き留め振り返り、また不確かな知識については調べ、考察を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション/精神保健福祉援助実習導入
2. 実習オリエンテーション
3. 実習事前学習　１）事例検討（１）
4. 実習事前学習　１）事例検討（２）
5. 実習事前学習　１）事例検討（３）
6. 実習事前学習　１）事例検討（４）
7. 実習事前学習　２）個人票作成（１）
8. 実習事前学習　２）個人票作成（２）
9. 実習事前学習　３）学習課題設定の方法および作成（１）
10. 実習事前学習　３）学習課題設定の方法および作成（２）
11. 実習事前学習　３）学習課題設定の方法および作成（３）
12. 実習事前学習　４）実習記録およびソーシャルワーク記録について
13. 現場体験学習（１）
14. 現場体験学習（２）
15. 実習事後学習　スーパービジョン

教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『8巻　精神保健福祉援助実習指導・現場実習』(へるす出版)
荒田寛・小田敏雄・田村綾子・川口真知子・相川章子『PSW実習ハンドブック 実習生のための手引き』(へるす出版)

評価方法

精神保健福祉に関する制度とサービス

担当者：相川　章子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

① 精神保健福祉法の意義と内容
② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス
③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要
④
相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働
⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係
⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携
⑦ 医療観察法の概要
⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割
⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用

２.学びの意義と目標

① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。
② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。
③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。
④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。
⑤ 社会資源の調整・開発に係
わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。

準備学習(予習)

次回の授業でとりあげる箇所のテキストの一読

準備学習(復習)

授業内で気になったところ、疑問に感じたところなどをノートに書き留め、テキストやプリント等で復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス　1）精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法
3. 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス　2）制度とサービスの相互作用の理解
4. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化　1）精神病者監護法から精神保健法成立までの経緯
5. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化　2）精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
6. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化　3）精神保健福祉法成立の意義とその後の変化
7. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化　4）障害者自立支援法成立による変化
8. 精神保健福祉法の概要　1）精神保健福祉法の構成①
9. 精神保健福祉法の概要　1）精神保健福祉法の構成②
10. 精神保健福祉法の概要　2）精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
11. 精神保健福祉法の概要　3）最近の動向
12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス　1）障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり
13. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス　2）障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際①
14. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス　2）障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際②
15. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス　3）精神障害者等を対象とした福祉施策・事業
16. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要　1）精神障害者と社会保障制度
17. 精神障害者に関連する社会保障制度の概要　2）医療保険制度/3）介護保険制度/4）経済的支援に関する制度
18. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者　1）相談援助にかかわる行政組織と民間組織
19. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者　2）福祉サービス提供施設・機関の役割
20. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者　3）インフォーマルな社会資源の役割
21. 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者　4）専門職や地域住民の役割と実際
22. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係　1）刑事司法と更生保護
23. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係　2）保護観察所と更生保護の担い手
24. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係　3）司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
25. 医療観察法の概要と実際　1）医療観察法の意義と内容/2）医療観察法の審判と精神保健参与員の役割
26. 医療観察法の概要と実際　3）指定入院医療機関における処遇
27. 医療観察法の概要と実際　4）地域処遇/5）社会復帰調整官の役割と実際
28. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査　1）意義と目的/2）対象/3）倫理
29. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査　4）量的調査法と質的調査法/5）ＩＣＴの活用方法/6）事例
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:30% (2)レポート等:30% (3)期末試験:40%

精神保健福祉論

担当者：相川　章子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：6単位

講義概要

１.内容

１．精神保健福祉に関する制度とサービス
① 精神保健福祉法の意義と内容
② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス
③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要
④
相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働
⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係
⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携
⑦ 医療観察法の概要
⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割
⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用
２．精神障害者の生活支援システム
① 精神障害者の概念
② 精神障害者の生活の実際
③ 精神障害者の生活と人権
④ 精神障害者の居住支援
⑤ 精神障害者の就労支援
⑥ 精神障害者の生活支援システム
⑦ 市町村における相談援助
⑧ その他の行政機関における相談援助

２.学びの意義と目標

１ 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
２ 精神障害者の人権について理解させる。
３ 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
４ 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
５ 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
６ 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
７ 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

準備学習(予習)

次回授業で取り扱う箇所のテキストを一読し、わからない箇所などをチェックしておく。

準備学習(復習)

授業で気になったところ、疑問に思ったところなどを書き留め、テキストやプリント等で復習する。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:30%:出席日数・遅刻含む (2)レポート等:30%
(3)期末試験:40%

生命倫理学

担当者：川上　祐美

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

保健・医療・福祉を生命倫理＜バイオエシックス＞の立場からとらえ、現代の諸問題に対処し得る思考と感性の研鑽によって、豊かな人間観といのちについての深い洞察力が養われることをめざします。

２.学びの意義と目標

その成果が、日常生活や医療福祉の現場においても実践され、常に社会の中で提言していくことのできる資質を身につけることを期待します。

準備学習(予習)

参考書として『バイオエシックス・ハンドブック』（法研）の該当箇所に目を通してください。

準備学習(復習)

講義中に関連図書を紹介するので、興味に応じて読んでみてください。

授業計画

1. いのちを考える　～現代の生老病死と医療～
2. 高齢期医療と人間の尊厳　～老いと生きがい～
3. ターミナルケアの実際　～死をめぐる自己決定と事前指示～
4. 尊厳死・安楽死　～痛みと死の意味～
5. 臓器移植と脳死１　～法制化と国際的格差～
6. 臓器移植と脳死２　～生命の資源化とその配分～
7. 生殖技術と優生思想１　～選別されるいのち～
8. 生殖技術と優生思想２　～障害とはなにか～
9. ジェンダー・家族・遺伝　～先端技術と共同体～
10. 医療過誤・薬害　～社会医療の功罪～
11. エンハンスメント　～人体増強の行方～
12. 研究倫理・環境倫理　～技術開発の歴史と私たちの未来～
13. 生命観の多様性と幸福１　～宗教文化における死生観の伝統と変容～
14. 生命観の多様性と幸福２　～宗教的理由による治療拒否～
15. 生老病死再考　～バイオエシックスの実践～

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)毎回のミニレポート:100%:受講者100名以上の場合は評価方法を変更する可能性があります。

専門演習(カウンセリング論) I

担当者： 長谷川　恵美子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

心理学など、「ひと」に関する研究テーマの中で、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法の基礎を身につけることを目的としている。

２.学びの意義と目標

心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。

準備学習(予習)

各テーマについて、配布資料を熟読し、積極的に参加することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 第１回　　オリエンテーション
2. 第２回～　第一回に受講者と今後の方針について検討しながら、文献講読、実習、研究報告などを行う。
3. 個人発表とディスカッション（1）
4. 個人発表とディスカッション（2）
5. 個人発表とディスカッション（3）
6. 個人発表とディスカッション（4）
7. 個人発表とディスカッション（5）
8. 個人発表とディスカッション（6）
9. 個人発表とディスカッション（7）
10. 個人発表とディスカッション（8）
11. 個人発表とディスカッション（9）
12. 個人発表とディスカッション（10）
13. 個人発表とディスカッション（11）
14. 個人発表とディスカッション（12）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:40% (2)発表:30% (3)デイスカッション:30%

専門演習(カウンセリング論)II

担当者： 長谷川　恵美子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

心理学など、「ひと」に関する研究テーマのでの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。

２.学びの意義と目標

心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。

準備学習(予習)

それぞれのテーマについて配布される資料以外に、自ら資料を集めテーマについての知識を広げつつ積極的に参加することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 第１回　　オリエンテーション
2. 第２回～　第一回に受講者と今後の方針について検討しながら、文献講読、実習、研究報告などを行う。
3. 個人発表とディスカッション（１）
4. 個人発表とディスカッション（２）
5. 個人発表とディスカッション（３）
6. 個人発表とディスカッション（４）
7. 個人発表とディスカッション（５）
8. 個人発表とディスカッション（６）
9. 個人発表とディスカッション（7）
10. 個人発表とディスカッション（８）
11. 個人発表とディスカッション（9）
12. 個人発表とディスカッション（10）
13. 個人発表とディスカッション（11）
14. 個人発表とディスカッション（12）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50% (2)発表:30% (3)ディスカッション:20%

専門演習(学習・教育心理学) I

担当者： 小山　義徳

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

【内容】人間の学びや，人がスキルを獲得するプロセスについて研究を行います．例えば研究テーマとしては，「英単語を覚えさせるのにどのように教えれば良いのか」，「分かりやすい文章を書くにはどうすれば良いのか」などが考えられます．しかし，学びとは学校における勉強に限りません．スポーツにおけるトレーニング方法の開発（「100m走を速く走るにはどのようなトレーニングが有効か」）や，バイト先における仕事への熟達化なども研究テーマになります．幅広く，「人の学び」を扱います．

２.学びの意義と目標

最初は，何をテーマに研究を進めれば良いのか分からないと思います．しかし，自分の意見を他のゼミ生に話し，コメントをもらい，時にはぶつかり合うことで，自分ひとりでは思いつかないアイディアを得ることができます．そのため，他者とのコミュニケーションが重要になります．書籍，新聞，自分の日常に目を向けて，まずは，「人の学び」の中でも，自分が特に何に興味があるのかに気づくことが目標となります．

準備学習(予習)

演習に関連する資料を予め配布する場合がある．各自で読みこんだ上でゼミに臨むこと．

準備学習(復習)

演習で行った内容を適宜振り返り，定着を確認する．

授業計画

1. イントロダクション
2. 議論の仕方１:主張の仕方を学ぶ
3. 議論の仕方２:反論する・される練習
4. 議論の仕方３:質問スキルをつける
5. 議論の仕方４:プレゼンテーションの仕方を学ぶ
6. 新聞記事に基づいて議論する（１）
7. 新聞記事に基づいて議論する（２）
8. 新聞記事に基づいて議論する（３）
9. アカデミックディベート I （１）
10. アカデミックディベート I （２）
11. アカデミックディベート I （３）
12. アカデミックディベート II （１）
13. アカデミックディベート II （２）
14. アカデミックディベート II （３）
15. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:80% (2)授業外課題:20%

専門演習(学習・教育心理学)II

担当者：小山　義徳

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

問いの立て方、問いの発展の仕方，及び仮説の立て方について議論する。また、文献購読、演習やディスカッションを通して、自分が興味があるテーマを絞りこむ。

２.学びの意義と目標

本演習には，日常生活の中で抱いている疑問に敏感になり，自分の興味関心が何に向いているかに気づく意義がある．自分が卒研のテーマとして何を追究したいのかを明らかにすることを目標とする．

準備学習(予習)

演習で扱う内容に関して，事前に資料を配布し各自で読み込んでくることを課す場合がある．

準備学習(復習)

演習で扱った内容に関して，知識やスキルの定着を促す課題を課す場合がある．

授業計画

1. オリエンテーション
2. 良い問いとは何か
3. 質問生成演習１
4. 質問生成演習２
5. 質問生成演習３
6. 文献紹介と問いの作成１
7. 文献紹介と問いの作成２
8. 文献紹介と問いの作成３
9. 文献紹介と問いの作成４
10. 文献紹介と問いの作成５
11. 問いの拡張の仕方と仮説の設定１
12. 問いの拡張の仕方と仮説の設定２
13. 問いの拡張の仕方と仮説の設定３
14. 問いの拡張の仕方と仮説の設定４
15. 問いの拡張の仕方と仮説の設定５

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:70% (2)授業外課題:30%

専門演習(高齢者福祉論) I

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。
ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

２.学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

授業計画

1. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
2. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
3. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
4. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
5. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
6. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
7. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
8. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
9. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 文献・資料の講読と解釈、討議 (11)
12. 文献・資料の講読と解釈、討議 (12)
13. 文献・資料の講読と解釈、討議 (13)
14. 文献・資料の講読と解釈、討議 (14)
15. 文献・資料の講読と解釈、討議 (15)

教科書

古谷野亘・安藤孝敏『改訂　新社会老年学:シニアライフのゆくえ』(ワールドプランニング)

評価方法

(1)平常点:100%

専門演習(高齢者福祉論)II

担当者：古谷野　亘

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

文献・資料の講読と解釈、討議などを行う。
ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。

２.学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。

準備学習(予習)

レポーターになったときはもちろん他の時にも、指定されたテキストの箇所を精読し、授業時間の討議に備える予習が必要。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返る復習が必要。

授業計画

1. 文献・資料の講読と解釈、討議 (1)
2. 文献・資料の講読と解釈、討議 (2)
3. 文献・資料の講読と解釈、討議 (3)
4. 文献・資料の講読と解釈、討議 (4)
5. 文献・資料の講読と解釈、討議 (5)
6. 文献・資料の講読と解釈、討議 (6)
7. 文献・資料の講読と解釈、討議 (7)
8. 文献・資料の講読と解釈、討議 (8)
9. 文献・資料の講読と解釈、討議 (9)
10. 文献・資料の講読と解釈、討議 (10)
11. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (1)
12. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (2)
13. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (3)
14. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (4)
15. 各自の研究テーマについての発表と質疑 (5)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:100%

専門演習(子ども家庭論) I

担当者： 中谷　茂一

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。

　個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人２回以上の発表を予定している。

２.学びの意義と目標

演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

授業計画

1. オリエンテーション及びテーマ設定・選択
2. 「児童福祉」の領域と研究方法について
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む　家族（改訂版）』(有斐閣)

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

専門演習(子ども家庭論)II

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

　個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人２回以上の発表を予定している。

２.学びの意義と目標

専門演習Iにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

授業計画

1. 専門演習IIの達成課題と発表抄録作成について
2. 発表・ディスカッション及びコメント
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

専門演習(社会倫理) I

担当者：左近　豊

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

1、内容
ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。
２、カリキュラム上の位置づけ
専門演習

２.学びの意義と目標

先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。

準備学習(予習)

演習への積極的な参加を望みます。そのために事前の準備を綿密に行い、発表に備えてください。

準備学習(復習)

事前の調査とゼミでの討論を経た後の思索をレポート用紙5枚前後にまとめて提出してください。

授業計画

1. 序　オリエンテーション（文献資料の探し方など）
2. オリエンテーション（プレゼンテーションやレポート作成の仕方など）
3. テーマ決定
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:70%:発表、議論参加 (2)学期末レポート:30%

専門演習(障害者福祉論) I

担当者：木下　大生

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

障害者に関連する社会的課題を確認し、それと照らして自身の関心を明確にしたのち、テーマについて、文献研究、フィールドワーク、ボランティア、自身の経験等から情報を収集、精査、まとめ、発表する、というプロセスを踏む。

２.学びの意義と目標

目標は、障害者福祉に関して、以下の4点を達成することである。意義は、これらを達成することにより、自身が関心を持つ社会的課題を明確にし、まとめ、プレゼンテーションをする力を身に着けることが出来る。

①自身が関心を持つテーマを見つける
②テーマに関する情報を収集する
③収集した情報を整理しまとめる
④テーマについて調査・まとめた内容をプレゼンテーションする

準備学習(予習)

自身のテーマが決定するまでは、自分の関心が何にあるのかの明確化することに努めること。テーマが決定してからは、テーマに関連する情報収集のためのアンテナを高く立て、より多くの関連情報を集めることに努めること。

準備学習(復習)

各自がテーマを決め、調べ、まとめ、発表する、ということを意識し、毎回の授業の内容、他の学生のテーマの決め方、報告の仕方等の振り返りをしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 障害者福祉の課題(1)
3. 障害者福祉の課題(2)
4. 障害者福祉の課題(3)
5. 障害者福祉の課題において自分の関心を見つける―テーマの見つけ方―
6. テーマの深め方(1)―情報の収集の方法―
7. テーマの深め方(2)―情報の整理の方法―
8. テーマの深め方(3)―情報をまとめる方法―
9. プレゼンテーションの方法
10. 各自のテーマ報告
11. 中間報告（個別指導）
12. 中間報告（個別指導）
13. 発表・ディスカッション・コメント
14. 発表・ディスカッション・コメント
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業参加態度:30% (3)発表内容:40%
評価方法
1．発表内容
2．ディスカッションへの参加姿勢・態度
上記2点から評価をする。

専門演習(生活支援論) I

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・人が生まれてから死ぬまでの各段階（ライフサイクル）における発達課題を軸に、「生きる」ことについて各自のこれまでの体験や各種文献を元に考察する。
・学生間での意見交換を通じ、生きることに対する多様な価値観を知り、ソーシャルワーカーとして「人の暮らし」に寄り添う上で大切な理念や姿勢について、自己覚知を深めながら考えることを目指す。
・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。

２.学びの意義と目標

主体的に自己の学習課題を見出し、人間福祉学科の学生に相応しい学びの基礎を習得することを目標とする。
ソーシャルワーカーとして必要な「人に対する関心」「社会に対する関心」を醸成し、コミュニケーション能力を高めることを目指す。

準備学習(予習)

学生からのプレゼンテーションに際しては、事前に指定する文献等の熟読を課す。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなう。

準備学習(復習)

リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。
各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

教科書

プリントを配布する

評価方法

ゼミでは主体性、積極性を重視するため、出席と参加態度での評価割合が高くなる。

専門演習(生活支援論)Ⅱ

担当者：田村　綾子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・前学期の内容を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察を深化させる。
・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。
・専門職としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

２.学びの意義と目標

授業は、各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進め、随時教員からの講義や文献紹介を行う。

準備学習(予習)

学生からのプレゼンテーションを中心に進めるため、事前に指定されるテーマについて文献等を熟読しておくこと。また、プレゼンテーションの担当者はレジュメ作成を事前におこなうこと。

準備学習(復習)

リアクションペーパーを用いて、各自の感想、考察を言語化する時間を設ける。
各回の内容について、理解できなかったところを各自で調べて理解しておくこと。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

教科書

プリントを配布する

評価方法

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいよにレジュメを作成すること、これらを総合的に評価する。

専門演習(精神保健福祉論) I

担当者： 相川　章子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

１．内容

精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学ぶためにおこなう、わかりやすい基礎的な文献を指定し講読する。文献の読み方、文献から何を学び、疑問を持ち、自らの関心ごとや疑問をどのように広げ、またつなげていくかを学ぶ。また、ゼミ内での発表およびディスカッションを経験することによって自らの意見を表現していくことを学ぶ。

２．カリキュラム上の位置づけ

精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を表現し、自ら疑問について調べてみる段階。「研究」とはなにかをつかむ。

２.学びの意義と目標

それぞれがもつ漠然とした関心や疑問を表現していくことが重要な作業となる。そのために広くさまざまな文献を読み、豊かな発想力を養い、それらを表現していくことに慣れていく。

準備学習(予習)

好きなこと、関心のあること、おかしいと思うこと、疑問におもうことなどに敏感になり、ノートに書き留めましょう。

準備学習(復習)

ゼミの仲間からの発言、意見、教員の意見、コメント等で、気になった言葉などをノートに書き留めましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 図書館の利用方法、文献の調べ方
3. 研究とは？
4. 文献講読およびディスカッション（１）
5. 文献講読およびディスカッション（２）
6. 文献講読およびディスカッション（３）
7. 文献講読およびディスカッション（４）
8. 文献講読およびディスカッション（５）
9. ゲストスピーカーを招いて講義とディスカッション
10. 文献講読およびディスカッション（６）
11. 文献講読およびディスカッション（７）
12. 文献講読およびディスカッション（８）
13. 文献講読およびディスカッション（９）
14. 文献講読およびディスカッション（１０）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:50% (2)レポート等:50%

専門演習(精神保健福祉論)II

担当者：相川　章子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

１．内容

　専門演習Iで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマについて文献を収集し先行研究を吟味する。文献講読を通し研究のすすめかた、仮説のたてかた、研究方法などについて学ぶ。また、研究レポートおよび研究活動のいずれかを選択し、各自関心のあるテーマについて取組む。

２．カリキュラム上の位置づけ

　専門演習Iにおいて精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を具体化させる段階であり、基礎から応用へと展開させる位置づけである。

２.学びの意義と目標

　自分自身の関心のあるテーマをみつけていくことが重要な作業となる。そのためにさまざまな文献を調べ、読み、知識を広げ、豊かな発想力を養う。

準備学習(予習)

日常の中で気になること、好きなこと、関心のあること、おかしい思うこと、疑問に感じることなどをノートに書き留めましょう。

準備学習(復習)

ゼミのなかで、他の受講生の意見やコメント、疑問、教員の意見、コメント等について気になったことをノートに書き留めましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究のすすめかた
3. 文献検索と文献講読
4. 研究発表とディスカッション（１）
5. 研究発表とディスカッション（２）
6. 研究発表とディスカッション（３）
7. 研究発表とディスカッション（４）
8. 研究発表とディスカッション（５）
9. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
10. 研究発表とディスカッション（６）
11. 研究発表とディスカッション（７）
12. 研究発表とディスカッション（８）
13. 研究発表とディスカッション（９）
14. 研究発表とディスカッション（１０）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:50% (2)レポート等:50%

専門演習(ソーシャルワーク論) I

担当者： 助川　征雄

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

基本的な課題解決能力を高めるために、テキストや関連資料などを用いて、考える力、表現する力、傾聴する力、集中する力などに関する演習を行う。具体的には、特定の書籍、新聞記事、小論文などをテキストとし、輪読、ディスカッションを行う。あわせて、学外の研究会参加、社会見学、ぜみ合宿等も行う。

２.学びの意義と目標

読み解く能力、考える能力、表現する能力、行動する能力の習得。

準備学習(予習)

あらかじめ資料を読んで質問を1つ以上準備してくること。

準備学習(復習)

資料を読み直し、要点を再確認する。またわからないことはその日のうちに資料、参考書、インターネット情報などをもとに再確認てポくこと。

授業計画

1. オリエンテーション（授業方針等の説明など）
2. 基本的な課題解決能力の演習（１）
3. 基本的な課題解決能力の演習（２）
4. 基本的な課題解決能力の演習（３）
5. 基本的な課題解決能力の演習（４）
6. 基本的な課題解決能力の演習（５）
7. テキストによる演習（１）
8. テキストによる演習（２）
9. テキストによる演習（３）
10. テキストによる演習（４）
11. レポートによる演習（１）
12. レポートによる演習（２）
13. レポートによる演習（３）
14. レポートによる演習（４）
15. 評価とまとめ（後の方向づけ）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:50% (2)出席率:50%

専門演習(ソーシャルワーク論)Ⅱ

担当者：助川　征雄

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

授業の前半は、配布資料（身近な情報）をもとに、学びと共有を深めていく。後半は、個別・グループ授業を通して、卒業研究テーマの探求に取り組む。また、社会見学はじめ様々な機会を設けて、ゼミ生間の交流を積極的すすめていく。

２.学びの意義と目標

専門演習Ⅰを踏まえ、さらに、社会情勢に対する適切な認識、生き方、価値観、さらには、人間福祉の意義などに対する視座や離縁ををより適切なものにするための学びをめざす。

準備学習(予習)

資料をあらかじめ配布するので、事前に目を通し、質問（発言）項目を準備してくること。暫時、生レポートも課す。

準備学習(復習)

解りにくい事項は、必ずその日のうちに、資料、参考書、インターネット情報などを用いて再確認しておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. テーマ討議（いま私たちはどこにいるか）
3. テーマ討議（ポジティブ思考ーリフレーミング）
4. テーマ討議（家族という体験）
5. テーマ討議（生活と生活スキル）
6. テーマ討議（人生の通過症候と精神保健）
7. 社会見学（地域・社会の再発見と再認識）
8. テーマ討議（モラルハザードの演習１）
9. テーマ討議（モラルハザードの演習２）
10. 社会見学（福祉サービスユーザーから学ぶ）
11. テーマ討議（ストレングスモデルの人間観１）
12. テーマ討議（ストレングスモデルの人間観２）
13. テーマ討議（卒業研究テーマのスケッチ１）
14. テーマ討議（卒業研究テーマのスケッチ２）
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60% (2)出席率:40%

専門演習(地域福祉論) I

担当者：牛津　信忠

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

地域の中における社会福祉として身近になった福祉を、毎日の生活の中に感じるとともに、それを地域に本当に根付かせるための方策、政策や技術を考えていく。
身近な問題から出発していき、その必要性、今後の展開可能性をも考察しつつ、地域福祉を単なる現実の福祉状況としてのみではなく、その現代における地域という場の意味をも深く解明することに努めたい。それを研究途上の発表として他のゼミ生に聞いてもらうことにより、自らの成長の糧とすること。

２.学びの意義と目標

地域福祉という現今の地域生活の基軸を形作る方策を様々な角度から、自分の問題意識を見定めながら研究していく。それは身近に自分が感じ・興味を持つ地域課題の解明から始まっていく。この研究によって地域課題への積極的アプローチの糸口を開いてゆこう。

準備学習(予習)

自分のテーマを決めたら、それに即して教師とともに、参考文献を探し、また現実の諸資料（行政や社協等に関する）を読み解き、自分で地域福祉についての課題を考え進めておくこと。

準備学習(復習)

先輩の残したゼミ論集を読み、それをベースに、各自に問題意識を継承してもらうためのコメントをしてもらい、その後その問題意識に沿った発表を次々にしてもらう。これをレポートにまとめる中で他のゼミ生の意見聞くとともにそれに応答をする。

授業計画

1. 現在の地域福祉
2. 興味のある地域福祉の課題を探る
3. 興味のある地域福祉の課題を探る
4. 個別テーマに沿った現在の知識を確認
5. 個別テーマに即した参考資料の検索
6. 参考資料のテーマに沿った理解を発表形式で相互発表
7. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
8. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
9. 参考資料のテーマに沿った理解を相互発表
10. 各自のテーマごとにレジュメを作り発表
11. 各自の発表と、聞き手からの質問
12. 各自の発表と、聞き手からの質問
13. 各自の発表と、聞き手からの質問
14. 学期末レポートにまとめる（個別指導）
15. 学期末レポートにまとめる（個別指導）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業の出席回数:20% (2)積極性を持った研究と発表:20%
(3)期末に提出するレポート:60%

専門演習(地域福祉論)II

担当者：牛津　信忠

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

演習（地域福祉論）I　における研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し演習を進める。
さらに、専門研究の糸口を開く演習（I）に基礎付けられ、さらに学びを深め専門研究（II）として、選び取った専門課題についての知識と思考力の高度化を図る。

２.学びの意義と目標

自らの研究が、地域福祉ネットワークの形成及びその質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題解明を通して具体的に問うてもらう。さらに、自らの研究テーマに関連する知識を書物、官公庁及び各種民間組織・団体の資料の収集と読破により広げ、自らの学びの独善性から離脱していく努力を着実に進めること。そうした努力と共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値について学ぶことをも目標にする。

準備学習(予習)

地域生活の日常の中で積極的に福祉観を磨いてほしい。そこで問題意識を培うとともに、それに即して絶えず演習を振り返り、自分の意見を持つよう努力すること。

準備学習(復習)

授業中のヂスカッションの成果を生かして、自己のレポートを追加補正して行くこと。

授業計画

1. 地域福祉の必要性（討論）
2. 地域福祉の現状と課題
3. 地域福祉の展望・その広がり
4. 地域福祉の位置と役割
5. 各自のテーマの設定確認
6. 個別指導　テーマの関連知識の集積
7. 同　個別指導
8. 各自の発表
9. 各自の発表
10. 演習参加者の研究領域の接点
11. 地域福祉ネットワーキングの可能性を探る
12. 各自の価値前提についての討議
13. レポート作成の個別指導
14. レポート作成の個別指導
15. 個別にまとめの短いコメントを発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)ディスカッション:10% (2)資料収集力:10% (3)発表力:30%
(4)体験力:10% (5)期末レポート:40%

専門演習(福祉環境論) I

担当者： 野口　祐子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。

専門演習Iでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。

同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。

２.学びの意義と目標

卒業研究は個人で研究を行ないますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。

グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。

準備学習(予習)

専門科目「福祉環境論A」を受講し、そこで学んだ各テーマについて、基本的な考え方や知識を理解して専門演習Ｉに臨んでください。

準備学習(復習)

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. グループによる研究計画の検討
3. 研究の進め方、レポートの書き方（その１）
4. 文献調査方法（図書館の利用方法含む）
5. 研究テーマ決定、グループディスカッション
6. 研究経過報告とグループディスカッション
7. 研究経過報告とグループディスカッション
8. 中間発表
9. プレゼンテーション技法
10. 研究経過報告とグループディスカッション
11. 研究経過報告とグループディスカッション
12. 研究経過報告とグループディスカッション
13. 発表の仕方、レポートの書き方（その２）
14. 研究経過報告、発表準備
15. グループ別研究発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%

出席２／３以上を前提とします。

専門演習(福祉環境論)II

担当者：野口　祐子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。小グループで研究テーマを定め、文献研究や資料収集、調査等を実践しながら課題を整理し、考察を行っていきます。また、相互に研究経過を報告し、ディスカッションをすることにより、理解を深めます。そして、研究の成果として、グループによる発表、個人によるレポート作成を行います。

２.学びの意義と目標

専門演習Iに引き続き、グループで研究を行ないます。専門演習Iで残された課題を振り返りつつ、卒業研究に向けた準備として、研究の枠組みを理解し、より深く考察を行います。

個人が自立して研究テーマやその方法を考え、役割を分担し、それを確実に遂行しながら研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。

準備学習(予習)

専門演習Iで行った研究を振り返り、課題を明らかにして専門演習IIに臨んでください。

準備学習(復習)

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. 専門演習Iの振り返りとゼミの進め方について
2. 研究テーマについて（発表とディスカッション）
3. 研究目的と研究方法について（発表とディスカッション）
4. 研究計画について（発表とディスカッション）
5. グループディスカッション、研究実施
6. グループディスカッション、研究実施
7. グループディスカッション、研究実施
8. 中間報告
9. 研究計画の確認、再検討
10. グループディスカッション、研究実施
11. グループディスカッション、研究実施
12. グループディスカッション、研究実施
13. 発表準備
14. グループ別研究発表
15. レポート作成技法

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
出席２／３以上を前提とします。

専門演習(福祉倫理) I

担当者：左近　豊

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

1、内容
ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。
２、カリキュラム上の位置づけ
専門演習

２.学びの意義と目標

先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。

準備学習(予習)

演習への積極的な参加を望みます。事前の準備を綿密に行い、資料を準備し、発表に備えてください。

準備学習(復習)

事前の調査とゼミでの討論を経た後の思索をレポート用紙5枚程度にまとめて提出してください。

授業計画

1. 序　オリエンテーション（文献資料の探し方など）
2. オリエンテーション（プレゼンテーションやレポート作成の仕方など）
3. テーマ決定
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:70%:発表、討論への参加 (2)学期末レポート:30%

専門演習(福祉倫理)Ⅱ

担当者：左近　豊

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

1、内容
ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。
２、カリキュラム上の位置づけ
専門演習

２.学びの意義と目標

先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。

準備学習(予習)

演習への積極的な参加を望みます。資料を準備し、発表に備えてください。

準備学習(復習)

発表後の討論を踏まえたレポートの提出を求めます。

授業計画

1. 序
2. 発表と議論
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)演習参加:70%:発表、討論 (2)学期末レポート:30%

相談援助の基盤と専門職

担当者：大野　和男

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解
・相談援助の概念と範囲
・相談援助の理念
・相談援助に係る専門職の概念と範囲
・専門職倫理と倫理的ジレンマ
・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容
・総合的かつ包括的な援助を支える理論

２.学びの意義と目標

・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。
・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
・ 相談援助の概念と範囲について理解する。
・ 相談援助の理念について理解する。
・ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
・
相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。
・
総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

準備学習(予習)

最初の授業時に授業日程表を配布する。それに沿って各時限の授業を進行するので、それにあわせて指定したテキストの該当するところを熟読して授業に臨むことにより、科目への興味と理解が深まる。

準備学習(復習)

各授業時に、抄録と関係資料を印刷物として配布して授業を進める。あわせて、参考文献等についても紹介するので、授業後の学習を深めるために有効に活用してもらいたい。
また、期末試験については事前に予想問題を通知するので、これを基にさらに確実な知識の蓄積を図ることを期待する。

授業計画

1. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解　（1）社会福祉士及び介護福祉士法
2. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解　（2）社会福祉士の専門性
3. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解　（3）精神保健福祉士法
4. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解　（4）精神保健福祉士の専門性
5. 社会福祉士及び精神保健福祉士に関する基本的理解　（5）「総合的かつ包括的な相談援助」が求められる背景と制度的動向
6. 相談援助の概念と範囲　（1）ソーシャルワークに係る国際定義
7. 相談援助の概念と範囲　（2）ソーシャルワークの形成過程①　源流・基礎確立期
8. 相談援助の概念と範囲　（3）ソーシャルワークの形成過程②　発展期・批判期
9. 相談援助の概念と範囲　（4）ソーシャルワークの形成過程③　再編期
10. 相談援助の概念と範囲　（5）ソーシャルワークの形成過程④　統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク
11. 相談援助の理念　（1）ソーシャルワーク実践と価値
12. 相談援助の理念　（2）自立支援
13. 相談援助の理念　（3）利用者の尊厳と自己決定
14. 相談援助の理念　（4）ノーマライゼーション
15. 相談援助の理念　（5）社会的包摂
16. 相談援助に係る専門職の概念と範囲　（1）相談援助専門職の概念と範囲
17. 相談援助に係る専門職の概念と範囲　（2）福祉行政等における専門職
18. 相談援助に係る専門職の概念と範囲　（3）民間の施設・組織における専門職
19. 相談援助に係る専門職の概念と範囲　（4）諸外国の動向
20. 相談援助における権利擁護の意義
21. 専門職倫理と倫理的ジレンマ　（1）専門職倫理の概念
22. 専門職倫理と倫理的ジレンマ　（2）倫理綱領
23. 専門職倫理と倫理的ジレンマ　（3）倫理的ジレンマ
24. 専門職倫理と倫理的ジレンマ　（4）倫理的ジレンマに関する事例検討
25. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容（1）ジェネラリストの視点に基く総合的かつ包括的な援助の意義と内容
26. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容（2）ジェネラリストの視点に基く多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
27. 総合的かつ包括的な援助を支える理論　（1）ニーズ把握
28. 総合的かつ包括的な援助を支える理論　（2）エンパワメントと社会資源の主体的活用
29. 総合的かつ包括的な援助を支える理論　（3）媒介と「影響作用」
30. 総合的かつ包括的な援助を支える理論　（4）エコシステムとコミュニティ

教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会, 柳澤 孝主, 坂野 憲司『相談援助の基盤と専門職(社会福祉士シリーズ6)』(弘文堂)

評価方法

(1)期末試験の成績:70% (2)学習意欲に関する評価:30%:授業ごとにコメントカードの提出を求め、出席日数とコメントカードの記述内容によって評価する
期末試験の成績（70%）と授業態度（学習意欲に関する評価）（30%）をあわせて100点満点として全体を評価します。

ソーシャルワーク論

担当者：助川　征雄

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

　この授業は、将来、精神保健福祉士として、精神障がい者やその家族を援助することを目指す学生向けのもので、国家資格取得のための指定科目である。
「ソーシャルワーク論」と授業名を打ち出しているねらいは、精神保健福祉援助がソーシャルワーク（社会福祉）の一応用分野であることを常に忘れてはならないという考えに基づいている。内容的には、精神保健福祉援助技術の総論で、援助の基礎知識、実践理論と実際、精神保健福祉士の機能と役割、および先進各国の社会福祉と精神障がい者援助の実際などを紹介し、総合的に学ぶ。

２.学びの意義と目標

キー概念やキーワードを理解するだけでなく、今日の社会情勢の中での「福祉」の意義や精神障がい者支援の意義を深く理解すること。それは、差別のない包括型の社会を創設をめざすことである。

準備学習(予習)

教科書の次回の授業か所を予め示すので、必ず要点を予習しておくこと。また、質問も準備しておくこと。適宜、小レポートも課す（次回提出）。

準備学習(復習)

毎回、配布資料を読み返すこと。特に、多様なキー概念やキーワードがあるので、わからないものは、その日のうちに、配布資料、参考書、インターネット情報などで確かめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション（授業計画、波長あわせとアンケート）
2. 精神保健福祉援助の意義（基礎知識１）
3. 精神保健福祉援助の意義（基礎知識２）
4. 精神保健福祉援助の意義（基礎知識３）
5. 精神保健福祉援助の意義（基礎知識４）
6. 精神保健福祉援助の目的・意義・価値（１）
7. 精神保健福祉援助の目的・意義・価値（２）
8. 精神保健福祉援助の歴史（法率モデルからリカバリーモデルまでの過程）
9. 精神保健福祉援助の実践理論（生活モデル）
10. 精神保健福祉援助の実践理論（エンパワーメントモデル）
11. 精神保健福祉援助の実践理論（ストレングスモデル１）
12. 精神保健福祉援助の実践理論（ストレングスモデル２）
13. 精神保健福祉援助の実践理論（リカバリーモデル１）
14. 精神保健福祉援助の実践理論（リカバリーモデル２）
15. 精神保健福祉援助技術（ケースワークとその実際）
16. 精神保健福祉援助技術（ケースワークとその実際）
17. 精神保健福祉援助技術（グループワークとその実際）
18. 精神保健福祉援助技術（グループワークとその実際）
19. 精神保健福祉援助技術（コミュニティワークとその実際）
20. 精神保健福祉援助技術（その他の技法とその実際１）
21. 精神保健福祉援助技術（その他の技法その実際２）
22. 精神保健福祉士と専門援助（専門性と職業倫理）
23. 精神保健福祉士と専門援助（役割と機能）
24. 精神保健福祉士と専門援助（チームケアの共通基盤）
25. 精神保健福祉士と専門援助（国家資格と試験について）
26. 諸外国における精神障がい者援助の動向
27. 英・米国における精神障がい者援助の実際
28. イタリア、北欧、アジアにおける精神障がい者援助の実際
29. 特別講義（当事者から学ぶ）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:50% (2)出席率:50%

卒業演習(カウンセリング論)

担当者：長谷川　恵美子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

1．目的

　、「ひと」に関する卒業研究テーマを多面的にとらえ、調査、実験、ディスカッションを通して理解を深めることを目的とする。さらに近年の研究成果などを踏まえながら、自らの研究をさらに完成度の高いものへと目指す。受講者は、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

２.学びの意義と目標

　心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

準備学習(予習)

各自のデータを整理し先行研究と比較しながら資料を準備すること。また各担当者の資料を熟読し、ディスカッションに備えて準備することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 研究レポートに基づくディスカッション１
3. 研究レポートに基づくディスカッション２
4. 研究レポートに基づくディスカッション３
5. 研究レポートに基づくディスカッション４
6. 研究レポートに基づくディスカッション５
7. 研究レポートに基づくディスカッション６
8. 研究レポートに基づくディスカッション７
9. 研究レポートに基づくディスカッション８
10. 研究レポートに基づくディスカッション９
11. 研究レポートに基づくディスカッション10
12. まとめ１
13. まとめ２
14. まとめ３
15. 総合討論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50% (2)発表:30% (3)ディスカッション:20%

卒業演習(学習・教育心理学)

担当者：小山　義徳

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

卒業研究で行ったことを踏まえ、さらに質の高い研究を目指す。

２.学びの意義と目標

論文執筆を通して、問題設定スキル、問題解決スキル、自分が発見したことをプレゼンテーションするスキルを身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

卒業研究に関連する資料を配布し，事前に取り組んでくることを課す場合がある．

準備学習(復習)

授業で行った内容に関して，適宜課題を課し，定着を確かめる場合がある．

授業計画

1. ガイダンス
2. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１）
3. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（２）
4. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（３）
5. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（４）
6. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（５）
7. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（６）
8. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（７）
9. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（８）
10. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（９）
11. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１０）
12. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１１）
13. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１２）
14. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１３）
15. 研究内容のプレゼンテーション＆相互批評（１４）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:60% (2)授業外課題:40%

卒業演習(高齢者福祉論)

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

輪番で卒業研究の結果と反省を報告し、それをもとに皆で討論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

２.学びの意義と目標

卒業研究の振り返りをする。

準備学習(予習)

卒業研究の結果と反省点をコンパクトにまとめ、輪番で報告できるようにする。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討論を振り返る。

授業計画

1. 研究報告と討論 (1)
2. 研究報告と討論 (2)
3. 研究報告と討論 (3)
4. 研究報告と討論 (4)
5. 研究報告と討論 (5)
6. 研究報告と討論 (6)
7. 研究報告と討論 (7)
8. 研究報告と討論 (8)
9. 研究報告と討論 (9)
10. 研究報告と討論 (10)
11. 研究報告と討論 (11)
12. 研究報告と討論 (12)
13. 研究報告と討論 (13)
14. 研究報告と討論 (14)
15. 研究報告と討論 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:100%

卒業演習(子ども家庭論)

担当者：中谷　茂一

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

　卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

２.学びの意義と目標

「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートとして4年間の総仕上げを目標とする。

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

授業計画

1. 卒業演習の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業演習の方法について
3. 〈テーマＡ〉発表・ディスカッション及びコメント
4. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
5. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
6. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
7. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
8. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
9. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業演習(児童福祉論)

担当者： 長谷川　恵美子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

１．内容

卒業研究Ⅱで提出・報告した卒業研究レポートの資料不足の部分や十分検討できていない部分等について取り上げ、よりよい卒業研究レポートとし、余裕があればさらに発展させる。

２.学びの意義と目標

卒業研究レポートを、形式、内容ともによりよいものとし、さらに発展させることで、卒業研究レポートのテーマに関する知識をより確かなものとするとともに、達成感をもってほしい。

準備学習(予習)

毎回、演習終了時、進み具合にしたがって、各自に次回までの課題を出す。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 卒業研究レポートに基づくディスカッション１
3. 卒業研究レポートに基づくディスカッション２
4. 卒業研究レポートに基づくディスカッション３
5. 卒業研究レポートに基づくディスカッション４
6. 卒業研究レポートに基づくディスカッション５
7. 卒業研究レポートに基づくディスカッション６
8. 卒業研究レポートに基づくディスカッション７
9. 卒業研究レポートに基づくディスカッション８
10. 卒業研究レポートに基づくディスカッション9
11. 卒業研究レポートに基づくディスカッション10
12. まとめ１
13. まとめ２
14. まとめ３
15. 総合討論

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50% (2)発表:30% (3)ディスカッション:20%

卒業演習(精神保健福祉論)

担当者： 相川　章子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

自らの研究テーマについてさらに探求し、成果を発表する。また、これまでの学びのプロセスを後輩へ伝え、共に学び、共に探求することの意義を学ぶ。

２.学びの意義と目標

卒業研究を終えて、その学びのプロセスを振り返る。そのことを後輩との学びの中で

準備学習(予習)

共に学ぼうとする気持ちの準備。それぞれのテーマに関する事前準備。

準備学習(復習)

ディスカッションで出されたさまざまな意見に関する情報整理と学びの振り返り。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 中間発表とディスカッション（1）
3. 中間発表とディスカッション（2）
4. 中間発表とディスカッション（3）
5. 中間発表とディスカッション（4）
6. 中間発表とディスカッション（5）
7. フィードバック
8. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
9. 研究発表とディスカッション（1）
10. 研究発表とディスカッション（2）
11. 研究発表とディスカッション（3）
12. 研究発表とディスカッション（4）
13. 研究発表とディスカッション（5）
14. 研究発表とディスカッション（6）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業態度:30% (3)レポート:40%

卒業演習(ソーシャルワーク論)

担当者：助川　征雄

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

ゆるやかなグループ討議などにより、卒業研究成果の共有と、さらなる深化や進路選択の役に立つ授業を行う。あわせて、2，3年生との研究交流や研究合宿も予定している。

２.学びの意義と目標

研究テーマの更なる深化と汎化。

準備学習(予習)

随時、進路に係る、「インターンシップ、社会福祉施設見学、ボランティア活動、指定書籍の評論」などのいずれかによる小レポートを課す。

準備学習(復習)

人間福祉に係るキー概念、キーワードの再確認と、国家試験、就活等に対する備えの徹底。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 卒業研究成果による演習と討論（１）
3. 卒業研究成果による演習と討論（２）
4. 卒業研究成果による演習と討論（３）
5. 卒業研究成果による演習と討論（４）
6. 卒業研究成果による演習と討論（５）
7. 2・3年生との合同研究会
8. 自由研究（１）
9. 自由研究（２）
10. 自由研究（３）
11. 自由研究（４）
12. 自由研究（５）
13. 自由研究（６）
14. 研究合宿
15. 　まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート（複数）:80% (2)出席率:20%

卒業演習(地域福祉論)

担当者：牛津　信忠

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

地域福祉の実際について、ここの研究報告書をベースに自由な討論を行う。その討論の中から、今後の就職した社会福祉領域、それに留まらず地域生活や一般企業の業務においても、地域福祉的発想が、役立ち、かつ重要であることを学んでいく。
さらに、各自のテーマを越えて、他の学友のテーマに接し視野を広げて行くとともに、関連領域に関する広い視野を養うことも重視する。

２.学びの意義と目標

地域福祉という課題を通じて社会生活の準備学習を行う。

準備学習(予習)

言葉で明確に語る訓練をしていき、自分の問題意識を発展させていくことを求める。さらにそれが社会生活にも応用できるように訓練を続けてほしい。

準備学習(復習)

友人、近隣の人々とのコミュニケーションの中で、地域生活上の課題を感じ取り積極的にその解明解決のための働き掛けをする。それを学友と話し合い、解決の糸口を探る。

授業計画

1. 各自の研究テーマ別の報告会
2. 各自の研究テーマ別の報告会
3. 各自の研究テーマ別の報告会
4. 各自の研究テーマ別の報告会
5. テーマの関連領域の研究
6. テーマの関連領域の研究
7. テーマの関連領域の研究
8. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
9. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
10. 地域福祉と社会生活・ディスカッション
11. 今後の社会生活
12. 今後の社会生活
13. 今後の社会生活
14. 生活と消費と地域福祉
15. 生活と労働と地域福祉」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)現況報告:30% (2)社会性:30% (3)コミュニケーション能力:40%

卒業演習(人間関係論)

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。
・専門演習１・２を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。
・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。
・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

２.学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（ＳＷ実習，施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力及びソーシャルワーカーとしての実践力のある人材を醸成することをめざす。

準備学習(予習)

生活支援に関する自己の設定したテーマについて、各自で調査研究を行うこと。適宜、ボランティア活動や課外授業の学習内容も活用すること。

準備学習(復習)

授業内での意見交換を経て、各自のテーマに関する探究を深化させること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換①
3. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換②
4. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換③
5. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換④
6. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤
7. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥
8. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦
9. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧
10. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨
11. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩
12. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪
13. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫
14. 各学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。これらを元に総合的に評価する。

卒業演習(福祉環境論)

担当者：野口　祐子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

専門演習Ⅰから卒業研究Ⅱで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度から研究をとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。教室内にとどまらず、これまで取り組んできた研究の応用として、関連施設の見学や体験を取り入れ、研究を深めます。

これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。

２.学びの意義と目標

社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。

準備学習(予習)

これまで取り組んできた研究を振り返り、整理して授業に臨んで下さい。

準備学習(復習)

常に自分の研究活動を振り返りながら、足りないところを補足するようにしてください。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究の振り返り
3. 今後の研究テーマ検討
4. 研究活動の具体的な検討
5. 研究テーマ、目的、方法等について（発表とディスカッション）
6. 研究活動
7. 研究経過報告（発表とディスカッション）
8. 中間発表
9. 研究活動
10. 研究経過報告（発表とディスカッション）
11. 研究活動
12. 研究経過報告（発表とディスカッション）
13. 研究活動
14. 発表準備
15. 研究発表

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
出席２／３以上を前提とします。

卒業演習(福祉倫理)

担当者：左近　豊

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の完成に向けて発表、討論を行う。

２.学びの意義と目標

卒業研究、あるいは卒業論文の完成

準備学習(予習)

探求してきたテーマを論文、および研究としてまとめるために必要な手続きを踏んで発表に臨む。

準備学習(復習)

討論を経て考察を深め、卒業研究、あるいは卒業論文として総括する。

授業計画

1. 序
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)演習参加:70%:発表、討論 (2)学期末レポート:30%

卒業研究(カウンセリング論) I

担当者： 長谷川　恵美子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。

２.学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

準備学習(予習)

それぞれのテーマや目的に応じての学習であるため、授業外での学習が重要となる。さらに授業時に積極的にディスカッションするとともに、その議論を活かし学習を深めることを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 個人発表とディスカッション（１）
3. 個人発表とディスカッション（２）
4. 個人発表とディスカッション（３）
5. 個人発表とディスカッション（４）
6. 個人発表とディスカッション（５）
7. 個人発表とディスカッション（６）
8. 個人発表とディスカッション（7）
9. 個人発表とディスカッション（８）
10. 個人発表とディスカッション（９）
11. 個人発表とディスカッション（10）
12. 個人発表とディスカッション（11）
13. 個人発表とディスカッション（12）
14. 個人発表とディスカッション（13）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50% (2)発表:30% (3)ディスカッション:20%

卒業研究(カウンセリング論)II

担当者： 長谷川　恵美子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。
特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。

２.学びの意義と目標

心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。

準備学習(予習)

各担当者によって配布される資料を熟読しディスカッションに備えるとともに、各自のテーマについて自らのデータと文献を照らし合わせながら発表資料を作成することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. 授業開始時に受講者の目的と希望にあわせて計画をたてる
2. 個人発表とディスカッション（1）
3. 個人発表とディスカッション（2）
4. 個人発表とディスカッション（3）
5. 個人発表とディスカッション（4）
6. 個人発表とディスカッション（5）
7. 個人発表とディスカッション（6）
8. 研究発表１
9. 研究発表２
10. 研究発表3
11. 研究発表4
12. 研究発表5
13. 研究発表6
14. まとめ１
15. まとめ２

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:50% (2)発表:30% (3)ディスカッション:20%

卒業研究(学習・教育心理学) I

担当者： 小山　義徳

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

受講生が興味があるテーマに関して、これまでにどのような研究が行われてきたかをまとめることを目的とする。学期末には先行研究をまとめた内容を口頭で発表することを行う。

２.学びの意義と目標

本演習により，資料を収集し整理するスキルが身につく．心理学の研究における調査法，実験法，観察法について学び，卒業研究に必要な基礎的な技能を獲得することを目標とする．

準備学習(予習)

予め自分が興味があるテーマに関する書籍、論文、インターネット上の情報を収集し，整理しておくこと。

準備学習(復習)

受講生が調べた資料や演習内で扱う心理学の手法について，適宜振り返り定着を促す．

授業計画

1. オリエンテーション
2. 論文の読み方
3. 先行研究のレビューとは
4. 調査法演習１
5. 調査法演習２
6. 調査法演習３
7. レビュー中間発表
8. 実験法演習１
9. 実験法演習２
10. 実験法演習３
11. レビュー中間発表２
12. 観察法演習１
13. 観察法演習２
14. レビュー最終発表会１
15. レビュー最終発表会２

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:60% (2)授業外課題:40%

卒業研究(学習・教育心理学)II

担当者：小山　義徳

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

履修者の興味のあるテーマに関する先行研究に基づき、調査・実験・観察等の手法を用いて、自分が立てた仮説の検討を行う。その結果を、ほかの人に伝わりやすい形でまとめ、期末に口頭発表を行う。

２.学びの意義と目標

受講者の興味のあるテーマについて，仮説を立て，心理学の研究手法に基づいた検証を行うことが論理的な思考を行う訓練となる．選んだテーマに関する先行研究を整理し，仮説を立て，検証を行った結果を，文章と口頭で分かりやすく他者にプレゼンテーションできることを目標とする．

準備学習(予習)

演習に関連した資料を予め配布し，事前に読んでくることを要求する場合があります．

準備学習(復習)

演習で扱った，心理学の研究手法に関して定着を図るために，適宜復習を行う．

授業計画

1. オリエンテーション
2. 実験・調査・観察デザインの検討Ｉ（１）
3. 実験・調査・観察デザインの検討Ｉ（２）
4. 実験・調査・観察デザインの検討Ｉ（３）
5. 中間報告Ｉ（１）
6. 中間報告Ｉ（２）
7. 中間報告Ｉ（３）
8. 実験・調査・観察デザインの検討II（１）
9. 実験・調査・観察デザインの検討II（２）
10. 実験・調査・観察デザインの検討II（３）
11. 中間報告II（１）
12. 中間報告II（２）
13. 中間報告II（３）
14. 全体発表会１
15. 全体発表会２

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:60% (2)授業外課題:40%

卒業研究(高齢者福祉論) I

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告をもとに皆で議論する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

２.学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進める。

準備学習(予習)

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

授業計画

1. 研究の中間発表と討議 (1)
2. 研究の中間発表と討議 (2)
3. 研究の中間発表と討議 (3)
4. 研究の中間発表と討議 (4)
5. 研究の中間発表と討議 (5)
6. 研究の中間発表と討議 (6)
7. 研究の中間発表と討議 (7)
8. 研究の中間発表と討議 (8)
9. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:100%

卒業研究(高齢者福祉論)II

担当者：古谷野　亘

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

輪番で研究の途中経過を報告し、その報告討論をもとにレポートを作成する。その他のことは、ゼミ参加者と相談して決める。

２.学びの意義と目標

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について卒業研究を進め、研究結果をレポートにまとめる。

準備学習(予習)

各自自分の研究を進め、輪番で進捗状況を報告する。

準備学習(復習)

授業時には積極的に発言し、授業後には当日の討議を振り返り、自分の研究に反映させる。

授業計画

1. 研究の中間発表と討議 (1)
2. 研究の中間発表と討議 (2)
3. 研究の中間発表と討議 (3)
4. 研究の中間発表と討議 (4)
5. 研究の中間発表と討議 (5)
6. 研究の中間発表と討議 (6)
7. 研究の中間発表と討議 (7)
8. 研究の中間発表と討議 (8)
9. 研究の中間発表と討議 (9)
10. 研究の中間発表と討議 (10)
11. 研究の中間発表と討議 (11)
12. 研究の中間発表と討議 (12)
13. 研究の中間発表と討議 (13)
14. 研究の中間発表と討議 (14)
15. 研究の中間発表と討議 (15)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:80% (2)平常点:20%

卒業研究(子ども家庭論) I

担当者： 中谷　茂一

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

　卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

２.学びの意義と目標

「専門演習I・II」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

授業計画

1. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業研究の方法について
3. 発表・ディスカッション及びコメント
4. 発表・ディスカッション及びコメント
5. 発表・ディスカッション及びコメント
6. 発表・ディスカッション及びコメント
7. 発表・ディスカッション及びコメント
8. 発表・ディスカッション及びコメント
9. 発表・ディスカッション及びコメント
10. 発表・ディスカッション及びコメント
11. 発表・ディスカッション及びコメント
12. 発表・ディスカッション及びコメント
13. 発表・ディスカッション及びコメント
14. 発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ

担当者：中谷　茂一

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。

　テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポ
ートを提出してもらう。

２.学びの意義と目標

「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。

準備学習(予習)

自己のレジュメの作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べること

授業計画

1. 卒業研究の達成課題と研究テーマ設定について
2. 卒業研究の方法について
3. 〈テーマＡ〉発表・ディスカッション及びコメント
4. 〈テーマB〉発表・ディスカッション及びコメント
5. 〈テーマC〉発表・ディスカッション及びコメント
6. 〈テーマD〉発表・ディスカッション及びコメント
7. 〈テーマE〉発表・ディスカッション及びコメント
8. 〈テーマF〉発表・ディスカッション及びコメント
9. 〈テーマG〉発表・ディスカッション及びコメント
10. 〈テーマH〉発表・ディスカッション及びコメント
11. 〈テーマI〉発表・ディスカッション及びコメント
12. 〈テーマJ〉発表・ディスカッション及びコメント
13. 〈テーマK〉発表・ディスカッション及びコメント
14. 〈テーマL〉発表・ディスカッション及びコメント
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)発表内容:40% (3)ディスカッション参加状況:40%

卒業研究(生活支援論) I

担当者：田村　綾子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・専門演習１・２を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する考察をより深化させる。
・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。
・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

２.学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（ＳＷ実習，施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

準備学習(予習)

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索と講読、レポートの記載をおこなうこと。

準備学習(復習)

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。

授業計画

1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.

教科書

プリントを配布する

評価方法

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を発言等を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業研究(生活支援論)Ⅱ

担当者：田村　綾子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

・卒業に向け、本学人間福祉学科で学んだことの集大成を論文として記述することを目的とし、文献検索、調査研究、プレゼンテーションと意見交換に基づく考察の深化を行う。
・専門演習１・２を踏まえ、人の暮らしを支援することの意義に関する自己の価値観を確立させる。
・精神保健福祉士や社会福祉士として、実際の支援場面においてどのようなかかわりができるか、実践的に考えることを通じて、ソーシャルワーカーになるために必要な知識、技術を習得する。
・人間福祉学を学んだ者としてふさわしい価値観、倫理感を習得することを目的として文献購読や意見交換を通じて幅のある人格形成をめざす。

２.学びの意義と目標

各学生からのプレゼンテーションに基づく意見交換、学外活動（ＳＷ実習，施設見学，ボランティア等）を活用した意見交換等を中心に進めることで、主体的に考え、また自己を省察し言語化出来る力を醸成することをめざす。

準備学習(予習)

自己の卒業研究テーマを定め、継続的に文献検索や調査研究、レポートの執筆をおこなうこと。

準備学習(復習)

プレゼンテーションと意見交換を中心に授業を進めることから、協議された内容を反映させて各自の研究テーマについての考察を深化させること。履修修了の時点では、卒業論文（レポート）が完成することを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学生からのプレゼンテーションと意見交換①
3. 学生からのプレゼンテーションと意見交換②
4. 学生からのプレゼンテーションと意見交換③
5. 学生からのプレゼンテーションと意見交換④
6. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑤
7. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑥
8. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑦
9. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑧
10. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑨
11. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑩
12. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑪
13. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑫
14. 学生からのプレゼンテーションと意見交換⑬
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

遅刻無く出席すること、授業内での意欲的な参加態度を、発言を通じて表現すること。プレゼンテーションの担当者は、他者にわかりやすく、意見を出しやすいようにレジュメを作成すること、これらを元に総合的に評価する。

卒業研究(精神保健福祉論)Ⅰ

担当者：相川　章子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

１．内容
　専門演習Ⅱで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマにおいて、研究レポート　および研究活動それぞれ選択したことについてまとめる。

２．カリキュラム上の位置づけ
　自らの感心ごとを具体化させ、まとめる応用的な位置づけである。

２.学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げ　るプロセスの中で、豊かな発想力、想像力、調査力、実行力、実践力を身につけ、知識　を獲得し、自らの視点を身につける。

準備学習(予習)

卒業研究レポートもしくは活動について、各々の課題にむけて調べ、探求し続ける。

準備学習(復習)

ゼミのディスカッションで出された意見やコメント等について気になったことを書き留めておき、研究へ活かす。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究論文とは？研究論文の書き方、まとめ方について
3. 研究発表とディスカッション（１）
4. 研究発表とディスカッション（２）
5. 研究発表とディスカッション（３）
6. 研究発表とディスカッション（４）
7. 研究発表とディスカッション（５）
8. ゲストスピーカーによる講義およびディスカッション
9. 研究発表とディスカッション（６）
10. 研究発表とディスカッション（７）
11. 研究発表とディスカッション（８）
12. 研究発表とディスカッション（９）
13. 研究発表とディスカッション（１０）
14. 研究発表とディスカッション（１１）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:50% (2)レポート等:50%
※「卒業研究レポート」もしくは「卒業研究活動」のいずれかを選択し、さらに「個人研究」もしくは「共同研究」を選択することができる。研究レポートの選択者はレポート作成を、卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の企画づくりおよび活動実施にむけて

卒業研究(精神保健福祉論)II

担当者：相川　章子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

１．内容
　卒業研究Iでしぼりこんだ各受講者の研究テーマについて、研究レポートおよび研究活動のそれぞれ選択した内容について主体的に調べ、作業をすすめ、まとめ、発表をする。
２．カリキュラム上の位置づけ
　卒業研究の総仕上げ。

２.学びの意義と目標

自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げ　るプロセスの中で、論理的な考え方や思考の組み立てについて学ぶ。これまでに培った想像力や調査力、実行力に磨きをかけ、それらを整理し、表現することを学ぶ。

準備学習(予習)

各々が取り組むことを選択した卒業研究について、追求し続ける。

準備学習(復習)

ゼミのディスカッションで出された意見やコメントで気になったことについて書き留めておきましょう。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究テーマと進捗状況報告（１）
3. 研究テーマと進捗状況報告（２）
4. 研究テーマと進捗状況報告（３）
5. 個別指導のフィードバック
6. 中間報告およびディスカッション（１）
7. 中間報告およびディスカッション（２）
8. 中間報告およびディスカッション（３）
9. 中間報告およびディスカッション（４）
10. 中間報告およびディスカッション（５）
11. 中間報告およびディスカッション（６）
12. 中間報告およびディスカッション（７）
13. 卒業研究発表会（１）
14. 卒業研究発表会（２）
15. 卒業研究発表会（３）と総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業態度:50% (2)レポート等:50%
＊「卒業研究レポート」もしくは「卒業研究活動」を選択し、さらに「個人研究」もしくは「共同研究」を選択することができる。「卒業研究活動」選択者は、研究レポートの提出を、「卒業研究活動」選択者は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを提出する。

卒業研究(ソーシャルワーク論) I

担当者： 助川　征雄

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

まず研究方法の学びから始まり、卒業研究テーマの検索と設定をおこなう。続いて、個別・小グループに分かれた研究テーマの探索推進、さらには全体検討・発表の場を設け、情報共有と研究意欲の向上を図る。最終的には、卒業論文あるいは卒業研究レポート何度の成果を研究集にまとめる（製本）。

２.学びの意義と目標

個性的なテーマの選定、研究（表現とまとめ）を通して研究の喜びを得ることに重点を置く。同時に、自由に研究テーマを追及することにより、自分のオリジナリティや人間性に気づくことをめざす。なお、それらの研究や分析には福祉的な手法を必ず加える。

準備学習(予習)

研究テーマにそい、資料配布や参考書を指定するので、月に２冊程度の参考書読了をめざすこと。、

準備学習(復習)

難解な事項はその日のうちに解明すること、同時に、研究テーマに沿った個別研究は自宅でも継続すること。

授業計画

1. オリエンテーション（研究法について）
2. 研究テーマの検索（１）
3. 研究テーマの検索（２）
4. 研究テーマの検索（３）
5. 研究テーマの検索（４）
6. テーマの確定に向けた合同検討会
7. 研究テーマの探索（１）
8. 研究テーマの探索（２）
9. 研究テーマの探索（３）
10. 研究テーマの探索（４）
11. 研究テーマの探索（５）
12. 研究テーマの探索（６）
13. 研究テーマの探索（７）
14. 研究テーマの探索（８）
15. まとめ－研究成果の中間発表会（１）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:80% (2)出席率:20%

卒業研究(ソーシャルワーク論)II

担当者：助川　征雄

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

主に個別・小グループによる研究指導を継続する。同時に中間発表会を開くとともに、卒業論文発表会や学外研究会への参加なども積極的に配慮する。

２.学びの意義と目標

自由な発想による研究テーマへの取り組みによる、研究の歓びと自己覚知の深化。社会人としての旅立ちへの自覚と準備。

準備学習(予習)

個別指導に沿った、日常的な資料、参考書等の読了、探索。

準備学習(復習)

研究レポート（論文）完成に向けた自己チェックの徹底。特に助言指導事項の再チェックの徹底。

授業計画

1. 研究の継続と個別・小グループ指導（１）
2. 研究の継続と個別・小グループ指導（２）
3. 研究の継続と個別・小グループ指導（３）
4. 研究の継続と個別・小グループ指導（４）
5. 研究の継続と個別・小グループ指導（５）
6. 研究の継続と個別・小グループ指導（６）
7. 研究の継続と個別・小グループ指導（７）
8. 研究成果の中間発表
9. 研究レポート（論文）作成指導（１）
10. 研究レポート（論文）作成指導（２）
11. 研究レポート（論文）作成指導（３）
12. 研究レポート（論文）作成指導（４）
13. 研究レポート（論文）作成指導（５）
14. 研究レポート（論文）製本
15. 研究成果の発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:80% (2)出席率:20%

卒業研究(地域福祉論) I

担当者：牛津　信忠

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

専門演習IIでテーマ設定して書き上げたレポートをもとに、それをさらに掘り下げて、専門的な研究領域を持つことを示す卒業レポートを作成して行くための準備を行う。

専門演習で研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、自分の見解をまとめて行く。

２.学びの意義と目標

専門演習で研究した地域福祉の課題を体系的に学び進め、章立て、節立てを明確にし、それぞれについて個別指導を受けながら全体のレポート構成を固めていく。そのプロセスで他の受講者からの批判検討を自ら咀嚼して行く努力をし、それによる自己研鑽を図る。

準備学習(予習)

自分の研究（計画）や将来については、担当教員とＥメールを用いて密に連絡をとること。発表内容、レポート資料、就職等、共に相談しながらゼミを進める。

準備学習(復習)

図書館を用いて資料探しを教員の指導の下に行うので、その際に見出した資料を読みこなしておく。
発表課題を他の学友の見解を交えて絶えず纏め研究メモを創っていき、発表時の準備を怠りなく行う。

授業計画

1. 専門演習で設定したテーマ及び概要についての確認。
2. テーマ別グループへの指導及び個別指導
3. テーマ別グループへの指導及び個別指導
4. テーマ別グループへの指導及び個別指導
5. 発表と受講者間討論
6. 発表と受講者間討論
7. 発表と受講者間の討論
8. テーマ別グループへの指導及び個別指導
9. 発表と受講者間の討論
10. 発表と受講者間の討論
11. 全体構成の確認・参考文献のチェック・補足
12. 個別発表と受講者間の討論
13. 個別発表と受講者間の討論
14. 全体構成の確認・参考文献のチェック・補足
15. 現段階におけるまとめとしてのレポート作成（個別指導）

教科書

牛津信忠著 『社会福祉における相互的人格主義II』 (久美出版)

評価方法

(1)研究発表:40% (2)ディスカッションによる授業貢献:20%
(3)学期末レポート:40%

卒業研究(地域福祉論)II

担当者：牛津　信忠

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

卒業研究（地域福祉論）I　における研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し研究を進める。
専門研究の糸口を開く演習Iに基礎付けられ、さらに学びを深め卒業研究IIとして、選び取った専門課題についての研究レポートをまとめていく。

２.学びの意義と目標

自らの研究が、地域福祉の形成と質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題解明を通して具体的に問う。さらに、関連資料の収集と読破により自らの学びを独自性のある研究へと高める努力をする。それと共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値についても深く学ぶ。

準備学習(予習)

地域生活の日常の中で積極的に福祉観を磨いてほしい。そこで問題意識を培うとともに、それに即して絶えず演習を振り返り、自分の意見を持つよう努力すること。

準備学習(復習)

いつも社会と人とを見つめ、相互包摂的にしかし主体手共同の中に生きることを忘れないように心掛ける。知識に変調をきたさない、生きる態度の学びを社会に巣立とうとする諸君には求めたい。この基本的視座のもとに知識の時限の資料を読み進めておくこと。

授業計画

1. 自己のテーマの再確認
2. 地域福祉上の位置と役割を考える
3. 各自の発表と討論
4. 各自の発表と討論
5. 各自の発表と討論
6. 個別指導　テーマの関連知識の集積
7. 同　個別指導
8. 各自の発表
9. 各自の発表
10. 演習参加者の研究領域の接点
11. 地域福祉ネットワーキングの可能性を探る
12. 各自の価値前提についての討議
13. レポート作成の個別指導
14. レポート作成の個別指導
15. 個別に自分の研究のまとめの短いコメント[全員]

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業時の発表:20% (2)他のゼミ生とのヂスカッション内容:15%
(3)資料収集力:15% (4)最終卒業レポートの完成度:50%

卒業研究(福祉環境論) I

担当者： 野口　祐子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートや卒業論文に向けた基礎固めを行います。

これまで専門演習で学んできたことを基礎として、個人で自立して研究を行い、４年生の卒業研究IIや卒業論文まで継続します。

２.学びの意義と目標

研究の中身を充実させ、着実に研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。

準備学習(予習)

専門演習IIで行った研究を振り返り、課題を明らかにし、目標を持って卒業研究Iに臨んでください。

準備学習(復習)

関心があるテーマについて、関連する文献を調べるようにしましょう。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究についての振り返り
3. 研究テーマについて（発表とディスカッション）
4. 研究目的と研究方法について（発表とディスカッション）
5. 研究計画について（発表とディスカッション）
6. 研究経過報告（発表とディスカッション）
7. 研究経過報告（発表とディスカッション）
8. 中間発表 その1
9. 研究経過報告（発表とディスカッション）
10. 研究経過報告（発表とディスカッション）
11. 中間発表 その2
12. 研究経過報告（発表とディスカッション）
13. 研究発表、レポート作成、研究のまとめ方について
14. 研究発表 その1
15. 研究発表 その2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
出席２／３以上が前提です。

卒業研究(福祉環境論)Ⅱ

担当者：野口　祐子

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

障がい者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。卒業研究Ⅰに引き続き、レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートの完成または卒業論文の基礎固めを行います。

また、各自の研究とは別に、数回グループ研究を行い、学生主体でディスカッションや見学会などの企画を行います。

２.学びの意義と目標

卒業研究Ⅰで取り組んだ研究をより充実させ、卒業研究、卒業論文としてまとめます。

これまで学んできたことを基礎として、スパイラルアップしながら、いっそう研究を充実させて行きます。そして、研究の意義や面白さ、充実感を体験していただきたいと思います。

準備学習(予習)

これまでの研究を振り返り、研究の完成に向け課題を明らかにし、目標を持って授業に臨んで下さい。

準備学習(復習)

文献調査やヒアリング調査など、各自が計画にそって研究を進めてください。

授業計画

1. ゼミの進め方について
2. これまでの研究についての振り返り
3. グループ研究の検討
4. 研究テーマ、目的、方法等について（発表とディスカッション）
5. グループ研究 その1
6. 研究経過報告（発表とディスカッション）
7. 研究経過報告（発表とディスカッション）
8. 中間発表
9. グループ研究 その2
10. 研究経過報告（発表とディスカッション）
11. 研究経過報告（発表とディスカッション）
12. グループ研究 その3
13. 発表準備
14. 研究発表 その1
15. 研究発表 その2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)参加姿勢:20% (3)レポート:30% (4)発表:30%
出席２／３以上を前提とします。

卒業研究(福祉倫理) I

担当者：左近　豊

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

福祉倫理に関するテーマを各自が探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために研究発表、討論をおこなう。

２.学びの意義と目標

先行研究を踏まえ、考察をまとめる。

準備学習(予習)

見出したテーマを掘り下げ、学内外を問わず図書館を活用して文献にあたり、発表に臨んでください。

準備学習(復習)

討論を経た後の思索をレポートにまとめて提出してください。

授業計画

1. 序
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)演習参加:70%:発表、討論 (2)学期末レポート:30%

卒業研究(福祉倫理)II

担当者：左近　豊

開講期：春学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週1回　　単位数：1単位

講義概要

１.内容

福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために発表と討論を行う。

２.学びの意義と目標

卒業研究、あるいは卒業論文執筆に向けてリサーチと発表を進める。

準備学習(予習)

見出したテーマを掘り下げるために図書館を活用して文献にあたり、発表に臨むこと。

準備学習(復習)

討論を踏まえてレポートにまとめて提出すること。

授業計画

1. 序
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)演習参加:70%:発表、討論 (2)学期末レポート:30%

地域社会論

担当者：大高　研道

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

現代社会は「不安社会」だと言われている。少子・高齢化、ニート、非行・犯罪、登校拒否・引きこもり、孤独死、家庭暴力など、私たちの生活や未来を脅かすような事件が多発する社会は、ますます私たちを不安にさせる。中でも特徴的なのは、いわゆる自らを中流階層と認識してきた多くの人々が危機感を覚えていることだ。一億総中流と言われたのは一昔、今では自らを「中流」と呼ぶ人は少ない。そのことは、「リスク社会」/「不安社会」の中に誰もが巻き込まれる恐れがあることへの危機意識が多くの人々に共有されていることを意味するが、より深くその「不安」の本質を理解しようと試みれば、それは、上記の問題に遭遇した時に「誰が守ってくれるのか？」、「誰が助けてくれるのか？」といった疑念の混じった不安であることが分かる。換言すると、私たちは今、未来社会における「助け合いの形」（＝現代的協同）を模索しているといえる。そこで、キーワードとして登場してくるのが「地域社会/コミュニティ」である。

本講義では、現代（不安）社会は、「助け合いの形」のドラマティックな変容過程（崩壊過程ではない）にあると理解し、この現代的協同の中心概念（および主要形態）として注目されている「地域社会/コミュニティ」の現代的な形および再編の方向性について論じたい。

２.学びの意義と目標

人間生活は他者との関係性なしでは成り立たない。災害時や高齢化社会への対応、さらには近年問題となっている子どもへの犯罪にかかわる防犯対策など、地域の役割の重要性はむしろ増しており、21世紀は「コミュニティの時代」とも言われている。反面、生活の個別化とともに地域内の人間関係が希薄化し、地域社会の衰退・崩壊が進んでいるのも事実である。よって、今日の競争社会によって失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる砦としてあらためて注目されている「地域社会/コミュニティ」の現代的意味の再検討は、私たち自身の未来社会を展望するためにも重要である。また、このようなコミュニティの現代的文脈から3.11東日本大震災の復興過程を考えると、そこには未来社会にむけて私たちが進んでいく方向性への示唆も見えてくる。

講義を通して、最終的には、地域を基盤にさまざまな活動を展開する協同的市民活動（NPO、ボランティア組織、社会的企業を含む）の現在と可能性について、一定程度のヴィジョンが提示できるようになることを目指す。

準備学習(予習)

毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。

準備学習(復習)

毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと/さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、次回講義の冒頭に、前回講義の復習・解説という形で質疑応答・意見交換の時間を設ける。

授業計画

1. 地域社会論の射程
2. グループ討論（1）地域社会とコミュニティ
3. グループ討論（2）地域社会とコミュニティ
4. グループ討論報告
5. 講義の焦点の再確認―「コミュニティ」と「地域社会」の同質性・異質性―
6. コミュニティ概念の再検討（1）
7. コミュニティ概念の再検討（2）
8. 映画にみる「地域社会」の断面(1)
9. 映画にみる「地域社会」の断面(2)
10. 無縁社会とコミュニティ
11. 支えあいの場としてのコミュニティ－機能と現実（1）
12. 支えあいの場としてのコミュニティ－機能と現実（2）
13. 現代社会の諸相:若者問題（1）
14. 現代社会の諸相:若者問題（2）
15. 現代社会の諸相:高齢化（1）
16. 現代社会の諸相:高齢化（2）
17. 現代社会の諸相:働く（1）
18. 現代社会の諸相:働く（2）
19. 現代社会の諸相（まとめ）:不安社会の背後にあるもの
20. 現代的協同性の担い手としての家族・近隣組織・アソシエーション・国家（1）
21. 現代的協同性の担い手としての家族・近隣組織・アソシエーション・国家（2）
22. 孤立への対抗戦略（国内編1）:障がい者福祉
23. 孤立への対抗戦略（国内編2）:ホームレス支援
24. 孤立への対抗戦略（国内編3）:ご近所の再構築
25. 孤立への対抗戦略（海外編1）:イギリス・アイルランド
26. 孤立への対抗戦略（海外編2）:スウェーデン
27. 地域社会論を学ぶことの意味(１)「地域社会崩壊論」について考える
28. 地域社会論を学ぶことの意味(２)市民と行政の協働による地域社会形成
29. 地域社会論を学ぶことの意味(３)若者問題が地域社会論へ提起するもの
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:70% (2)レポート:30%

・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。

・講義の内容理解を深めるためにグループ討論・報告を実施する。討

地域福祉論

担当者：牛津　信忠

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

・現代社会における地域福祉の実際
・地域福祉の基本的考え方
・地域福祉の主体と対象
・地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民
・地域福祉の推進方法
・地域福祉計画と地域福祉活動計画

２.学びの意義と目標

・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。
・地域福祉の主体と対象について理解する。
・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。
・地域福祉計画と地域福祉活動計画について理解する。
（講義の順番は理解度に応じて変更されることがある）

準備学習(予習)

各項目ごとの関連文献やマスコミ記事等に触れ、認識を深めておくこと。毎回配布するレジュメの未終了箇所を熟読し問題意識を持って次の授業に出席すること。

準備学習(復習)

授業時に配布のレジュメを用いて、毎回授業を振り返り、知識の確実化、関連事項を課題視して思考を深めていくこと。3回に一度行う終了箇所の小テストの準備を通して行っていくこと。

授業計画

1. 現代社会における地域福祉の実際　（１）社会の変化と地域福祉の課題
2. 現代社会における地域福祉の実際　（２）地域における多様な福祉課題への対応
3. 地域福祉の基本的考え方　（１）地域福祉理論の発展と広がり
4. 地域福祉の基本的考え方　（２）地域福祉の理念と概念
5. 地域福祉の主体と対象　（１）地域福祉の主体
6. 地域福祉の主体と対象　（２）地域福祉の対象
7. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民　（１）行政組織と民間組織の役割
8. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民　（２）専門職や地域住民の役割
9. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民　（３）ボランティア活動の考え方と推進方策
10. 地域福祉の推進方法　（１）地域福祉の方法論
11. 地域福祉の推進方法　（２）地域における福祉ニーズの把握方法①地域福祉におけるアウトリーチの意義
12. 地域福祉の推進方法　（３）地域における福祉ニーズの把握方法②質的な福祉ニーズの把握方法と実際
13. 地域福祉の推進方法　（４）地域における福祉ニーズの把握方法③量的な福祉ニーズの把握方法と実際
14. 地域福祉の推進方法　（５）ネットワーキング①ネットワーキングの意義と方法
15. 地域福祉の推進方法　（６）ネットワーキング②ネットワーキングの実際
16. 地域福祉の推進方法　（７）社会資源の活用・調整・開発①社会資源の概要
17. 地域福祉の推進方法　（８）社会資源の活用・調整・開発②社会資源の活用法とコーディネート
18. 地域福祉の推進方法　（９）社会資源の活用・調整・開発③福祉サービスの開発
19. 地域福祉の推進方法　（１０）社会資源の活用・調整・開発④まちづくりとソーシャルアクション
20. 地域福祉の推進方法　（１１）地域トータルケアシステムの構築方法と実際①地域トータルケアシステムの必要性と考え方
21. 地域福祉の推進方法　（１２）地域トータルケアシステムの構築方法と実際②地域トータルケアシステムの展開方法
22. 地域福祉の推進方法　（１３）地域トータルケアシステムの構築方法と実際③地域トータルケアシステムの事例
23. 地域福祉の推進方法　（１４）地域における福祉サービスの評価方法と実際①福祉サービスの評価の意義とそのシステム
24. 地域福祉の推進方法　（１５）地域における福祉サービスの評価方法と実際②福祉サービスの評価の方法と実際
25. 地域福祉の推進方法　（１６）地域における福祉サービスの評価方法と実際③福祉サービスのプログラム評価の展開
26. 地域福祉の推進方法　（１７）地域福祉の財源
27. 地域福祉計画と地域福祉活動計画　（１）地域福祉計画の法制化と策定の意義
28. 地域福祉計画と地域福祉活動計画　（２）市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の策定
29. 地域福祉計画と地域福祉活動計画　（３）地域福祉活動計画と地区福祉計画の意義と内容
30. これからの地域福祉のあり方

教科書

プリントを配布する
スライドショウ（パワーポイントによる）

評価方法

(1)授業出席率:20% (2)授業内小テスト:20% (3)授業受講態度:10%
(4)期末テスト成績:50%

統計学

担当者：松原　望

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

統計学は情報の学問です。私たちの日常生活を通して学ぶことでより面白い知的世界が広がります。今の社会を生き抜くために必要な情報の基礎知識を学んで、情報社会で豊かで主体的な人生を築きましょう。初心者歓迎。数学知識不要。

２.学びの意義と目標

統計学を通じてコンピュータ力を高め、情報社会で
生き活躍する能力を育てる。就職用お買い得科目。

準備学習(予習)

テキストを事前に１０分だけ見ておいてください。
「眺める」だけでも有効。

準備学習(復習)

レポートおよび復習によって、授業内容を深く理解する。自宅でも可能です。

授業計画

1. 少子・高齢化の統計（見方・考え方）
2. なぜ情報が必要か
3. 環境・資源の統計（見方・考え方）
4. 日常生活と情報
5. 経済統計（見方・考え方）
6. 情報産業
7. 地域の統計（見方・考え方）
8. 足で情報を取る
9. 金融・経営の統計（見方・考え方）
10. 情報化の進展
11. 広告・マーケティングの統計（見方・考え方）
12. 情報モラル
13. 教育・心理の統計（見方・考え方）
14. 情報技術（教育）
15. 社会調査の統計（見方・考え方）
16. 情報技術（社会調査）
17. 医療の統計（見方・考え方）
18. 情報技術（医療）
19. 福祉・介護の統計（見方・考え方）
20. 情報技術（福祉・介護）
21. 体育・スポーツの統計（見方・考え方）
22. 情報技術（エンタテインメント）
23. 統計データの扱い方
24. トピック：情報技術者の業務
25. 平均と分散（見方・考え方）
26. トピック：情報技術者の責任
27. 相関関係と相関係数（見方・考え方）
28. トピック：情報産業と法律
29. 回帰方程式と予測（見方・考え方）
30. トピック：情報技術者と人生

教科書

松原望 『はじめよう！統計学超入門』 (技術評論社)

評価方法

(1)出席:25%:８割必要 (2)レポート:25%:簡単なもの数回
(3)試験:25%:エクセル、ホームページを利用
(4)熱意:25%:履修したので熱意はあると判断

人間関係論

担当者：中嶋　励子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

私達は日頃、さまざまな他者と関わりながら、そして、社会の動きに関わる行動をとりながら生活している。このような他者との関係や社会の動きに関わる行動について、実証的データに基づく社会心理分野の研究事例を紹介しながら、授業を進めていく。

２.学びの意義と目標

・対人関係、コミュニケーション、ストレスとストレス対処、リスク認知、災害心理学などについて、社会心理学の基礎知識を習得する。
・先行研究事例で用いられている主な研究方法や測定尺度と分析について、基本的な部分を理解する。

準備学習(予習)

翌週と連続する内容の授業に関しては、自主的に予習しておくこと。

準備学習(復習)

その週の授業内容のポイントは、授業内で提出を求めるコメントのテーマとして提示するので、その内容を復習しておくこと。また、中間・期末課題レポートには、授業内容を復習しながら取り組むこと。

授業計画

1. 授業ガイダンス：　授業の進め方など講義ガイダンス
2. 人は他者に出会ったときどのように推論するか
3. 人は他者をどのようにタイプ分けするか
4. ステレオタイプの問題点とその低減
5. 魅力ある人、好感の持てる人はどのような人か
6. 対人的影響
7. コミュニケーションとは何か・言語によるコミュニケーション
8. 言語によるコミュニケーションの事例
9. 非言語によるコミュニケーション
10. 非言語によるコミュニケーションの事例
11. 説得の方法
12. コミュニケーションと行動
13. うわさが伝わる背景
14. インターネット・コミュニケーションとうわさの事例
15. パニックとは：集団パニックが起きやすい状況
16. パニックの研究事例
17. リスク認知:人はどのように危険を認知し、行動するのか
18. リスク認知:リスクのものさしと人々の認知
19. 災害心理学　：　災害前の心理と行動
20. 災害心理学　：　災害後の心理と行動
21. 災害とストレス　：　災害直後、時間経過後のストレス
22. 大災害と人々の社会心理
23. ストレスとストレス・コーピング
24. ストレス・コーピングの具体例
25. 消費者の心理と行動
26. 消費行動に影響を与える要因
27. 社会心理学の主な研究方法:実験法、観察法
28. 社会心理学の主な研究方法:質問紙法、尺度につい
29. 社会心理学研究における主な分析例
30. 授業のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:40%:毎回の授業内で提出を求めるコメントの内容
(2)課題レポート:60%:中間レポート及び期末レポート
課題レポートの内容と提出方法、提出期限は授業内で提示することを厳守すること。

人間福祉総論

担当者：助川　征雄

開講期：春学期　　必修・選択：必修科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

人間福祉学科1年生を対象に、人間福祉学について総合的に理解させるための科目である。
具体的には、社会福祉の仕組み、歴史と入門的実践理論、専門援助技術、社会福祉各領域別の実践紹介、専門資格取得、さらには、進路選択（就職、進学等）、研究法、図書館等の利用の仕方などについても多面的に取り上げる。

２.学びの意義と目標

人間福祉は、さまざまな社会政治経済情勢の変動の中で、人間尊重を具現化し続け、真の福祉国家の樹立をめざす人類の英知であることを深く認識すること。

準備学習(予習)

各授業ごとに（2回目から）原則としてあらかじめレジメを配布するので、目を通し、疑問点などを洗い出しておくこと。

準備学習(復習)

授業内容は多岐に分かれているので、必ず、終了後は、資料の読み返しや要点確認を行うこと。また、適宜、指定図書、居住地の福祉情報の把握、ボランティア活動、社会福祉施設見学などを踏まえた自己課題を選択させ、小レポートを課すので、これらに積極的に取り組むこと。

授業計画

1. オリエンテーション（社会福祉の仕組み）
2. 図書館の使い方（演習を含む）
3. 人間福祉とは何か（歴史と視点）
4. 人間福祉とは何か（社会保障と公的扶助制度）
5. 人間福祉とは何か（専門援助の方法）
6. 人間福祉とは何か（児童福祉・家庭福祉）
7. 人間福祉とは何か（高齢者福祉）
8. 人間福祉とは何か（障がい者福祉１）
9. 人間福祉とは何か（障がい者福祉２）
10. 人間福祉とは何か（精神障がい者福祉1）
11. 人間福祉とは何か（精神障がい者福祉2）
12. 人間福祉と心理系の学び（1）
13. 人間福祉と心理系の学び（2）
14. 人間福祉と心理系の学び（3）
15. 人間福祉と心理系の学び（4）
16. 人間福祉と社会生活系の学び（１）
17. 人間福祉と社会生活系の学び（２）
18. 人間福祉と社会生活系の学び（３）
19. 人間福祉と社会生活系の学び（４）
20. 人間福祉と社会生活系の学び（５）
21. 人間福祉と社会生活系の学び（６）
22. 国家試験（専門資格取得）について
23. 社会福祉士とその職域
24. 精神保健福祉士とその職域
25. 心理系専門職とその職域
26. 福祉住環境コーディネーター等資格とその職域
27. 進路ガイダンス（キャリアサポートセンター１）
28. 進路ガイダンス（キャリアサポートセンター２）
29. 特別講義（福祉文化論等）
30. 研究（進学等）について、まとめ（レポート）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末レポート:50% (2)出席:50%

人間福祉の探求

担当者：古谷野　亘

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から１回ごとに異なるテーマで行われる。

２.学びの意義と目標

人間福祉学の最先端の研究の成果を知るとともに、研究することの意味と楽しさを理解する。

準備学習(予習)

次回の担当教員の著作に目を通しておくとよい。

準備学習(復習)

毎回の講義を振り返り、自分の意見をまとめる復習が必要。

授業計画

1. 研究するということ
2. 福祉理論のなかの地域福祉的要素
3. 高齢社会とユニバーサルデザイン
4. 高齢社会の元気高齢者
5. 精神保健福祉研究（イギリスのリカバリーリサーチ）
6. 精神保健福祉における新たな支援関係：プロシューマーの萌芽とうねり
7. 健康と環境
8. 生きにくさを抱える子どもの現代的課題： 出生前診断と障がい児
9. 子どもを研究する視座
10. 子ども虐待とネグレクト
11. 近代教育思想家の理論に学ぶ教育哲学
12. 児童文学に見る子どもと他者
13. 対人援助職のメンタルヘルス
14. 自殺予防
15. 死の臨床とスピリチュアルケア

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)レポート:40%

発達心理学Ａ

担当者：堀　恭子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

発達心理学ではヒトが誕生してから死を迎えるまでの心身構造や機能の変化について心理学的側面から検討します．発達のメカニズムについて研究方法の解説も交えながら学び、身近にある問題についても一緒に考えていきます．
発達心理学Aでは、誕生から社会人となる前までの発達について学びます．

２.学びの意義と目標

乳幼児、児童・生徒と関わり支援する場面で、対象者をより深く理解することは課題解決の一助となります．講義を通して得た基礎知識とその活用によって、乳幼児や児童・生徒への理解が深まることを目標とします．

準備学習(予習)

講義で扱われる内容に関するプリントを配布します．プリントについて講師が設定した問いに対する回答，疑問に思った事柄，まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出してもらいます．

準備学習(復習)

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識の整理を行います．

授業計画

1. 発達心理学の基礎となる知識
2. 胎児の発達
3. 身体発達の原理と新生児の発達
4. 乳児期における発達（１）
5. 乳児期における発達（２）
6. 幼児期の発達（１）
7. 幼児期の発達（２）
8. 幼児期の発達（３）
9. まとめ：胎児-乳幼児の発達
10. 中間テストと解説
11. 児童期の発達（１）
12. 児童期の発達（２）
13. 青年期の発達（１）
14. 青年期の発達（２）
15. まとめ：児童期～青年期

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)中間テスト:40% (3)期末テスト:30%

発達心理学Ｂ

担当者：堀　恭子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

発達心理学ではヒトが誕生してから死を迎えるまでの心身構造や機能の変化について心理学的側面から検討します．発達のメカニズムについて研究方法の解説も交えながら学び、身近にある問題についても一緒に考えていきます．
発達心理学Bでは成人に達してから死に至るまでの発達について学びます．

２.学びの意義と目標

個人としての成人理解だけでなく、乳幼児・児童・生徒の家族としての成人や中年と高齢の親子を理解することは、個人理解だけでなく、個人を取り巻く人間関係を理解することになり、ケースをより深く理解することにつながります．講義を通して得た基礎知識とその活用によって、人間関係理解に視点が移動することを目標とします．

準備学習(予習)

講義で扱われる内容に関するプリントを配布します．プリントについて講師が設定した問いに対する回答，疑問に思った事柄，まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出してもらいます．

準備学習(復習)

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識の整理を行います．

授業計画

1. 発達心理学の基礎となる知識／発達理論と発達課題
2. 青年期の発達（１）
3. 青年期の発達（２）
4. 成人期の発達（１）
5. 成人期の発達（２）
6. 成人期の発達（３）
7. まとめ：青年期～成人期
8. 中間テストと解説
9. 高齢期の発達（１）
10. 高齢期の発達（２）
11. 高齢期の発達（３）
12. 高齢期の発達（４）
13. 高齢期の発達（５）
14. 高齢期の発達（６）
15. まとめ：高齢期

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)中間テスト:30% (3)期末テスト:40%

福祉英語Ａ

担当者：森　容子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

本授業では、体の部位、症状や怪我に関する医療英語及び介護器具などの福祉に関する英単語を学習すると同時に、病院や福祉施設で必要とされる英会話を習得する。

２.学びの意義と目標

福祉に関する英語を習得することによって、福祉英語検定対策をするとともに、現場で困らない基礎的な英語力を養う。

準備学習(予習)

その都度授業中に指示する

準備学習(復習)

その都度授業中に指示する

授業計画

1. 授業を始めるにあたって
2. 基本コミュニケーションに必要な英語表現
3. 体の部位に関する英単語
4. 病状や怪我に関する英単語
5. 診断時の会話
6. リハビリでの会話
7. 介護福祉関連の英単語
8. 福祉英語検定試験対策１
9. 福祉英語検定対策２
10. 医療関連の語彙の覚え方
11. 基本動作の会話表現
12. 訪問と訪問予約
13. 個人情報の聞き方
14. 施設内道案内
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席参加度:30% (2)宿題:30% (3)テスト:40%

福祉英語Ｂ

担当者：森　容子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

本授業では、福祉英語Ａに続いて、さらに医療英語及び介護・福祉関連の英単語の知識を深めると同時に、病院や福祉施設で必要とされる英会話を習得する。今回はリーディングとリスニングの学習も含める。

２.学びの意義と目標

福祉に関する英語を習得することによって、福祉英語検定対策をするとともに、現場で困らない基礎的な英語力を養う。

準備学習(予習)

その都度授業中に指示する

準備学習(復習)

その都度授業中に指示する

授業計画

1. 授業を始めるにあたって
2. 福祉関連の英単語
3. 介護関連の英単語
4. 映画やドラマを通して福祉英語を学ぶ１
5. 映画やドラマを通して福祉英語を学ぶ２
6. 薬と薬に関連した英会話
7. 福祉施設で使える英語表現
8. 福祉英語検定試験対策１
9. 福祉英語検定対策２
10. 福祉関連の語彙の覚え方
11. バイタルサイン
12. 福祉関連の英語情報を読解１
13. 福祉関連の英語情報を読解２
14. 介護の説明
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席参加度:30% (2)宿題:30% (3)テスト:40%

福祉環境論Ａ

担当者：野口　祐子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

本講義では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、障がい者、高齢者を含む全ての人々が豊かに暮らすための環境整備のあり方について学びます。理解を深めるため、講義にあわせ、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めていきます。

２.学びの意義と目標

障がい者や高齢者、さらにはすべての人が豊かに暮らすための環境整備について、その基礎にある考え方や基本的な解決方法の理解を目標とします。すべての授業を受講してはじめて、それらを理解することができますので、全出席を目指してください。

準備学習(予習)

実習等は配布されたプリントやノートで予習し、十分理解してからのぞみましょう。

準備学習(復習)

毎回、授業中に完成させたプリントを整理し、さらに調べたことを書き込むなどして自分のノートを完成させてください。

授業計画

1. 福祉環境論とは
2. 環境と障がい、ノーマライゼーションと環境整備
3. 街の中のバリアフリー　その１
4. 街の中のバリアフリー　その２
5. 福祉のまちづくりの歴史と制度
6. 環境と障がいの実例
7. 実習事前学習
8. 実習１：車いす体験、視覚障害体験
9. 実習２：バリアフリー調査
10. バリアフリー調査発表
11. ノーマライゼーションと福祉のまちづくりについてのまとめ
12. 空間と心理、福祉施設の空間構成
13. ユニバーサルデザインの成り立ちと理念
14. 実習３：ユニバーサルデザイン実習
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)実習レポート:30% (3)期末試験:30% (4)発表:10%

福祉環境論Ｂ

担当者：山田　義文

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

住まいは，私たちの日々の営みの基本です．乳幼児や高齢の人，障がいを持つなど誰もが快適で安心できる生活を送る続けるためには，その基本となる住環境が十分に整っていることが前提となります．それには，住環境を利用する様々な立場の人の視点に改めて立ち返り，多角的な視点から検討を重ねることが必要になります．福祉環境論Bを学んだ意義を今後も皆さんが抱き続けられるよう，長期的な視点に立った考察を深めてゆきます．

２.学びの意義と目標

身近な住環境における現状の問題点を的確に把握できる視点を身につけ，それに対する具体的な改善案を示せるようになることを本講義の目標とします．講義では最新のトピックを紹介しながらスライドも活用することで，実際の住環境改善状況や問題点を分かりやすく示し，学生が主体となり，自身の考えを展開してゆけるように配慮します．

準備学習(予習)

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ，講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと．

準備学習(復習)

配布プリント末尾の確認問題を必ず解き，講義で理解できなかった部分を各自で確認し，疑問点は質問すること．また，身近な住環境に対して，講義で学んだ視点を踏まえて検証することも講義の理解を深める上で重要な復習になります．

授業計画

1. オリエンテーション．スケジュールと講義概要，講義のねらいと成績評価について
2. 福祉環境論Bを学ぶ意義と社会における位置付け
3. 高齢の人や障がいを持つ人の心身機能と行動特性
4. 身近な住環境に潜在する様々な障壁
5. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方
6. 出入口・通路・廊下における住環境整備方法
7. 住宅内の居室やサニタリースペースにおける住環境整備方法
8. 福祉用具を用いた住環境改善方法
9. 介護保険制度を利用した高齢者住宅改修の現状と効果
10. 演習　身近な住環境の改善（１）
    課題説明，身近な住環境に対する評価
11. 演習　身近な住環境の改善（２）　プレゼンテーションの作成，指導，質疑応答
12. 演習　身近な住環境の改善（３）　プレゼンテーションと講評
13. 高齢者の居住環境における最近の動向
14. 高齢者の居住環境における今後の課題
15. まとめ，定期試験に関する説明

教科書

プリントを配布する

評価方法

出席が３分の２以下の場合は，単位を認定しません．

福祉行財政と福祉計画

担当者：大塚　健司

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・社会福祉の法体系
・福祉行財政の実施体制
・福祉計画の役割と考え方
・福祉計画の実際

２.学びの意義と目標

・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。
・福祉行財政の実際について理解する。
・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

準備学習(予習)

教科書及び配布する資料を読み込むこと。

準備学習(復習)

教科書等を読んでおくこと。

授業計画

1. 社会福祉の法体系　(1)社会福祉関係法の発展段階
2. 社会福祉の法体系　(2)社会福祉関係法の構造
3. 福祉行財政の実施体制　(1)社会福祉基礎構造改革と社会福祉法
4. 福祉行財政の実施体制　(2)福祉行政の実施体制
5. 福祉行財政の実施体制　(3)福祉行政の組織及び専門職の役割
6. 福祉行財政の実施体制　(4)福祉に関する公私の関係
7. 福祉行財政の実施体制　(5)福祉の財政
8. 福祉行財政の実施体制　(6)福祉行財政の動向と課題
9. 福祉計画の役割と考え方
(1)福祉計画の意義と目的・福祉行財政と福祉計画の関係
10. 福祉計画の役割と考え方 (2)福祉計画の主体と方法
11. 福祉計画の役割と考え方 (3)福祉計画の種類とその関係
12. 福祉計画の役割と考え方
(4)福祉計画の策定方法と留意点・福祉計画の評価方法
13. 福祉計画の実際　(1)福祉計画の実際①（地域福祉計画）
14. 福祉計画の実際　(2)福祉計画の実際②（老人福祉計画・介護保険事業計画）
15. 福祉計画の実際　(3)福祉計画の実際③（障害者計画・障害福祉計画・次世代育成支援行動計画）

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座１０福祉福祉行財政と福祉計画』(中央法規出版株式会社)

評価方法

(1)中間レポート:20% (2)期末試験:70% (3)出席率:10%

福祉心理学

担当者：堀　恭子

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかったときにどうするか」について学ぶ機会は少ない．福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、講義の前半では主に援助者に起きることについて学び、後半では具体的な対人援助場面において、援助者・被援助者・援助場面に起きることについて紹介し、受講者と共に対人援助について考えていきたい．

２.学びの意義と目標

対人援助について、援助者・被援助者・援助場面の各々について考えていくことは、対人援助の質向上と対人援助者のメンタルヘルスに寄与する．受講者が、対人援助について考える時、一方的な視点ではなく、双方向的な視点を持って対人援助場面を捉えることができるように目標を設定する。

準備学習(予習)

講義で扱われる内容に関するプリントを配布する．受講者はプリントについて講師が設定した問いに対する回答，疑問に思った事柄，まだよく分からない事柄に関するショートレポートを提出する．

準備学習(復習)

講義内容について、ショートレポートを活用して復習と定着をはかり、中間・期末のまとめによって知識と思考整理を行う．

授業計画

1. 対人援助を理解する（１）対人援助に向いているか
2. 対人援助を理解する（２）学びと訓練を効果的にする方法
3. 対人援助を理解する（３）援助の理論
4. 対人援助を理解する（４）援助過程
5. 対人援助を理解する（５）初心者が直面する問題
6. 対人援助を理解する（６）倫理的問題
7. 対人援助を理解する（７）価値観と援助関係
8. まとめ：対人援助者を理解する
9. 看護場面における援助
10. 社会福祉領域における援助
11. 特別支援教育における援助
12. 心理臨床における援助
13. 障がい者就労場面での援助
14. 人はなぜ援助するか／どのように援助するか
15. まとめ：

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義内課題:30% (2)中間レポート:30% (3)期末レポート:40%

法学

担当者：松村　芳明

開講期：秋学期　　必修・選択：選択必修科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容
・社会生活と法
・憲法・民法・行政法
・利用者の人権と個人情報保護

２.学びの意義と目標
・社会生活における法の作用や役割について理解する。
・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等、社会福祉士に必要な内容ついて理解する。

準備学習(予習)

次回の内容について、指示されたプリント等の該当箇所を読み、六法等を参照しておくこと。

準備学習(復習)

プリント・講義ノートを読み返すことにより講義で得た知識を整理すること。

授業計画

1. 社会生活と法　（1）社会規範としての法
2. 社会生活と法　（2）社会福祉士と法のかかわり
3. 憲法　（1）憲法の基本概念
4. 憲法　（2）日本国憲法の基本原理　①国民主権・平和主義
5. 憲法　（3）日本国憲法の基本原理　②基本的人権の性質と分類
6. 憲法　（4）日本国憲法の基本原理　③基本的人権　i.自由権
7. 憲法　（5）日本国憲法の基本原理　④基本的人権　ii.社会権
8. 憲法　（6）日本国憲法の基本原理　⑤基本的人権　iii.新しい人権
9. 憲法　（7）日本国憲法の基本原理　⑥統治機構・財政
10. 憲法　（8）日本国憲法の基本原理　⑦地方自治
11. 民法　（1）権利能力・意志能力・代理
12. 民法　（2）契約の成立と有効要件・売買契約
13. 民法　（3）契約の目的物・債権の担保
14. 民法　（4）不法行為
15. 民法　（5）親族　①婚姻・離婚
16. 民法　（6）親族　②親子・扶養
17. 民法　（7）法定相続・遺言
18. 民法　（8）成年後見制度　①成年後見制度の創設・法定後見制度の仕組み
19. 民法　（9）成年後見制度　②任意後見制度の仕組み
20. 民法　（10）成年後見制度　③)成年後見制度の現状と課題
21. 行政法　（1）行政法の基本・行政行為
22. 行政法　（2）行政手続き
23. 行政法　（3）行政不服審査
24. 行政法　（4）行政訴訟
25. 行政法　（5）国家賠償
26. 行政法　（6）情報公開
27. 行政法　（7）地方行政組織
28. 行政法　（8）行政契約・社会福祉サービスの利用関係
29. 利用者の人権と個人情報保護　(1)個人情報保護法の概要
30. 利用者の人権と個人情報保護　(2)社会福祉サービスと個人情報の保護

教科書

笠井正俊ほか編『岩波セレクト六法』(岩波書店)

評価方法

(1)課題:40% (2)試験:60%

保健医療サービス

担当者：中村　磐男

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

・医学と社会
・公衆衛生の動向と対策
・医療保険制度（診療報酬を含む）の概要
・保健医療サービスの概要
・保健医療サービスにおける専門職の役割
・保健医療サービス関係者との連携と実際

２.学びの意義と目標

・相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。
・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

準備学習(予習)

予習:教科書を必ず購入のこと。教科書の該当箇所を予め読み、わからない箇所をメモしておく。

準備学習(復習)

復習:その日のキーワード、返却された前回小テストの誤答箇所を復習・確認する。

授業計画

1. 医学と社会　（１）疾病と生活問題
2. 医学と社会　（２）医療技術の発展と生命倫理
3. 公衆衛生の動向と対策　人口静態・人口動態
4. 医療保険制度　（１）医療保障
5. 医療保険制度　（２）医療費に関する政策動向
6. 診療報酬　（１）診療報酬制度の概要・診療報酬と医療機関の関係
7. 診療報酬　（２）診療報酬制度改正の動向と課題
8. 保健医療サービスの概要　（１）保健の動向と対策
9. 保健医療サービスの概要　（２）医療施設の概要
10. 保健医療サービスにおける専門職の役割　（１）医療従事者とその役割
11. 保健医療サービスにおける専門職の役割　（２）インフォームド・コンセントの意義と実際
12. 保健医療サービスにおける専門職の役割　（３）医療ソーシャルワークの歴史的展開・医療ソーシャルワーカーの業務指針
13. 保健医療サービスにおける専門職の役割　（４）医療ソーシャルワークの実際
14. 保健医療サービス関係者との連携と実際　（１）医師、看護師、保健師等との連携と実際
15. 保健医療サービス関係者との連携と実際　（２）地域の社会資源との連携

教科書

全国社会福祉協議会『医学一般 改訂版―人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス(社会福祉学習双書 14巻)』(全国社会福祉協議会)

評価方法

(1)受講態度:30%:出席状況、着席位置を含む
(2)小テスト:30%:毎回実施する (3)期末テスト:40%

ボランティア論Ｂ

担当者：川田　虎男

開講期：秋学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

〈内容〉

ボランティア論Bでは、本来ボランティア論を受講済みの方、ないしはボランティア実践者に限定した少人数によるグループワークを中心とした内容を予定していましたが、本年度についてはボランティア論Bのみの開設となったため、講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティアについての基礎的な知識また、実際の活動内容について学びます。

基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無はといません。

２.学びの意義と目標

東日本大震災においても多くのボランティア活動が注目されていますが、自分たちの日常レベルに落として現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。

準備学習(予習)

実際のボランティア活動への参加があるとより学びが深まります。
授業では毎回一定程度の分量の振り返りシートの記入をしていただく予定です。

準備学習(復習)

講義内で感じたことを受けて、どのようなアクションが可能かを絶えず想像してください。昨年度は、そのような振り返りからいくつかのプロジェクトが誕生しました。積極的な参加をお願いします。

授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアの定義と活動分野
3. ボランティア活動者に聞く「バリアフリーマップとボランティア」
4. 市民活動・NPO法人とボランティア
5. 大学生とボランティアI
6. 大学生とボランティアII
7. ワークショップI「ボランティアの種を探す」
8. ボランティアセンターとボランティアコーディネーション
9. 実際のボランティア活動を知るI「災害ボランティア」
10. 実際のボランティア活動を知るII「コミュニティ活動ボランティア」
11. 実際のボランティア活動を知るIII「環境ボランティア」
12. 実際のボランティア活動を知るIV「国際ボランティア」
13. ワークショップII「ボランティア講座企画」
14. ワークショップIII「ボランティア講座企画」発表
15. 試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:25% (2)授業への参加度:25% (3)中間レポート:20%:授業期間中にボランティア体験を実施し、そのレポートを提出していただきます。 (4)試験:30%

リハビリテーション論

担当者：下岡　隆之

開講期：秋学期集中　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週1回　　単位数：2単位

講義概要

１.内容

本講義のテーマは、リハビリテーションとは何であるかを歴史や理念、実際から学ぶ事である。“リハビリ”という言葉が一般的になっているが、リハビリテーション本来の理念や定義を熟考しつつ、保健医療福祉分野での実践を紹介する。

カリキュラム上の位置づけとしては，専門科目ではあるが、今後習得する科目に活かせる点において基礎的科目といえる。

２.学びの意義と目標

・リハビリテーションの理念を理解する
・リハビリテーションの対象を理解する
・具体的な介助方法の一部を知る
・リハビリテーション関連職種間の連携を理解する
・リハビリテーションを通して人の生活を考える

準備学習(予習)

講義では，グループワークや発表も取り入れる予定です．積極的な参加を求めます．

準備学習(復習)

講義の内容を復習すること．

授業計画

1. オリエンテーション　リハビリテーションのイメージ
2. リハビリテーションの歴史と理念・定義
3. 国際生活機能分類（ICF）
4. リハビリテーションの対象（身体障害）
5. リハビリテーションの対象（精神障害）
6. リハビリテーションの対象（発達障害）
7. リハビリテーションの対象（老年期障害）
8. リハビリテーションに関わる社会保障
9. リハビリテーションの評価
10. 急性期・回復期・維持期のリハビリテーション
11. 日常生活活動と生活の質
12. 多専門職種間連携
13. 福祉用具
14. 事例紹介
15. まとめ

教科書

安藤 徳彦 『リハビリテーション序説』 (医学書院)

評価方法

(1)試験:100%

臨床心理学

担当者：長谷川　恵美子

開講期：春学期　　必修・選択：選択科目　　授業回数：週2回　　単位数：4単位

講義概要

１.内容

臨床心理学は心理学の一研究分野であるとともに、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学でもある。授業では、その歴史、発達理論や人格理論などの基礎理論、心理査定や心理療法などの方法論について、学校、産業、医療、福祉などの視点から、それぞれの領域での事例などを含めながら概説し理解を深める。

２.学びの意義と目標

臨床心理学の基礎知識を身につけるとともに、上記で紹介した各領域での応用の仕方を学び、実際の臨床、ボランティアの現場にて、統合的な支援を検討することができるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

また配布した資料は熟読し参加することを期待する。

準備学習(復習)

授業で取り扱ったテーマについて、受講者の興味関心にあわせ、紹介した文献などで知識を深めることを期待する。

授業計画

1. この授業に関するガイダンス
2. 臨床心理学とは
3. 臨床心理学の歴史１
4. 臨床心理学の歴史２
5. 臨床心理学の基礎理論（精神分析を中心に）
6. 臨床心理学の基礎理論（イメージの心理学）
7. 臨床心理学の基礎理論（行動論的立場から）
8. 臨床心理学の基礎理論（認知的立場から）
9. 臨床心理学の基礎理論（発達論的立場から）
10. 臨床心理学の基礎理論（統合的心理療法）
11. 心理アセスメントとは
12. 心理アセスメントの実際(診断基準)
13. 心理アセスメントの実際(知的側面の把握)
14. 心理アセスメントの実際(認知的側面の把握)
15. 心理アセスメントの実際(人格的側面の把握)
16. 心理アセスメントの解釈(基礎)
17. 心理アセスメントの解釈(実践編)
18. 臨床心理学的援助とは
19. 臨床心理士による支援とは
20. 心理臨床の実際(幼少期の問題)
21. 心理臨床の実際(思春期を考える)
22. 心理商法の実際（青年期を考える）
23. 心理臨床の実際(中高年を考える)
24. 心理臨床の実際(産業領域のシステム)
25. 心理療法の実際（家族への支援）
26. 心理臨床の実際(医療分野と臨床心理学)
27. 心理臨床の実際(疾患を抱えた人への支援)
28. 心理臨床の実際(高齢者への支援)
29. 心理臨床の実際(最近の心理療法)
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)平常点:60% (2)レポート:40%